

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32

平成27年度発掘調査報告

(第2分冊)

若宮大路周辺遺跡群

大倉幕府周辺遺跡群

若宮大路周辺遺跡群

台 山 遺 跡

平成28年3月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32

平成27年度発掘調査報告

(第2分冊)

若宮大路周辺遺跡群

大倉幕府周辺遺跡群

若宮大路周辺遺跡群

台 山 遺 跡

平成28年3月

鎌倉市教育委員会



若宮大路周辺遺跡群（大町一丁目1034番9）Ⅱ区第2面道路1b（北東から）



若宮大路周辺遺跡群（大町一丁目1034番9）第1面出土線刻硯

ご あ い さ つ

本市は、市域のおおよそ6割が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

近年、古い家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が増加し、長い年月地下で眠っていた文化財が失われることも増加してきています。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・19・22・26年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査6ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉が歩んできた歴史を解き明かす一助となればと願う次第です。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなお協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成28年3月31日

鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成27年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書である。
- 2 本書所収の調査地点は別図のとおりである。また掲載分冊については、第1分冊に掲載した表のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

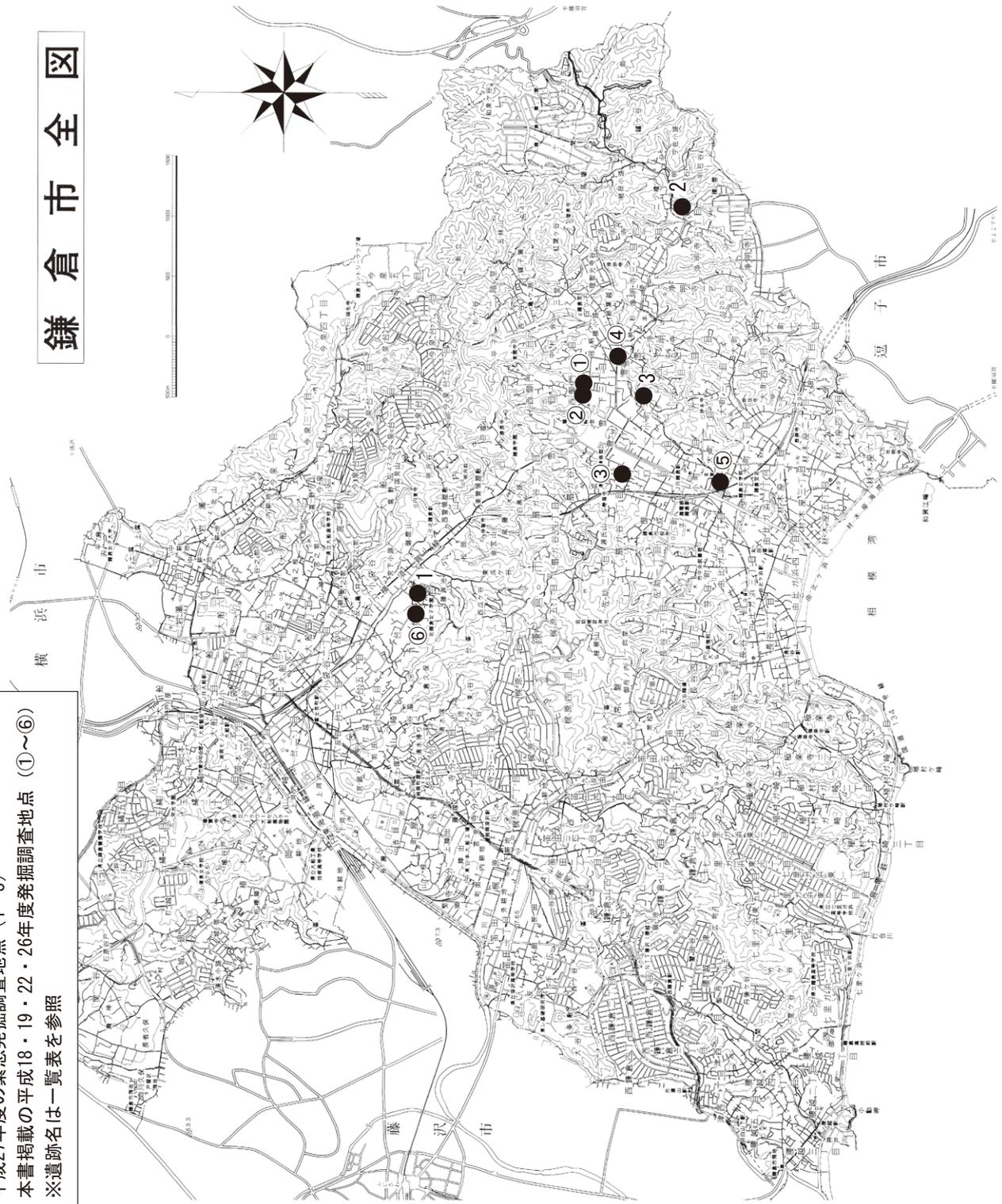
総目次

(第2分冊)

例言	II
目次	III
3 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 小町二丁目24番14地点	
第一章 遺跡と調査地点の概観	6
第二章 調査の概要	17
第三章 調査結果	19
第四章 自然科学分析	58
第五章 まとめと考察	71
4 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下字天神前562番30地点	
第一章 遺跡と調査地点の概観	99
第二章 調査の概要	104
第三章 調査結果	106
第四章 まとめと考察	139
5 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 大町一丁目1034番9地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	161
第二章 調査の方法と経過	163
第三章 基本土層	164
第四章 発見された遺構と遺物	170
第五章 調査成果のまとめ	193
6 台山遺跡 (No.29) 台字西ノ台1418番10地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	247
第二章 調査の方法と経過	250
第三章 基本土層	252
第四章 発見された遺構と遺物	253
第五章 調査成果のまとめ	260
付編 台山遺跡のテフラ	261

鎌倉市全図

平成27年度の緊急発掘調査地点 (1~3)
本書掲載の平成18・19・22・26年度発掘調査地点 (①~⑥)
※遺跡名は一覧表を参照



わかみやおおじしゅうへん いせきぐん
若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

小町二丁目 24 番 14 地点

例 言

1. 本報は、「若宮大路周辺遺跡群」(No.242)内、小町二丁目24番14地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 調査期間 平成19(2007)年8月28日～平成19(2007)年9月26日
3. 調査面積 14.50m²
4. 略 称 WK224
5. 調査体制
 - 担 当 者 馬淵和雄
 - 調 査 員 宇都洋平・鍛冶屋勝二・松原康子・岩崎卓治(資料整理)・沖元道(同前)
本城裕(同前)
 - 調査補助員 佐藤あおい・佐藤千尋(資料整理)・吉田麻子(同前)
 - 作 業 員 小口照男・河原龍雄・中須洋二(以上(社)鎌倉市シルバー人材センター)
6. 本報作成分担
 - 遺構図整理 沖元
 - 遺物実測 岩崎・沖元・本城・松原
 - 同墨入れ 岩崎
 - 同観察表 吉田・沖元
 - 同計量表 沖元
 - 同写真撮影 沖元
 - 図版作成 沖元・佐藤(千)
 - 原稿執筆 沖元
 - 編集 沖元
7. 整理段階において、遺物の分類及び編年は以下を参考にした。
 - 土 師 器 皿：馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社
 - 瓦 戸：原 廣志2002「第4章 出土瓦について」『永福寺跡-遺物・考察編-』鎌倉市教育委員会
 - 瀬 戸：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - 尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - 常 滑：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県
 - 渥 美：安井俊則2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県
 - 貿易陶磁：太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』
8. 本報告掲載の現地写真は馬淵・宇都・鍛冶屋が撮影した。
9. 発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
10. 本報告では世界測地系(第IX系)の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。
11. 第四章は分析を株式会社パレオ・ラボに業務委託し、原稿を佐々木由香氏・バンダリ・スダルジャン氏・森将志氏に賜わった。

本報告作成に際し、次の方々の御教示を得た。記して感謝したい。

押木弘己・汐見一夫・原廣志

目次

本文目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	6
1. 位置と地勢	
2. 歴史的環境	
第二章 調査の概要	17
1. 調査にいたる経緯	
2. 調査の経過	
3. 調査方法	
第三章 調査結果	19
第1節 概要	
1. 層序と面の概要	
第2節 各説	
1. 1面	
2. 2面	
3. 3a面	
4. 3b面	
5. 3c面	
6. 4a面	
7. 4b面	
8. 5a面	
9. 5b面	
10. 6a面	
11. 6b面	
12. 7面	
13. 8面	
14. 9面	
15. 表採遺物	
16. 土層断面出土遺物	
第四章 自然科学分析	58
第1節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体 佐々木由香・バンダリ スダルシャン	
第2節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析 森 将志	
第3節 若宮大路周辺遺跡群(鎌倉市小町二丁目24番14地点)から出土した大型植物遺体 バンダリ スダルシャン・佐々木由香	
第4節 若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析 森 将志	
第五章 まとめと考察	71
1. 遺構の変遷と年代	
2. 土坑内繊維質土の土壌分析から	

挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡……………7	図15 4 a面遺構全図、同出土遺物・4 b面遺構全図、 同出土遺物・溝3、同出土遺物……………34
図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)……11	図16 4 b面構築土内出土遺物……………35
図3 調査区設定図……………18	図17 5 a面遺構全図、同出土遺物……………36
図4 調査区土層断面図……………20	図18 5 b面遺構全図、同出土遺物、土坑5、 同出土遺物・5 b面構築土……………37
図5 1面遺構全図、同出土遺物・ 建物1・土坑1・P.3、同出土遺物……………24	図19 6 a面遺構全図、同出土遺物・ 6 a面構築土内出土遺物……………38
図6 土坑2、同出土遺物・1面ピット出土遺物…25	図20 6 b面遺構全図、同出土遺物……………39
図7 2面遺構全図、同出土遺物・溝1、 同出土遺物・溝2・土坑3、 同出土遺物・P.47・2面ピット出土遺物…26	図21 6 b面構築土内出土遺物……………40
図8 2面構築土内出土遺物……………27	図22 7面遺構全図、同出土遺物・ 板列裏込め出土遺物……………41
図9 3 a面遺構全図、同出土遺物……………28	図23 8面遺構全図、同出土遺物・ 9面遺構全図、同出土遺物……………42
図10 3 a面構築土内出土遺物……………29	図24 箸状木製品寸法分布……………54
図11 3 b面遺構全図、同出土遺物・ 3 b面遺物集中部、同出土遺物(1)……………30	図25 遺構変遷図……………72
図12 3 b面遺物集中部出土遺物(2)……………31	図26 南側隣地調査区と本調査区……………73
図13 土坑4、同出土遺物 ・3 b面ピット出土遺物……………32	図27 各遺構繊維質土採集土層図……………75
図14 3 c面遺構全図、同出土遺物・ 3 c面構築土内出土遺物……………33	

表 目 次

表1 出土遺物観察表(1)……………44	表8 出土遺物観察表(8)……………51
表2 出土遺物観察表(2)……………45	表9 出土遺物観察表(9)……………52
表3 出土遺物観察表(3)……………46	表10 出土遺物観察表(10)……………53
表4 出土遺物観察表(4)……………47	表11 出土遺物観察表(11)……………54
表5 出土遺物観察表(5)……………48	表12 出土遺物計量表(1)……………55
表6 出土遺物観察表(6)……………49	表13 出土遺物計量表(2)……………56
表7 出土遺物観察表(7)……………50	表14 出土遺物計量表(3)……………57

図 版 目 次

図版1……………77	1-7 1面全景(南から)
1-1 調査地点近景①(南から)	図版2……………78
1-2 調査地点近景②(西から)	2-1 1面全景(西から)
1-3 調査地点近景③(北から)	2-2 2面全景(南から)
1-4 調査地点近景④(西から)	2-3 2面全景(東から)
1-5 1面土坑2掘削前全景(南から)	2-4 3a面遺物(図9-10・11・16)出土状況(東から)
1-6 1面土坑2掘削前全景(東から)	2-5 3b面土坑4掘削前全景(南から)①

2 - 6	3b面土坑4掘削前全景(東から)①	5 - 4	8面土師器皿(図23-1・2)出土状況(東から)
2 - 7	3b面北西部遺物出土状況(南から)	5 - 5	最終トレンチ西壁土層断面
2 - 8	3b面土坑4掘削前全景(南から)②	図版682
図版379	6 - 1	北壁土層断面
3 - 1	3b面土坑4掘削前全景(東から)②	6 - 2	東壁土層断面
3 - 2	3b面北東部遺物出土状況(北から)	図版783
3 - 3	3b面漆器椀(図12-28)出土状況(東から)	7 - 1	1面土坑2東西ベルト土層断面(南から)
3 - 4	3b面全景(南から)	7 - 2	3a面中央ベルト土層断面(南東から)
3 - 5	3b面全景(東から)	図版8	出土遺物1.....84
3 - 6	3b面土坑4(南から)	図版9	出土遺物2.....85
3 - 7	3c面全景(東から)	図版10	出土遺物3.....86
3 - 8	4a面全景(南から)	図版11	出土遺物4.....87
図版480	図版12	出土遺物5.....88
4 - 1	4a面全景(東から)	図版13	出土遺物6.....89
4 - 2	4a面礎板出土状況(北から)	図版14	北条小町邸跡の土坑16から出土した大型植物遺体.....90
4 - 3	4b面全景(南から)	図版15	若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した大型植物遺体.....91
4 - 4	4b面全景(東から)	図版16	北条小町邸と若宮大路周辺遺跡群から産出した花粉化石・寄生虫卵.....92
4 - 5	5a面全景(南から)	図版17	若宮大路周辺遺跡群の土坑5から出土した大型植物遺体.....93
4 - 6	5b面全景(南から)	図版18	若宮大路周辺遺跡群(土坑5)から産出した花粉化石・寄生虫卵.....94
4 - 7	5b面全景(東から)		
図版581		
5 - 1	6面全景(南から)		
5 - 2	7面板列(南から)		
5 - 3	8面全景(西から)		

第一章 遺跡と調査地点の概観

1. 位置と地勢

地勢

鎌倉中心部は、鶴岡八幡宮から海に向かって真っ直ぐ伸びる若宮大路を基軸として、それにほぼ平行した東西2本の南北大路、および直交する何本かの東西道路により区画される。市街地のほとんどの地下には中世都市遺跡が存在する。

調査地点は若宮大路の西方、扇川の左岸に位置する。調査地点一帯は3 m程度掘り下げた、海拔5～6 mほどで地山を検出するため、元は扇川によって形成された低地であった可能性がある。この扇川は海蔵寺あたりを水源とし、扇ガ谷の狭い谷を開析したあと、窟堂あたりから低地を形成しつつ、横須賀線と若宮大路が交差するあたりで滑川と合流する。

2. 歴史的環境

縄文～古墳時代

縄文海進期、鎌倉市街地は全体的に水面下であったと考えられる。旧市内では荏柄天神社前の民家での井戸掘削時に諸磯式と阿玉台式(赤星1959)、15世紀以降に人為的に滑川を埋めた土中から加曾利E式と縄文晩期から弥生前期にかけての土器(馬淵2014)、現在の横浜国大付属小学校敷地内から称名寺式(赤星1959)の出土が知られる程度で、全体的にきわめて乏しい。

上本進二氏によれば、当初鎌倉中心部の沖積平野中心部を流れていた古滑川が、現在の位置に近い東の山裾に流路を変えるのは縄文時代晩期から弥生中期にかけてである(上本2000)。

旧市街で人の生活痕跡が確認されるのは弥生時代中期後半からである。この時期以降、大倉から二階堂にかけて大規模な集落が形成される(馬淵1998・1999、齋木ほか2007)。当地点付近では地点51(服部・宍戸1986)の河川にて弥生後期以降の土器が出土している。

古墳時代の集落・住居址は、海岸部の砂丘上、二階堂付近の平坦な微高地で発見されているが、当地点付近では、扇川の右岸でいくつか古墳後期の報告事例がある。地点79(齋木ほか1982)、地点80(松尾・継1993)・82(菊川ほか1999)・地点84(熊谷満2003)において竪穴住居址1棟を検出、地点181では7世紀中葉を上限とする竪穴住居址と溝が検出されている(菊川ほか2008)。地点169において古墳時代土師器が出土する中世基盤層下層の粘土層内の花粉分析が行われている。この結果、イネ科のプラントオパールが検出されていることから、この一帯で水田耕作がおこなわれていた可能性がある(鈴木1996)。

律令期～平安時代後期

鎌倉の文字史料上の最も早い年紀は綾瀬市宮久保遺跡出土木簡に「鎌倉郷鎌倉里 軽マ□寸稻 天平五年九月」とあるものである(國平・長谷川1990)。文献史料上では、天平七年(735年)の裏書を持つ『相模国封戸租交易帳』(『正倉院文書』正集十八、神奈川県史資料編1-58)に「従四位下高田王食封 鎌倉郡鎌倉郷参捨戸 田壹伯参拾伍町壹伯玖歩」とあるものが知られている。この『相模国封戸租交易帳』に見える郷名のうち、他に尺度郷、荏草郷が鎌倉郡内とされる。承平年間(931年-938年)に編纂された『和名類聚抄』(高山寺本、神奈川県史資料編1-490)には、鎌倉郡内の郷名として沼濱、鎌倉、埼玉、荏草、梶原、尺度、大島が見える。この他に天平勝宝元年(749年)の『調庸布墨書』(東大寺正倉院御物、神奈川県史資料編1-102)に「相模国鎌倉郡方瀬郷」と見える。これらの郷のうち荏草郷については、



図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡 (1/5000)

若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 本調査地点 小町二丁目 24-14
1.雪ノ下一丁目 148-4・190-1 (2013調査) 宮田2014「第24回
鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古
学研究所・鎌倉市教育委員会 2.雪ノ下一丁目 161-33 (2003調
査) 馬淵2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市
教育委員会 3.雪ノ下一丁目 187-4 (2008調査) 4.雪ノ下一丁目
200-3 (2001調査) 宗臺秀・宗臺富2003「鎌倉市埋蔵文化財緊
急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 5.雪ノ下一丁目 210 (1988
調査) 馬淵1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市
教育委員会 6.雪ノ下一丁目 198-1 (2002調査) 神奈川県教育委
員会2003「神奈川県埋蔵文化財調査報告45」神奈川県教育委
員会 7.雪ノ下一丁目 198-6 (1998調査) 小林ほか2000「鎌倉市
埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市教育委員会 8.扇ヶ谷
一丁目 110-8 (2009調査) 滝澤2012「若宮大路周辺遺跡群 (No.
242) 発掘調査報告書」博通 9.小町二丁目 39-6 (1987-88調査)
田代ほか1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市
教育委員会 10.小町二丁目 24-20 (2007調査) 滝澤2010「若宮
大路周辺遺跡発掘調査報告書」株式会社博通 11.小町二丁目
43-2 (2008調査) 12.小町二丁目 276他 (1987調査) 神奈川県教
育委員会1990「神奈川県埋蔵文化財調査報告書31」神奈川県
教育委員会 13.小町二丁目 54-3 (1998調査) 原2000「第8回
鎌倉市内遺跡調査・研究発表会」鎌倉考古学研究所・鎌倉市
教育委員会 14.小町二丁目 279-2 (1989調査) 神奈川県教育委員
会1991「神奈川県埋蔵文化財調査報告33」神奈川県教育委員
会 15.小町二丁目 280-3・12 (1999調査) 齋木・降矢1999「鎌
倉考古45」鎌倉考古学研究所 16.小町二丁目 280-2 (1989調査)
田代・原1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市
教育委員会 17.小町二丁目 280-18 (1982調査) 神奈川県教育委員
会1984「神奈川県埋蔵文化財調査報告26」神奈川県教育委員
会 18.小町二丁目 48-10外 (2003調査) 原2009「鎌倉市埋蔵文
化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会 19.小町二丁目
281-2 (2012調査) 20.小町二丁目 281-1 (1989調査) 神奈川県教
育委員会1991「神奈川県埋蔵文化財調査報告33」神奈川県教
育委員会 21.小町二丁目 281 (1977調査) 松尾1983「鎌倉市埋
蔵文化財調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 22.小町二丁目 28-3・
5 (1996調査) 原ほか1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
14-2」鎌倉市教育委員会 23.小町二丁目 69-6 (1989調査) 田代・
原1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員
会 24.小町二丁目 19外 (2009調査) 25.扇ヶ谷一丁目 74-9外 (1993
調査) 菊川1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-2」鎌倉
市教育委員会 26.扇ヶ谷一丁目 74-8外 (1988調査) 菊川1990「鎌
倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 27.小町
二丁目 5-27・32・34・35 (2013調査) 三ッ橋2014「第24回
鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学
研究所・鎌倉市教育委員会 28.小町二丁目 12-15 (1990調査)
菊川1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育
委員会 29.小町二丁目 11-2 (2005調査) 森2012「鎌倉市埋蔵文
化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 30.小町二丁目
12-10 (1991調査) 大河内1991「鎌倉考古20」鎌倉考古学研
究所 31.小町二丁目 12-18 (1987調査) 馬淵1989「鎌倉市埋蔵文
化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 32.小町二丁目 63-3
(1992調査) 齋木ほか1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
9-1」33.小町二丁目 5-8 (1997調査) 福田ほか1999「鎌倉市埋蔵
文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会 34.小町二丁目
5-7 (2012調査) 35.小町二丁目 281-16・26・36・283-9・10 (2013
調査) 36.小町二丁目 4-19 (1990調査) 37.小町二丁目 4-4 (1989
調査) 38.小町二丁目 5-23 (1989調査) 福田1990「鎌倉市埋蔵
文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 39.小町二丁目 4-9
(1996調査) 野本1997「第7回鎌倉市遺跡調査・研究発表会
発表要旨」40.小町二丁目 4-6 (1986調査) 神奈川県教育委員
会1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告30」神奈川県教育委員
会 41.小町二丁目 283-6 (1997調査) 宮田1998「若宮大路周辺遺跡

群発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 42.小町二丁目 4-1 (2005
調査) 菊川2006「若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 発掘調査報告
書」株式会社齊藤建設 43.小町二丁目 283の一部 (2003調査)
滝澤・宮田2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-1」鎌
倉市教育委員会 44.小町二丁目 1-14 (1986調査) 45.小町二丁目
394 (2005調査) 神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化
財調査報告51」神奈川県教育委員会 46.小町二丁目 1-15 (1986
調査) 神奈川県教育委員会1989「神奈川県埋蔵文化財調査報
告30」神奈川県教育委員会 47.小町二丁目 1-6 (2002調査) 神奈
川県教育委員会2003「神奈川県埋蔵文化財調査報告45」神奈
川県教育委員会 48.御成町 126-1 (2003調査) 汐見2007「鎌倉
市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会 49.御成
町 123-5 (1997調査) 汐見1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報
告書15-1」鎌倉市教育委員会 50.御成町 123-3 (2004調査) 福田
2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員
会 51.御成町 12-18 (1984調査) 小川・服部1986「千葉地東遺跡」
神奈川県立埋蔵文化財センター 52.御成町 129-4 (2008調査)
松山ほか2009「若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 発掘調査報告
書」齊藤建設 53.御成町 228-2 (1985調査) 齋木ほか1987「御成
町 228-2他地点遺跡」千葉地東遺跡発掘調査団 54.御成町 130-6
(1984調査) 神奈川県教育委員会1985「神奈川県埋蔵文化財調
査報告27」神奈川県教育委員会 55.小町一丁目 120-1 (1986調
査) 手塚1989「小町一丁目 120番1地点」風門社ビル発掘調査
団 56.小町一丁目 116 (1985調査) 馬淵1986「鎌倉市埋蔵文化
財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 57.小町一丁目 117-3他
4筆 (2005調査) 滝澤2006「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告
書」有限会社鎌倉遺跡調査会 58.小町一丁目 65-26 (2009調査)
59.小町一丁目 65-30 (2005鈴木) 神奈川県教育委員会2007「神
奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 60.小町一
丁目 116-4 (1989調査) 手塚1999「若宮大路周辺遺跡群」若宮
大路周辺遺跡群発掘調査団 61.小町一丁目 65-10 (1977調査)
松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員
会 62.小町一丁目 66-3 (1977調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化
財調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 63.小町一丁目 106-1 (1987調
査) 手塚1999「若宮大路周辺遺跡群」若宮大路周辺遺跡群発掘
調査団 64.小町一丁目 107-7 (2010調査) 滝澤2013「若宮大路周
辺遺跡群 (No.242) 発掘調査報告書」株式会社博通 65.小町一丁
目 65-21 (1979調査) 齋木ほか1982「小町2丁目 65番地21号地点・
小町1丁目 75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 66.小町一丁目
66-5 (1996調査) 神奈川県教育委員会1997「神奈川県埋蔵文化
財調査報告39」神奈川県教育委員会 67.小町一丁目 67-2 (1987
調査) 福田1994「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」鎌倉市
教育委員会 68.小町一丁目 103-9 (1982調査) 服部1984「蔵屋
敷遺跡」鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会 69.小町一丁目 75-1
(1979調査) 齋木1982「小町2丁目 65番地21号地点・小町1丁
目 75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 70.小町一丁目 75-1 (1979
調査) 齋木1982「小町2丁目 65番地21号地点・小町1丁目 75
番地1号地点」鎌倉考古学研究所 71.小町一丁目 81-18 (1998調
査) 宮田2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市
教育委員会 72.小町一丁目 81-23 (1988調査) 神奈川県教育委員
会1990「神奈川県埋蔵文化財調査報告32」神奈川県教育委員
会 73.小町一丁目 81-8 (1991調査) 森1995「若宮大路周辺遺
跡群発掘調査報告書-鎌倉市小町一丁目 81番8地点-」若宮
大路周辺遺跡群発掘調査団 74.小町一丁目 83-1 (1990調査) 佐々
ほか1993「鎌倉市早見芸術学園改築工事に伴う埋蔵文化財発
掘調査報告」株式会社四門 75.小町一丁目 83-3・32 (2007調
査) 宮田2008「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」株式会社
博通 76.御成町 788-3外 (1995調査) 菊川1997「鎌倉市埋蔵文
化財緊急調査報告書13-1」鎌倉市教育委員会 77.御成町 808-6
(2005調査) 神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調
査報告51」神奈川県教育委員会 78.御成町 806-5他 (1981調査)
齋木1985「諏訪東遺跡」諏訪東遺跡調査会 79.御成町 806-3 (1981

調査) 齋木1982「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 80. 御成町811 (1991調査) 松尾・継1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 81. 御成町819-1 (1984調査) 神奈川県教育委員会 1986「神奈川県埋蔵文化財調査報告28」神奈川県教育委員会 82. 御成町819-1 (1989調査) 菊川ほか1999「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 83. 御成町11-2 (1979調査) 齋木ほか1982「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 84. 御成町802-2 (2002調査) 熊谷満2003「第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 85. 御成町11-15 (1981調査) 手塚ほか1983「蔵屋敷東遺跡」江ノ電鎌倉ビル発掘調査団 86. 御成町790-7 (2006調査) 神奈川県教育委員会 2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 87. 御成町788-6 (2013調査) 88. 御成町786-1 (1999調査) 齋木・降矢2002「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-第85地点-」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 89. 御成町792-3・16 (2011調査) 90. 御成町843-1 (2013調査) 91. 御成町783-1他4筆 (2005調査) 齋木ほか2009「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-御成町783番1他4筆地点-」鎌倉遺跡調査会 92. 御成町778-1外 (1988調査) 神奈川県教育委員会 1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告31」神奈川県教育委員会 93. 御成町763-5 (2007調査) 齋木2011「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-御成町763番5地点」鎌倉遺跡調査会 94. 御成町868外 (1990調査) 木村1993「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-鎌倉市御成町868番地点-」鎌倉市教育委員会 95. 御成町872-11 (2012齋木) 96. 御成町872-14 (1991調査) 木村ほか1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 97. 御成町884-6 (1997調査) 宮田ほか1999「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 宮田事務所 98. 御成町727-12・19 (1990調査) 99. 由比ヶ浜一丁目126-1 (2005調査) 熊谷満2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2」鎌倉市教育委員会 100. 由比ヶ浜一丁目126-11 (2005調査) 熊谷満2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2」鎌倉市教育委員会 101. 由比ヶ浜一丁目123-5外 (1994調査) 馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1」鎌倉市教育委員会 102. 由比ヶ浜一丁目127-1 (2003調査) 宗臺2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会 103. 由比ヶ浜一丁目118-8 (1987調査) 馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1」鎌倉市教育委員会 104. 由比ヶ浜一丁目118-7 (1995調査) 遠藤ほか1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2」鎌倉市教育委員会 105. 由比ヶ浜一丁目117-1 (1988調査) 齋木1991「由比ヶ浜1-117-1地点遺跡」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 106. 由比ヶ浜一丁目116-9 (2011調査) 107. 由比ヶ浜一丁目120-2・14 (2008調査) 齋木2012「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-由比ヶ浜一丁目120-14、120-2地点-」鎌倉遺跡調査会 108. 由比ヶ浜一丁目120-6 (1991調査) 109. 由比ヶ浜一丁目128-7 (1986調査) 馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会 110. 由比ヶ浜一丁目128-21 (2013調査) 111. 由比ヶ浜一丁目129-5 (1993調査) 清水ほか1995「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書(由比ヶ浜一丁目129番5地点)」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 112. 小町二丁目364-17 (2009調査) 押木「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-2」鎌倉市教育委員会 113. 小町二丁目349-1の一部 (2008調査) 114. 小町二丁目345-2 (1983調査) 馬淵1985「小町2-345番2地点遺跡発掘調査報告書」小町二丁目345番-2地点遺跡発掘調査報告書 115. 小町一丁目321-1 (1993調査) 宮田1996「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群(鎌倉警察署構内)発掘調査団 116. 小町一丁目322-2 (1987調査) 1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告30」神奈川県教育委員会 117. 小町一丁目325-イ (1992-1993調査) 佐藤・原1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書」鎌倉市教育委員会 118. 小町一丁目319-2 (1978調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書I」鎌倉市教育委員会 119. 小町

一丁目309-5 (1982調査) 齋木1983「小町一丁目390番5地点発掘調査報告」(推定) 藤内定員邸跡発掘調査団 120. 小町一丁目309-4 (1978調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告I」鎌倉市教育委員会 121. 小町一丁目322-1 (1992調査) 宮田1997「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 122. 小町一丁目891 (1979・1980調査) 齋木1985「(推定) 藤内定員邸跡遺跡」鎌倉市教育委員会 123. 小町一丁目329-7 (2013調査) 124. 小町一丁目329-1 (2010・2011・2012調査) 滝澤・安藤2014「若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書」株式会社博通 125. 小町一丁目305・308 (1975調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財調査年報I」鎌倉市教育委員会 126. 小町一丁目331-1 (2012調査) 127. 小町一丁目333-2 (2007調査) 原「貿易陶磁研究28」貿易陶磁研究会 128. 小町一丁目333-15 (2010調査) 押木2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 129. 小町一丁目302 (1982調査) 130. 小町一丁目302(1977調査) 131. 小町一丁目287-13(1992調査) 齋木1992「鎌倉考古22」鎌倉考古学研究所 132. 小町一丁目276-18・22・38 (2005調査) 宮田2006「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」株式会社博通 133. 小町一丁目1028-1 (1990調査) 大河内1997「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 134. 大町1084-4(2007調査) 135. 大町一丁目1032-1(1982調査) 神奈川県教育委員会 1984「神奈川県埋蔵文化財調査報告26」神奈川県教育委員会 136. 大町一丁目1034-9(2010調査) **北条時房・顕時邸跡(No.278)** 137. 小町一丁目264-4 (2002調査) 福田ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1」鎌倉市教育委員会 138. 雪ノ下一丁目265-3 (1988調査) 田代・原1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会、宗臺秀・宗臺富1999「北条時房・顕時邸跡」東国歴史考古学研究所 139. 雪ノ下一丁目267-2・4 (2010調査) 熊谷満2014「北条時房・顕時邸跡発掘調査報告書」株式会社博通 140. 雪ノ下一丁目269-1(2006調査) 141. 雪ノ下一丁目271-1(1987調査) 原・田代1989「北条時房・顕時邸跡」北条時房・顕時邸跡発掘調査団 142. 雪ノ下一丁目271-3 (1998調査) 馬淵2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 143. 雪ノ下一丁目236-1 (2004調査) 原2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 144. 雪ノ下一丁目271-4 (1998調査) 馬淵2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 145. 雪ノ下一丁目272 (1996調査) 宗臺秀・宗臺富1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1」鎌倉市教育委員会 146. 雪ノ下一丁目233-9 (1986調査) 馬淵1987「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3」鎌倉市教育委員会 147. 雪ノ下一丁目234-3 (2008調査) 148. 雪ノ下一丁目273-ロ (1986調査) 原ほか1988「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会 149. 雪ノ下一丁目273-イ (1997調査) 瀬田ほか1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会、齋木ほか1999「北条時房・顕時邸跡」北条時房・顕時邸跡・鎌倉遺跡調査会 150. 雪ノ下一丁目274-2 (1986調査) 原・福田1988「北条時房・顕時邸跡」北条時房・顕時邸跡発掘調査団 **北条小町邸跡(No.282)** 151. 雪ノ下一丁目377-6・7 (1994調査) 馬淵ほか1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会 152. 雪ノ下一丁目374-2 (1985調査) 玉林ほか1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 153. 雪ノ下一丁目372-7 (1984調査) 馬淵1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1」鎌倉市教育委員会 154. 雪ノ下一丁目371-1 (1984調査) 馬淵1985「北条泰時・時頼邸跡」北条泰時・時頼邸跡発掘調査団 155. 雪ノ下一丁目370-1 (1996調査) 土屋・宗臺富1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1」鎌倉市教育委員会 156. 雪ノ下一丁目369 (1990調査) 瀬田1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 157. 雪ノ下一丁目369-1 (1996調査) 原ほか1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会 158. 雪ノ下一丁目369他(1989調査) 159. 雪ノ下一丁目367-1・368-1 (1998調査) 森ほか「北

条小町邸跡(泰時・時頼邸跡)発掘調査報告書」北条小町邸跡発掘調査団 160.雪ノ下一丁目419-3(1986調査)玉林1987「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3」鎌倉市教育委員会 161.雪ノ下一丁目427番2外(2007調査)沖元2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会
宇津宮辻子幕府跡(No.239) 162.小町二丁目366-1(1990-1991調査)田畑1991「第1回鎌倉市遺跡調査・発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所・中世都市研究会 163.小町二丁目361-1(1996調査)原ほか1996「宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書」宇津宮辻子幕府跡発掘調査団 164.小町二丁目360-1(2012調査) 165.小町二丁目354-2(1997調査) 166.小町二丁目354-12外(1991調査)熊谷洋ほか1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 167.小町二丁目374-1(1998調査)原1998「第22回神奈川県遺跡調査・研究会発表要旨」神奈川県考古学会 168.小町二丁目354-2(1992調査)継1993「第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所・中世都市研究会 169.小町二丁目389-1(1994調査)原・佐藤1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 170.小町二丁目390-2外(2004調査)宇都2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26」鎌倉市教育委員会
巨福呂坂周辺遺跡(No.256) 171.雪ノ下二丁目144-1(2011調査)滝澤2011「巨福呂坂周辺遺跡(No.256)発掘調査報告書」株式会社博通
上杉定正邸跡(No.188) 172.扇ガ谷二丁目195-2(2009調査)山口・松吉2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-2」鎌倉市教育委員会
華光院跡やぐら群(No.101) 173.扇ガ谷二丁目191(2002調査)汐見・田畑2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会
無量寺跡(No.196) 174.扇ガ谷一丁目26-27(2002調査)森ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-2」鎌倉市教育委員会 175.扇ガ谷一丁目26-89(2005調査)森ほか2007「無量寺跡(第3次)発掘調査報告書」博通 176.扇ガ谷一丁目26-14(2006調査)滝澤ほか2008「無量寺跡(第4次)発掘調査報告書」博通 177.扇ガ谷一丁目26-74外(2002調査)宮田ほか2004「無量寺跡発掘調査報告書」博通
無量寺谷やぐら群(No.118) 178.御成町39-6(1991調査)田畑・手塚1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会
今小路西遺跡(No.201) 179.御成町25番1外1筆(2001調査)森ほか2003「今小路西遺跡発掘調査報告書」今小路西遺跡発掘調査団 180.扇ガ谷一丁目145-3・146-2(2011調査)後藤2012「第22回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 181.御成町171-1外(2006調査)菊川ほか2008「今小路西遺跡(No.201)発掘調査報告書-御成町171番1外地点-」齊藤建設 182.御成町200-2(2003調査)宇都ほか2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会 183.御成町15-5(1980調査)手塚ほか1982「千

葉地遺跡」千葉地遺跡発掘調査団 184.御成町625-3(1984・85調査)河野ほか1990「今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 185.御成町625-3(1991調査)河野ほか1993「今小路西遺跡(御成小学校内)第5次発掘調査概報」鎌倉市教育委員会 186.由比ヶ浜一丁目136-1(2008調査)滝澤ほか2011「今小路西遺跡(No.201)発掘調査報告書」博通 187.由比ヶ浜一丁目134-4(2008調査)
下馬周辺遺跡(No.200) 188.由比ヶ浜二丁目106-6・7(2000調査)汐見ほか2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会 189.由比ヶ浜二丁目107-1(1995調査)汐見ほか1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2」鎌倉市教育委員会 190.由比ヶ浜二丁目107-5(2007調査) 191.由比ヶ浜二丁目113-5(2009調査) 192.由比ヶ浜二丁目110-5(1999調査)菊川2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」鎌倉市教育委員会 193.由比ヶ浜二丁目54-15(2008調査) 194.由比ヶ浜二丁目19-4(2006調査)沖元ほか2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会 195.由比ヶ浜二丁目18-12(1990調査)宗臺秀1992「下馬周辺遺跡 東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書」下馬周辺遺跡発掘調査団 196.由比ヶ浜二丁目18-1(2001調査) 197.由比ヶ浜二丁目3-6(2008調査)宮田2010「下馬周辺遺跡発掘調査報告書」博通 198.由比ヶ浜二丁目3-7(2005調査)神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告51」神奈川県教育委員会 199.由比ヶ浜二丁目2-12(1998調査)熊谷満1998「下馬周辺遺跡発掘調査報告書4」下馬周辺遺跡発掘調査団 200.由比ヶ浜二丁目2-2・10(1990調査) 201.由比ヶ浜二丁目2-2-2(1988調査) 202.由比ヶ浜二丁目2-39-14(2004調査)原2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 203.由比ヶ浜二丁目2-27-9(1988調査) 204.由比ヶ浜二丁目2-18-1(2001調査) 205.大町二丁目1001-4(2005調査)馬淵2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-1」鎌倉市教育委員会 206.大町二丁目975-6(2003調査)森2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22」鎌倉市教育委員会
米町遺跡(No.245) 207.大町二丁目993-1外(2008調査)山口2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-2」鎌倉市教育委員会 208.大町二丁目992-7外(2003調査)滝澤・森2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会
小町大路東遺跡(No.233) 209.大町一丁目1147(2013調査)後藤2014「第24回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 210.大町一丁目1181(1980調査)原1980「鎌倉考古2」鎌倉考古学研究所
妙本寺遺跡(No.232) 211.大町一丁目1146(1992調査)継ほか1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」鎌倉市教育委員会 212.大町一丁目1158-5(1990調査)宗臺秀1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 213.大町一丁目1158-1(1987調査)福田1988「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会

『新編相模国風土記稿』(以下『風土記稿』と記す)「荏柄天神社」の項にて、「當郡郷名に荏草と記すあり、今其唱を失すれど全く當社地邊の舊唱ならん、草にかやの古訓あれば、えがらはえがやの轉訛なるを後文字をさへ今の如く書改めしなるべし」としている。また、現在の鎌倉市内中心部は鎌倉郷にあたりとされ(鈴木・鈴木1984)、調査地点も鎌倉郷内に含まれると考えられる。

奈良から平安後期の鎌倉には二十近い寺社があり、12世紀初頭までに都市神の勧請もおこなわれているので、このころすでかなりの都市的な集住形態が形成されていた可能性が指摘されている(野口1993・馬淵1994)。

具体的な出土事例として、地点184では古代郡家の政庁域と付属舎域、平安期に下る基壇倉庫群な

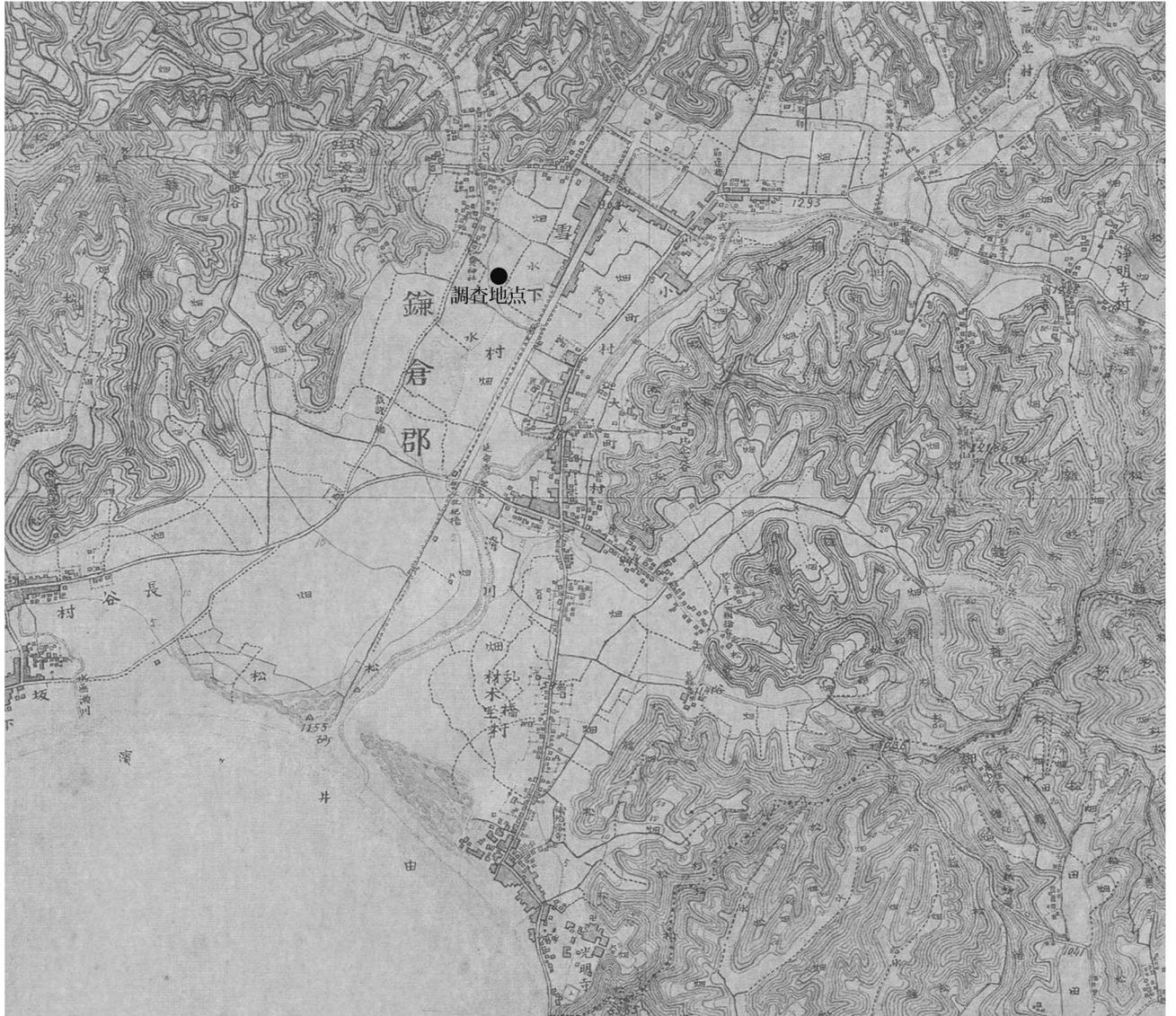


図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)(1/20000)

どが検出されている。古代Ⅰ期は「糶五斗天平五年七月十四日」の墨書がある木簡から8世紀前半代に、古代Ⅴ期は出土遺物から10世紀初頭頃に比定している(河野ほか1990)。この他、地点28(菊川1992)・51(服部・宍戸1986)・56(馬淵1986)・68(小川・服部1984)・80(松尾・継1993)・81(齋木ほか1982)・82(菊川ほか1999)・84(熊谷満2003)・96(木村ほか1992)・181(菊川ほか2008)において遺構とともに律令期以降の遺物が出土している。また、中世層からの出土等、層位は伴わないものの、律令期以降の遺物の出土が確認された地点に8(滝澤2012)・33(福田ほか1999)・55(手塚1989)・85(手塚ほか1983)・166(熊谷洋ほか1993)・183(手塚ほか1982)がある。

平安後期以降の事例に、鶴岡八幡宮境内の国宝館収蔵庫建設地の事前調査の際、八幡宮創建以前の層から板製五輪塔を伴う男女二体の合葬墓が検出されている。

鎌倉時代

源頼朝の鎌倉入り以前の鎌倉の状況は、詳しくはわからないが、『吾妻鏡』治承四年(1180年)十二月十二日条に「亥尅。前武衛「將軍」新造御亭有御移徙之儀。爲景義奉行。去十月有事始。營作于大倉郷也。(中略)入御于寢殿之後。御共輩參侍所。論。二行對座。義盛候其中央。著到云々。凡出仕之者三百十一人云々。又御家人等同構宿館。自尔以降。東國皆見其有道。推而爲鎌倉主。所素邊鄙。而海人

野叟之外。卜居之類少之。正當于此時間。閭巷直路。村里授号。加之家屋並葺。門扉輾軒云々。」と記されており、頼朝の新御所御移徙と相前後して御家人の宿館が整備され、賑わったかのように見える。

頼朝が鎌倉入りするのは、『吾妻鏡』治承四年(1180年)十月六日条によると「着御于相模國。畠山次郎重忠爲先陣。千葉介常胤候御後。几扈從軍士不知幾千万。楚忽之間。未及營作沙汰。以民屋被定御宿館云々。」とあり、治承四年十月六日のこととなる。その後『吾妻鏡』同月十二日条に「寅尅。爲崇祖宗。點小林郷之北山。構宮廟。被奉遷鶴岡宮於此所。以專光坊鬻爲別當職。令景義執行宮寺事。武衛此間潔齋給。當宮御在所。本新兩所用捨。賢慮猶危給之間。任神鑿於寶前自令取探圖給。治定當砌訖。然而未及花構之飭。先作芽茨之營。本社者。御冷泉御宇。伊与守源朝臣頼義奉勅定。征伐安倍貞任之時。有丹祈之旨。康平六年秋八月。潛勸請石清水。建瑞籬於當國由比郷。鑿之下永保元年二月。陸奥守同朝臣義家加修復。今又奉遷小林郷。致蘋蘩礼奠云々。」とあり、由比若宮を治承四年(1180年)十月十二日に小林郷の北の山(現在の鶴岡八幡宮所在地)に遷座している。この由比若宮は同条によると、康平六年(1063年)八月に源頼義が安倍貞任征伐を記念して、密かに石清水八幡宮を勸請し、永保元年(1081年)二月に源義家が修復したものとなっている。

頼朝の鎌倉入り後、鎌倉は徐々に整備されていくようで、『吾妻鏡』治承五年(1181年)六月廿七日条に「鶴岳若宮材木。柱十三本。虹梁二支。今朝且著由比浦之由申之。」とあり、同年七月三日条に「若宮營作事。有其沙汰。而於鎌倉中。無可然之工匠。仍可召進武蔵國淺草大工字郷司之旨。被下御書於彼所沙汰人等中。昌寛奉行之。」、同月八日条に「淺草大工參上之間。被始若宮營作。先奉遷神軀於假殿。武衛參給。相模國大庭御厨厨一古娘依召參上。奉行遷宮事。亦輔通景能等沙汰之。來月十五日可有遷宮于正殿。其以前可造畢之由云々。」、養和元年(1181年)七月廿日条に「鶴岳若宮寶殿上棟。社頭東方構假屋。武衛著御。々家人等候其南北。工匠賜御馬。」、同月廿一日条に「景時者若宮造宮之奉行也。」、同年八月十五日条に「鶴岳若宮遷宮。武衛參給云々。」とある。鶴岡若宮造宮のための材木が由比浦に到着し、その後淺草大工を呼び寄せ、養和元年七月十五日に鶴岡若宮の遷宮を行っていることがわかる。また、この若宮造宮の奉行が梶原景時であることもわかる。この後、『吾妻鏡』養和二年(1182年)三月十五日条に「自鶴岳社頭。至由比浦。直曲横而造詣往道。是日來離爲御素願。自然涉日。而依御臺所御懷孕御祈故。被始此儀也。武衛手自令沙汰之給。仍北條殿已下各被運土石云々。」とあり、北条政子懐妊の御祈を契機に、直線の参道(若宮大路)の整備が行われたことがわかる。また、『吾妻鏡』養和二年(1182年)四月廿四日条に「鶴岳若宮邊水田鑿。三町余。被停耕作之儀。被改池。專光・景義等奉行之。」とあり、水田を池に変えたことがわかる。現状と変化がなければ、これは現在の源平池となる。このように、由比若宮が現在の鶴岡八幡宮の地に遷された後も、八幡宮に関わるものは整備されており、当初から計画的に鎌倉の町づくりが行われていたとは言い難い。

鎌倉初期と関わる可能性のある出土事例として、地点141(原・田代1989)では定窯白磁、地点121(宮田1997)では渥美刻画文壺といったものが出土している。また地点141(原・田代1989)・144(馬淵2000)・145(宗臺秀・宗臺富1998)では、若宮大路と異なる軸線を持つ、切り合いから見て最も古い溝が検出されている。

この後の鎌倉の町づくりを示す例の一つとして、『吾妻鏡』嘉祿元年(1225年)十月四日条に「相州(北条時房)。武州(北条泰時)。相具人々而。宇津宮辻子并若宮大路等。令巡檢。而始被打丈尺。」とある。松尾剛次氏はこの「而始被打丈尺。」という記載から、北条泰時が御所移転に際し、鎌倉にはじめて丈尺制を導入したことを指摘している。松尾氏によれば「丈尺制」は平城京や平安京で施行されていた家地用の単位である。また、松尾氏はこの時に連動して戸主制度と保の制度が導入されたと推測している。

これらのことをまとめて、「宇津宮辻子への御所の移転は、丈尺制（戸主制度）・保制度という京都をモデルにした土地制度・行政制度の導入の契機となった。」と評している（松尾1993）。この他に、秋山哲雄氏は「13世紀半ば頃までは小町大路や横大路が軸となっている地域もあり、従来の議論で考えられてきた、若宮大路を朱雀大路に見立てるような都市計画は、少なくともこの時期までは機能していたとは言えない。」「若宮大路が中心軸として土地計画に影響を及ぼし始めるのは13世紀半ば以降である。」と述べており（秋山2006）、鎌倉の町づくりの転換点がいつあったのか、という点は考古学的にも着目していく必要はあろう。

近在の寺社

寿福寺 亀谷山寿福金剛禅寺。臨済宗建長寺派。開山明庵栄西、開基源頼家・北条政子。背後（西側）に源氏山を負っている。室町期に鎌倉五山三位となり、「えかきやぐら」と呼ばれるやぐらに、北条政子・源実朝墓と伝えられる五輪塔二基がある。

『新編鎌倉志』には「此地は、古源頼義・同義家、東國征伐の時に、源氏山に登、後の源氏山條下に詳也。此地に居住せらる。後に義朝、爰に居住あり。源氏代々の宅地なり。」とある。

寿福寺が建立される以前の様子は「吾妻鏡」の記述からある程度読みとれる。『吾妻鏡』治承四年（1180年）十月七日条に「先奉遥拝鶴岡八幡宮給。次「監」臨故左典厩之龜谷御舊跡給。即點當所可被建御亭之由。雖有其沙汰地形非廣。又岡崎平四郎義實爲奉訪彼沒後。建一梵宇。仍被停其儀云々。」とあり、源頼朝は鎌倉入りした翌日に、源義朝の旧跡を訪れて、ここに第を構えようとしたが、土地が狭い上に、岡崎義実が義朝の菩提を弔うために堂を建立していたので、沙汰やみになっている。

『吾妻鏡』治承五年（1181年）三月一日条に「今日。武衛依爲御母儀御忌月。於土屋次郎義清龜谷堂。被修佛事。」とあり、頼朝の母の仏事が、岡崎義実の子である土屋義清の亀谷堂で修せられている。

『吾妻鏡』正治二年（1200年）閏二月十二日条に「爲尼御臺所御願。爲建立伽藍。被點出土屋次郎義清龜谷之地。是下野國司御舊跡也。爲報其恩岡崎四郎義實兼建草堂者也。今日。民部丞行光。大夫属入道善信巡檢件地云々。」とあり、義朝の旧跡に岡崎義実が草堂を建立し、これを土屋義清が相伝していることがわかる。翌十三日条に「龜谷地被寄附葉上房律師榮西。繼。可爲清淨結界之地之由被仰下。午剋。結衆等行道其地。施主監臨給。所右衛門尉朝光供奉御輿。義清構假屋儲珍膳云々。未剋。堂舍繼。營作事始也。善信。行光等奉行之。」とあり、この地を榮西に寄進し、造営が開始されたことがわかる。同年七月十五日条に「於金剛壽福寺。新圖十六羅漢像。被遂開眼供養。導師當寺長老葉上房律師榮西也。尼御臺所爲御聽聞。有參堂云々。」とあり、これが壽福寺の初見となる。ここに記載される十六羅漢像については、同年七月六日条に「尼御臺所於京都被圖十六羅漢像。佐々木左衛門尉定綱調進之。今日到來。御拜見之後。令奉送葉上房之寺給云々。」とあり、佐々木定綱が京都で調進したことがわかる。以上の記事から義朝の旧跡に壽福寺が建立されたことがわかる。

壽福寺建立後については、『吾妻鏡』建仁二年（1202年）二月廿九日条に「壞渡故大僕卿義朝。沼濱御舊宅於鎌倉。被寄附于榮西律師龜谷寺。行光奉行之。此事。當寺建立最初。雖有其沙汰。僅爲彼御記念。幕下將軍殊被修復其破壞。暫不可有顛倒儀之由。被定之處。僕卿入于尼御臺所御夢中。被示云。吾常在沼濱亭。而海邊極漁。壞之令建立于寺中。欲得六樂云々。御夢覺之後。令善信記之給。被遣榮西云々。大官令云。六樂者六根樂歟云々。」とあり、沼浜の義朝旧宅から、建暦二年（1212年）七月九日条に「今日。御所侍被破却之。被寄附壽福寺。即可被新造云々。」とあり、侍所から材木が転用されている。これらの記事から、その後も壽福寺の整備が行われていたことがわかる。また、『吾妻鏡』宝治元年（1247年）十一月七日条に「丑刻。依失火。金剛壽福寺佛殿以下至捻門悉以災。』、『吾妻鏡』正嘉二年（1258年）

正月十七日条に「丑尅。秋田城介泰盛甘繩宅失火。南風頻扇。越薬師堂後山。到壽福寺。惣門。佛殿。庫裏。方丈已下。墾内不殘一字。餘炎。新清水寺窟堂。并其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊寺焼失。」と二度の火災の記録があり、この時には既に伽藍が整備されていたようである。さらに、元享三年(1323年)北条貞時十三年忌供養には壽福寺から260人の僧衆の参加が確認でき、これは建長寺・円覚寺に次ぐもので、かなりの大寺になっていたことがわかる(円覚寺文書『北条貞時十三年忌供養記』神奈川県史資料編2-2364)。

英勝寺 壽福寺の北隣。東光山英勝寺と号す。浄土宗。尼寺。もと知恩院末。開山玉峯清因。開基英勝院長誉清春。寛永十三年十一月二十三日建立。英勝院は俗名勝、徳川家康の側室。勝は太田康資(太田道灌四代の孫)の娘。『新編鎌倉志』には「此地は本太田道灌の舊宅なり。」とあり、『鎌倉攬勝考』には「此地はもと、太田持資入道道灌の舊宅の地なりといふ。」と見え、『風土記稿』には『寺域は太田道灌の舊跡にして』とある。また、「三代將軍家光は本尊を寄進、また英勝院の一周忌に境内を拡張し寺領として源氏山を寄進した。」とある(貫・川副・佐脇1959)。

無量寺跡 鎌倉駅西方から銭洗弁天へ抜ける隧道手前の谷戸を無量寺谷と呼ぶ。『新編鎌倉志』には「興禪寺の西の方の谷なり。昔此處に無量寺と云寺有。泉涌寺の末寺也し云。今は亡。(中略)居宅甘繩なり。此邊まで甘繩の内なれば、此寺歟。後無量寺と云傳る歟。(中略)今鍛冶綱廣が宅有。」とあり、『鎌倉攬勝考』には「興禪寺の西の谷をいふ。古へ此所に無量寺といふ寺ありし、泉涌寺の末なりしといふ。いま廢せり。(中略)此邊までも甘繩のうちなり。」と見え、『風土記稿』には「興禪寺の西にあり、今字して無量寺谷と唱ふ、無量寺は京泉涌寺の末なりしと云ふ。(中略)義景は藤九郎盛長が孫なり、甘繩に居る此地甘繩と接壤なれば無量壽院の故址ならんか、」とある。これらの記事から近世には、無量寺谷周辺まで「甘繩」と認識されていたことがわかる。

『神奈川県の地名』には「『金沢文庫古文書』の伝法灌頂附法次第に建長二年(1250年)九月「相州鎌倉无量壽寺」と見え、同文書には無量壽院の名が散見する。」とあり(鈴木・鈴木1984)、これが年紀のわかるものでは、最も古いものになるか。

『吾妻鏡』文永二年(1265年)六月三日条に「日中夕立。故秋田城介義景十三年之佛事也。於無量壽院。自朔日至今日。或十種供養。或一切經供養也。而今迎正日。供養多寶塔一基。導師若宮別當僧正隆弁。(中略)伊勢入道行願。武藤少卿入道心蓮。信濃判官入道行一以下數輩。爲結縁詣其場。說法最中。降雨如車軸。于時山上所構之聽聞假屋顛倒。諸人希有而逃去。其中男女二人。自山嶺落于路之北。半死半生云々。」とあり、無量寺にて秋田城介義景十三年忌仏事が催され、説法の最中に大雨で山上の聽聞用仮屋が倒壊したことが記されている。また、『編智院法印灌頂資記』の弘安三年(1280年)の記事に「泰盛。號城介。

弘安三年九月三日。於關東授之。法爾。城介歸依僧。弘安三年九月十四日。於關東無量壽院授之。重受。」とある。『鎌倉大草紙』には応永二十三年(1416年)十月の上杉禪秀の乱の出来事として、「無量寺をば上杉蔵人大夫憲長。」「飯田。海上。園田四郎手負。無量寺へ取入。さて禪秀の方には二階堂信濃守。同山城守。其外駿河下總勢各一手に成て荒手二百餘騎にて攻來る。」とあり、無量寺が戰場となっている。ただ、『新編鎌倉志』、『鎌倉攬勝考』、『新編相模国風土記稿』のいずれも「無量寺口」として記載されているが、群書類従所収の『鎌倉大草紙』は「無量寺」となっている。

華光院跡 『新編鎌倉志』には「壽福寺の東向なり。眞言宗。本尊は不動。佐介谷稻荷別當の所居也。昔は壽福寺の塔頭にて、壽福寺新命入院の時は先づ此院に入て、それより壽福へ入院すと云ふ。榮西は、顯密禪なる故に、始より眞言宗なり。今は別院となりぬ。」とあり、『鎌倉攬勝考』には「壽福寺の向ひなり。もとは眞言宗、本尊不動なり。佐介谷稻荷の別當、古へは壽福寺の塔頭ゆへ、今も先此院に入て、夫よ

り壽福寺へ晋山せしといふ。今は別院となりぬ。」と見え、『風土記稿』には「龍興山と號す、眞言宗、鶴岡八幡宮の社僧なり、開基を頼舜と云ふ天徳三年八月本尊不動を安ず、鶴岡社領の内一貫三百文を配當し、佐介稻荷社を進退す」とある。これについて、『鎌倉廢寺事典』は「しかるに『鎌倉志』にいう別院とは壽福寺の別院の意味らしいが、そうすると、鶴岡と壽福寺の両方に属しているみたいである。」としている(貫・川副1980)が、これは素直に「今は別の院となった。」と解釈し、昔は壽福寺の塔頭であったものが、鶴岡八幡宮下の佐介稻荷別當の居する所となった、と理解するのが良いのではないか。

『新編鎌倉志』「上杉定政舊宅」の項に、「上杉定政舊宅は、華光院の前を云ふ。今は畠也。此地を扇谷と云也。」とある。

松源寺跡 「現在の窟堂東谷にあったとみられる眞言宗の寺。」(鈴木・鈴木1984)。『新編鎌倉志』には「鏡觀音の西、巖窟堂の山の中壇にあり。本尊は地蔵、運慶が作。相傳ふ、頼朝卿、伊豆に配流の時、伊豆日金に祈て、我世に出ば必ず地蔵を勧請せんと約せし故に、こゝに移すと云ふ。」とある。『鎌倉攬勝考』には「別當日金山彌勒院松源寺といふ。眞言新義。御室御所の末なり。」と見える。『風土記稿』には「日金山と號す、眞言宗、開山貞節平治三年五月本尊地蔵長五尺許を安ず、縁起に據に治承四年八月頼朝豆州日金山の地蔵に源家の開運を祈り、成業の後彼山の像を模して爰に安置し、即日金地蔵と稱すとなり」とある。『鎌倉廢寺事典』「松源寺」の項に「『神仏分離史料』下の四二〇頁には松源院に頼朝歸依の地蔵菩薩があり、長谷寺に移されたが、のち三浦武山に移されたとみえている。横須賀市武の東漸寺である。」と見える(貫・川副1980)。

『吾妻鏡』弘長三年(1263年)四月七日条に「天晴。入夜。窟堂邊騒動。但則静謐。是群盜十余人隱居地蔵堂之間。夜行輩等行向其庭生虜故也。」とあり、この記事に関して『鎌倉廢寺事典』「地蔵堂」の項に「この地蔵堂が窟堂の一部なのか、別にあったのかわからない。ともかく近くにあったのは確かである。これが後に松源寺となるものと考えられる。」としている(貫・川副1980)。

窟堂 壽福寺から鶴岡八幡宮西南隅へ至る道の北側、山腹に岩窟があり、不動明王を祀る。『新編鎌倉志』には「巖窟不動は、松源寺の西、山の根にあり。巖窟の中に、石像の不動あり。弘法の作と云ふ。【東鑑】には、窟堂とあり。俗、或は岩井堂と云ふ。巖窟堂、今は教圓坊と云僧持分なり。昔は等覺院の持分なりけるにや。」とある。『鎌倉攬勝考』には「【東鑑】に窟堂又は岩屋堂、岩井堂と有るも此所の事なり。日金地蔵のにしの山麓にて、窟中に石像の不動あり。弘法大師のさくといふ。此前の道路を岩屋小路と唱ふ。(中略)昔は等覺院といふが別當なりしが、今は散圓坊といふ庵室の持とす。むかし等覺院別當のときは、日金堂をも兼持せしといふ。」と見える。『風土記稿』には「村西に巖窟あり鬮其中巖面に不動の像、弘法を彫るのみ今は堂宇なし、(中略)尊運は鶴岡別當二十三世の僧なれば元は別當坊の持なりしを、應永三十三年七月等覺院の住僧卵塔を建るに依て尊運より譲りしなり、されど是等の事實都て傳を失へり、鶴岡社人山口榮存持」とある。

『吾妻鏡』文治四年(1188年)正月一日条に「日中以後属霧。大風。佐野太郎基綱窟堂下宅焼亡。焰如飛。人屋敷十字災。依爲鶴岳近所。二品参宮中給。諸人競集云々。」とあるのが初見か。

『吾妻鏡』文治四年(1188年)十月十日条に「浮雲所々掩。雨僅灑即止。已尅。窟堂聖阿弥陀佛房詣勝長寿院礼佛。退出之後。於路頓滅。鬮稀有事。」とあり、これについては「この僧が永く堂守であったとすれば、窟堂はすでに平安時代後期から存在した、古い堂ということになる。」(鈴木・鈴木1984)というように、窟堂が頼朝以前から存在した可能性が示されている。

『吾妻鏡』承久二年(1220年)正月廿九日条に「入夜。窟堂邊焼亡。進士判官代工藤右衛門尉等家災」とあり、同年三月九日条に「酉刻。窟堂邊民居敷十字災。」とある。

前掲『吾妻鏡』弘長三年(1263年)四月七日条とあわせて、これらの記事から窟堂周辺が御家人と町家の混在する地帯であったことはわかるが、詳細は不明である。

『吾妻鏡』建暦三年(1213年)五月三日条に「當斯時。大學助義清自甘繩入龜谷。經窟堂前路次。欲參旅御所之處。於若宮赤橋之砌。流矢之所犯。義清亡命。件箭自北方飛來。」とあり、当時の甘繩から八幡宮前への経路の一つを窺い知ることができる。

『吾妻鏡』建長四年(1252年)五月五日条に「御所造宮將軍家御方違事有其沙汰。陰陽道六人參入。(中略)亦龜谷方角罷向見定之可申之由。被仰下之間。行義。行方。景頼等令引率彼六人。登窟堂後山上。即歸參。當乾方之由。一同申之云云。」という記事も見える。

貞応二年(1223年)から、さほど時をへずに成立したとされる『海道記』には「夕に及びて西に帰りぬ。鶴が岳に登りて鳩の宮(鶴岡八幡宮)に參ず。(中略)月の光にたたずみて、石屋堂の山、梢かすかにながめて不審く歸る。」という記述が見える。また『鎌倉廢寺事典』「窟堂」の項に「永仁四年(1296)四月十六日未の刻、岩屋堂から出火し、北方へ焼けた(『隨聞私記』)。」とある。

鎌倉幕府滅亡後の窟堂・松源寺の状況に関しては、應永三十三年(1426年)七月十七日付の^(鶴岡八幡宮寺)等覺院^(快季)法印御房宛の『尊運避状』(『鶴岡八幡宮文書』神奈川県史資料編3-5761)に「岩井堂日金事、可被立卵塔之由承候、(中略)以彼所限永代奉避渡候了、兼又同以被申方候之間承候、其段可令存知候也」とあり、卵塔を立てるための敷地が、鶴岡八幡宮別当尊運から等覺院快季に与えられていることがわかる。天文十六年十月十九日付の『鎌倉代官大道寺盛昌證文』(『鶴岡八幡宮文書』神奈川県史資料編3-6846)に「鶴岡御社家御菩提^(田)金免田之事、壹貫文目之所、改而爲御寄進申定、進之置候所也、仍證文如件」とあり、宛名は「社家御菩提所日金(松源寺)」となっている。このことから、松源寺が鶴岡八幡宮の菩提所であったことと、鎌倉代官大道寺盛昌から一貫文の地が寄進されたことがわかる。應永三十三年『尊運避状』と天文十六年『鎌倉代官大道寺盛昌證文』の二通は『鎌倉市史史料編第一』の『鶴岡八幡宮文書七七號文書』の注に「相州文書ニハ鶴岡八幡宮・僧松源寺所蔵トシテ取メラル」とあり、このことから「窟堂は松源寺の管理するところであったと考えられる。」としている(貫・川副・佐脇1959)。また、『新編鎌倉志』に「岩井堂日金事、如来院僧正、任證文、成敗不可有相違候、恐々謹言、五月九日、等覺院へ、空然判とある状あり。」と空然書状が記されている。空然は後の小弓公方足利義明で鶴岡八幡宮別当を務めている。還俗するのが永正年間(1504年～1520年)初期になるので、これ以前の書状となる。いずれの史料にも鶴岡八幡宮及び等覺院が関わることから、鶴岡八幡宮－等覺院－松源寺－窟堂、という関係があった可能性を指摘できる。

巽神社 祭神は奥津日子神・奥津日女神・火産靈神。天正十九年(1591)十一月日付『徳川家康社領寄進状案』(『巽荒神社文書』鎌倉市史史料編1-406)には「寄進 荒神」とあり、『新編鎌倉志』及び『鎌倉攬勝考』は「巽荒神」としている。この他に「荒神社(『浄光明寺領荒神社領租税録』)」(貫・川副・佐脇1959)という呼び名もある。「勸請年月未詳。延暦二十年、坂上田村麿が葛原岡に勸請したと伝えている」という(貫・川副・佐脇1959)。「今小路の南、壽福寺の巽にあり。故に名く、本壽福寺の鎮守なり。今は浄光明寺の玉泉院の持分也。」とあり、もとは壽福寺の鎮守であり、その壽福寺の巽の方角に所在することが名の由来であることが示されている。なお、「明治二年の前掲『租税録』(『浄光明寺領荒神社領租税録』)には、「当山鎮守、荒神社」とあり、浄光明寺の鎮守となっている。」とある(貫・川副・佐脇1959)。

第二章 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

小町二丁目24番14地点で個人専用住宅建設の照会があった。当該地点は若宮大路周辺遺跡群（No. 242）として県遺跡台帳に登録されている周知の遺跡であり、南側隣接地点の小町二丁目24番20地点において既に発掘調査が行われているため、当該地点においても遺跡の存在が確実視された。

建築計画では鋼管杭の打設による基礎工事を伴い、遺構の損傷は避けられないが、強度維持の関係上設計変更は困難なため、国庫補助事業として本発掘調査が実施されることとなった。

あらかじめ平成19（2007）年8月28日に重機による表土掘削を行ない、調査は同年8月29日から開始された。

2. 調査の経過

日誌抄

8月28日（火）	重機による表土掘削	9月14日（金）	3b面土4掘削後全景写真撮影
8月30日（木）	1面調査開始	9月18日（火）	3c面全景写真撮影
9月3日（月）	1面全景写真撮影	9月19日（水）	4b面全景写真撮影
9月4日（火）	1面土2掘削後全景写真	9月21日（金）	5b面全景写真撮影
9月10日（月）	2面全景写真撮影	9月25日（火）	7面板列写真撮影
9月13日（木）	3b面全景写真撮影	9月26日（水）	機材撤収

3. 調査方法

掘削方法

掘削にあたって、残土は場内処理とした。南側隣接地点の調査成果から、表土下3m以上の遺構面の存在が想定されるため、安全上の理由から表土下1.5mほどから調査区を縮小して調査を進めた。

測量基準の設定

ここでは作業効率を考慮して、調査区長軸中心部を通る測量基準線と、それに直交する基準線を5mおきに配した。そして、のちこれらを世界測地系に座標変換するという方法を採用した。

調査区は以下の範囲内にある。

[エリア9] X - 75 225.70 ~ X - 75 230.02
Y - 25 611.70 ~ Y - 25 615.42



図3 調査区設定図 (1/300)

第三章 調査結果

第1節 概要

1. 層序と面の概要

地表面と表土

地表面の海拔は8.50 m～8.55 mほどで、ほぼ平坦な面になっている。表土層は60～70cmほどあり、一部深くなっているものの、おおむね水平に堆積している。この表土層を除くと1層とした明灰色粘質土が現われ、この1層を除くと1面検出面となる。迅速測図では本地点周辺は水田や畑となっており、後世の耕作や近現代以降の開発で1層より上層は削平を受けている。

1面

1層とした明灰色粘質土の下に現われる最初の検出面。標高7.67 m～7.72 m程度となる。1面構成土は2層とした暗灰色弱粘質土となるが、2層下の遺構面のものも1面遺構群として検出している。

2面

1面遺構群を5cm～17cmほど掘り下げると黄灰色砂質土が現れる。これを2面とした。この黄灰色砂質土は泥岩粒や砂粒で構成されており、地行層になるか。海拔は7.51 m～7.59 m。

3a面

2面を5cm～15cmほど掘り下げると黄灰色砂質土の地行層が現れる。これを3 a面とした。海拔は7.36 m～7.47 m。実際の遺構検出はこの地行層の下層に堆積した、腐植土層と炭層上面で行った。

3b面

3 a面下に5cm～10cmほど堆積する黄灰色砂質土層と炭層・腐植土層を掘り下げると、黄灰色砂質土の地行層が現れる。これを3 b面とした。海拔は7.31 m～7.34 m。

3c面

3 b面を15cmほど掘り下げると、主に炭土(20層)で構成された遺構面が現れる。これを3 c面とした。調査区の南側では3 b面と同一の遺構面を使用していたようである。海拔は7.16 m～7.31 m。

4a面

3 c面を14cm～30cmほど掘り下げると、暗青灰色と青灰色の砂質土地行層が現れる。これを4 a面とした。海拔は6.98 m～7.17 m。

4b面

4 a面を5cm～11cmほど掘り下げると、泥岩片・砂岩片を多く含んだ暗青灰色の砂質土層が現れる。これを4 b面とした。海拔は6.88 m～7.05 m。

5a面

4 b面を10cm～17cmほど掘り下げると、炭土と腐植土、木くずで覆われた層が現れる。これを5 a面とし、遺構検出を行った。海拔は6.72 m～6.81 m。

5b面

5 a面を7cm～10cmほど掘り下げると、炭土が薄く広く堆積した青灰色砂質土の地行様の面と、灰褐色粘質土の混入した腐植土が現れる。これを5 b面とした。海拔は6.55 m～6.65 m

6a面

5 b面を14cm～17cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土層上に炭土が広がった状況が現れる。これ

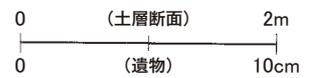
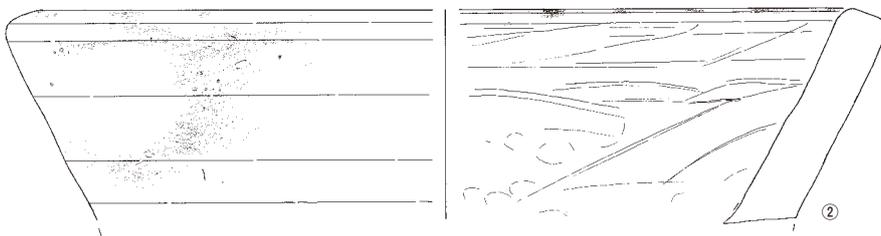
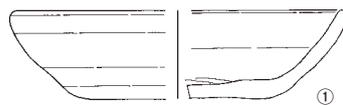
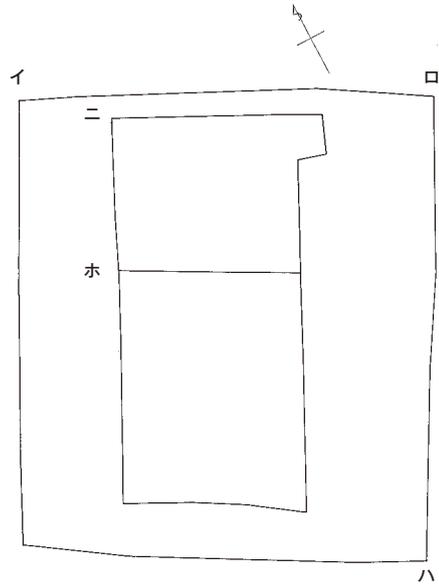
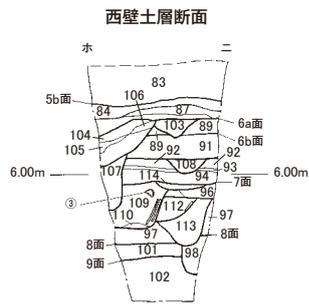
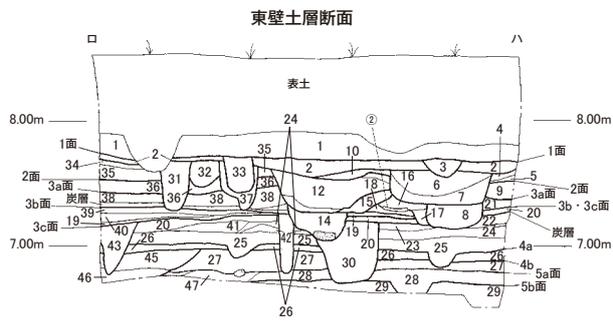
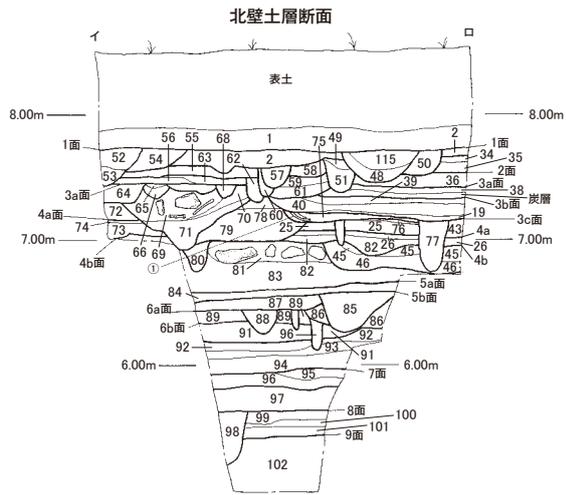


図4 調査区土層断面図

1. 明灰色粘質土 炭化物・鉄分・泥岩粒混入
2. 暗灰色弱粘質土 炭化物(多)・土器細片・砂粒・鉄分(1面構成土)
3. 灰褐色弱粘質土 砂岩(拳大)・炭化物・土器細片・泥粒(やや多)
4. 暗灰色弱砂質土 炭化物(多)・砂粒
5. 暗灰色砂質土 泥岩(小石大)・砂岩(小石大)つまる。炭化物(多)
6. 暗灰色粘質土 炭化物(多)・泥岩粒(多)・砂岩粒(多)砂粒(多)・土器細片
7. 暗青灰色砂質土 炭化物(やや多)・泥岩(小石大まで)(多)・砂岩(小石大まで)(多)
8. 黄茶褐色弱砂質土 砂岩粒・貝砂・炭化物・暗灰色粘質土混入
9. 黄灰色砂質土 砂岩(小石大まで)つまる。鉄分(2面構成土)
10. 茶褐色砂質土 砂岩粒(多)・炭化物・砂粒
11. 黄灰色砂質土 炭化物多量につまる。土器細片
12. 黄灰色砂質土 泥岩(小石大まで)・砂岩(小石大まで)白色砂粒つまる。炭化物混入。
13. 暗茶褐色粘質土 腐植土(茶褐色粘土)混入。砂粒・炭化物
14. 暗茶褐色粘質土 炭化物(多)・木片・腐植土・砂岩(拳大まで)・白色砂粒・遺物片
15. 黄灰色砂質土 暗灰色粘土混入
16. 黄灰色砂質土
17. 黄灰色砂質土 炭化土混入。砂岩(拳大)
18. 黄灰色砂質土 暗灰色粘土・炭化物(多)混入
19. 茶褐色繊維質腐食土 直上直下に薄い炭層ある(3b面構成土)
20. 炭土 砂質土・木片(多)・泥岩粒・砂岩粒・砂岩(拳大)混入(3c面構成土)
21. 黄灰色砂質土 9に比べキメ細かい泥岩粒・砂岩粒つまる、泥岩粒(微)・砂岩粒(微)・炭化物(3a面構成土)
22. 暗灰色砂質土 炭化物(多)・木片(多)(3c面構成土)
23. 暗黄灰色砂質土 木片(多)・礫(多)・遺物片(多)・泥岩粒・砂岩粒
24. 炭土 砂質土(多)・木片(多)・泥岩(半人頭大)・砂岩(半人頭大)
25. 暗茶褐色腐食土 木片(多)・炭化物(多)泥岩粒・砂岩粒
26. 暗青灰色砂質土 炭化物(やや多)・砂岩・砂粒の地行土(4a面構成土)
27. 暗青灰色砂質土 26より色調暗い。腐植土・泥岩(拳大)(やや多)・砂岩(拳大)(やや多)(4b面構成土)
28. 暗茶褐色腐食土 25と同質
29. 暗青灰色砂質土 上層、弱地行土 下層、腐植土(多)混入(5a面構成土)
30. 暗灰色粘質土 木片・炭化物・砂粒・腐植土(多)・貝殻粒・泥岩粒・砂岩粒
31. 灰褐色弱粘質土 炭化物(微)・砂粒・木片
32. 黄灰色砂質土 泥岩粒(小石大まで)・砂岩粒(小石大まで)つまる。炭化物(微)混入
33. 30と同質
34. 暗灰色弱砂質土 炭化物・泥岩粒(小石大まで)(多)
35. 暗灰色砂質土 34より砂質土
36. 暗灰色弱粘質土 炭化物(少)・木片(少)・泥岩粒・砂岩粒(2面構成土)
37. 灰褐色粘質土 炭化物(少)・泥岩粒・砂岩粒・遺物片
38. 黄灰色砂質土 砂岩粒・砂粒を含む 地行土(3a面構成土)
39. 38と同質の地行土(3b面構成土)
40. 暗灰色弱粘質土 炭化物・木片・泥岩粒(やや多)・砂岩粒(やや多)・砂粒(やや多)
41. 暗灰色弱粘質土 炭化物(少)・泥岩粒(小石大)・木片
42. 暗茶灰色粘質土 炭化物(多)・木片(多)
43. 暗灰色粘質土 木片・炭化物・泥岩粒(多)・砂岩粒(多)粘性強(3c面構成土)
44. 暗茶褐色弱粘質土 腐植土(多)・貝殻粒・炭化物
45. 暗茶褐色弱粘質土 腐植土中に砂岩粒(多)・砂粒(多)・炭化物・泥岩(小石大)
46. 暗青灰色粘質土 腐植土(少)・木片・炭化物・泥岩粒(やや多)・砂岩粒(やや多)
47. 19と同質の純正の腐植土
48. 灰褐色弱砂質土 山砂(多)・泥岩粒・砂岩粒・小石・炭化物・土器細片
49. 灰褐色弱砂質土 黄灰色砂質土(多)・炭化物・鉄分混入
50. 灰褐色弱粘質土 炭化物(やや多)・鉄分(やや多)・土器細片(やや多)・鉄塊・泥岩粒・砂岩粒・砂粒・小石
51. 灰褐色弱砂質土 土器細片・炭化物・山砂(少)
52. 2と同質 色調黒い。鉄分(微)
53. 灰褐色弱砂質土 山砂(多)・炭化物(微)
54. 2と同質 鉄分・炭化物、2より多い
55. 黄灰色砂質土 山砂(多)
56. 黄灰色砂質土 上層灰褐色粘土混入、木片・炭化物(2面構成土)
57. 灰褐色弱砂質土 炭化物・黄灰色砂(多)・土器細片・鉄分(少)
58. 黄灰色砂質土 砂岩(拳大まで)つまる地行土
59. 灰褐色弱砂質土 黄灰色砂と灰褐色粘土混合土・炭化物・土器片
60. 黄灰色砂質土 砂岩(拳大)
61. 黄灰色砂質土 58に比べきめ細かな砂岩・砂粒つまった地行土、炭化物
62. 黄灰色砂質土 灰褐色土・礫・鉄分・炭化物(やや多)
63. 黄灰色砂質土 上層、鉄分(多) 下層、灰褐色土混入(2面構成土)
64. 黄灰色砂質土 上層、砂岩粒 下層、炭化物(多)・灰褐色粘土
65. 黄灰色砂質土
66. 黄灰色砂質土 炭化物・砂粒塊(小石大)
67. 黄灰色砂質土 砂粒・炭化物つまる
68. 黄灰色砂質土 下層、炭化物(多)
69. 黒褐色土 炭化物(多)・木片(多)・大型砂岩
70. 暗灰褐色粘質土 木片・炭化物含む
71. 茶褐色腐植土 多量の木片・炭化物混入、しまり弱い
72. 茶褐色腐植土 炭化物(やや多)
73. 茶褐色腐植土 炭化物・木片(少)
74. 青灰色砂質土 弱い地行土(4a面構成土)
75. 20と同質
76. 青灰色砂質土 地行土
77. 暗茶褐色腐植土 木片(多)・炭化物(多)
78. 青灰色弱砂質土 灰褐色砂質土・炭化物混入
79. 暗茶褐色腐植土 木片・炭化物・泥岩粒(少)・砂岩粒(少)
80. 暗茶褐色腐植土 暗灰色砂質土・炭化物混入
81. 青灰色砂質土 大型泥岩(多)・大型砂岩(多)(4b面構成土)
82. 青灰色砂質土 腐植土混入、炭化物・木片・泥岩粒・砂岩粒
83. 暗茶褐色腐植土 炭化物・貝片・泥岩粒・砂岩粒
84. 暗茶褐色腐植土 灰褐色粘質土混入(5a面構成土)

85. 暗茶褐色腐植土 有機質土がつまる
 86. 暗茶褐色腐植土 85に似るが木片含む
 87. 暗茶褐色腐植土 83と同じ(5b面構成土)
 88. 暗灰褐色腐植土 灰色粘土・炭化物(多)
 89. 暗灰褐色粘質土 黒褐色粘土(炭)・砂岩・小石・茶灰色粘土混入(6面構成土)
 90. 暗灰褐色粘質土 腐植土(多)・炭化物(多)・木片(多)・泥岩粒・砂岩粒
 91. 暗灰褐色粘質土 鉄分・腐植土・炭化物・木片・灰
 92. 暗灰褐色粘質土 91と似るが含有量少ない
 93. 茶褐色腐植土 炭化物・泥岩粒・砂岩粒混入
 94. 灰褐色粘質土 腐植土(少)混合、炭化物・泥岩粒(微)・砂岩粒(微)
 95. 灰褐色粘質土 腐植土・木片・炭化物・泥岩粒(多)(7面構成土)
 96. 灰褐色粘質土 95より混入物少ない(7面構成土)
 97. 灰茶褐色粘質土 腐植土・炭化物・貝殻片・泥岩粒(微)・小石(微)、粘性強
 98. 灰褐色粘質土 木片(少)・炭化物・黄灰色粘土・泥岩(小石大)
 99. 灰褐色粘質土 木片(ごく微)・炭化物・泥岩粒(8面構成土)
 100. 明灰褐色弱砂質土 青灰色砂・木片・炭化物(少)
 101. 茶灰色粘土と青灰色粘土 木片(ごく微)・炭化物混入(8面構成土)
 102. 暗灰褐色粘質土 茶灰色粘土(微)・遺物片(9面構成土)
 103. 暗茶褐色腐植土 炭化物(多)・木片(多)・灰褐色粘土・泥岩粒
 104. 暗茶褐色腐植土 木片(多)・炭化物(多)・灰褐色粘土・泥岩粒・小石
 105. 灰褐色粘質土 炭化物(少)・腐植土(少)・泥岩粒
 106. 茶褐色有機質土 炭化物(少)・灰褐色粘質土(少)混入
 107. 灰褐色粘質土 腐植土・木片・炭化物・泥岩粒(やや多)
 108. 暗灰褐色粘質土 木片(少)・炭化物(少)・泥岩(拳大)・貝殻片
 109. 灰褐色粘質土 炭化物(少)・腐植土(少)・黄灰色粘土・泥岩粒・小石・木片
 110. 暗茶色弱腐植土 炭化物(少)・木片混入
 111. 青灰色砂質土 地行土
 112. 暗茶褐色腐植土 大型の木製品(多)・遺物片・青灰色砂質土
 113. 暗灰褐色粘質土 木片(少)・腐植土・炭化物・泥岩粒・小石・黄茶色粘土
 114. 94に似るが混入物少ない
 115. 暗灰色弱粘質土 鉄分(多)・炭化物(多)・土器細片・泥岩粒・小石

を6a面とした。海拔は6.31m～6.49m。

6b面

6a面を12cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土が広がり、遺物がまとまって出土したため、ここで一度精査を行った。遺構は検出されず、6a面出土遺物との接合も認められたため、生活面として評価できるかは定かではない。海拔は6.31m～6.33m。

7面

6b面を37cm～40cmほど掘り下げると、灰褐色粘質土層の広がる面を検出する。板列を伴う落込みを確認できたため、これを7面とした。海拔は5.92m～5.97m。

8面

7面を42cm～47cmほど掘り下げると、茶灰色と青灰色の粘土層が検出された、遺物の出土と、土層断面から遺構の存在を確認できたため、これを8面とした。海拔は5.45m～5.65m。

9面

8面から11cm～13cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土層になる。土層注記には遺物片が含まれるとあるが、茶褐色粒子を遺物片と誤認した可能性もあり、地山層である可能性を否定できない。海拔は5.32m～5.45m。

第2節 各説

1. 1面

面の概要(図5)

検出高：7.70 m～7.64 m 面構成土：暗灰色弱粘質土 検出遺構：建物1棟・土坑2基・ピット45穴

1面出土遺物：土師器皿R種小型(1～4)穿孔土師器皿R種小型(5)・土師器皿R種大型(6)・フイゴ羽口(7)・常滑片口鉢I類(8)・渥美甕(9)・常滑甕(10・11)・常滑片口鉢II類(12)・備前播鉢(13・14)・瀬戸卸皿(15・16)・瀬戸折縁深皿(17)・瀬戸香炉か(18)・竜泉窯青磁I類碗(19)・瀬戸碗か(20)・石製品硯(21) 特記事項：13の備前播鉢は四辺が磨耗している。20の瀬戸は大窯期まで下る可能性あり。

建物1(図5)

位置：X(-75 226.39)～-75 229.25 Y-25 612.70～(-25 615.69) 規模：東西1間, 2.00 m×南北1間, 2.00 m 主軸方位：N-28°-E 重複関係：土坑2・P.1・P.12・P.32を切る、P.5に切られる

出土遺物：(P.4)土師器皿R種小型(22) 特記事項：南東端は調査区外のため確認できず。また調査区が狭小なため建物の全容を明らかにしたとは言えない。

土坑1(図5)

位置：X-75 228.03～(-75 228.96) Y-25 614.05～(-25 615.33) 平面形：楕円形 断面形：浅皿形 規模：長径1.24 m×短径(0.85 m)×深さ0.10 m 主軸方位：N-24.5°-W 重複関係：土坑2・P.25・P.28・P.29を切る、P.2・P.3を切られる

出土遺物：常滑片口鉢II類(23)・瀬戸平底末広碗(24)・瀬戸卸皿(25) 特記事項：調査区南壁よりで検出したため、南側の範囲は不明。23の常滑鉢は中野編年8～9型式のもの。

P. 3(図5)

位置：X-75 228.37～-75 228.73 Y-25 614.52～-25 614.95 規模：長径0.45 m×短径0.34 m×深さ0.20 m 主軸方位：N-35°-W 重複関係：土坑1・P.25を切る 出土遺物：土師器皿R種大型(26)

特記事項：26の土師器皿は13世紀後葉を上限とするもの。

土坑2(図6)

位置：X-75 226.51～(-75 229.63) Y(-25 612.17～-25 615.03) 平面形：隅丸方形 断面形：浅皿形 規模：長径(2.54 m)×短径(2.08 m)×深さ0.22 m 主軸方位：N-25°-W 重複関係：1面すべての遺構に切られる

出土遺物：土師器皿R種小型(1・2)・瓦器質輪花火鉢(3)・常滑甕(4～6)・常滑甕転用摩耗陶片(7)・瀬戸卸皿(8)・瀬戸蓋か(9)・青白磁碗(10) 特記事項：調査区が狭小のため東側と南側の範囲は不明。ただし東壁土層断面では土坑の落込みを確認していない。土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。4・5の常滑甕は中野編年7～8型式。8の卸皿は古瀬戸前IV期～中期のものか。

1面ピット出土遺物(図6)

出土遺物：(P.1)土師器皿R種小型(11・12)・土師器皿R種大型(13)・瀬戸柄付片口(14)・(P.6)瓦器質火鉢(15)・(P.8)瓦質火鉢(16)・(P.10)土師器皿R種小型(17)・(P.13)常滑壺(18)・(P.15)土師器皿R種大型(19)・瀬戸卸皿(20)・(P.16)鉄製品鑿か(21)・(P.18)穿孔土師器皿R種小型(22)・(P.19)常滑甕(23)・(P.25)土師器皿R種大型(24)・青白磁梅瓶(25)・(P.26)瓦器質土鍋(26)・(P.27)土師器皿R種小型(27)・(P.29)土師器皿R種大型(28)・(P.37)土師器皿R種小型(29)・(P.43)白磁輪花碗(30)・(P.44)常滑片口鉢II類(31) 特記事項：土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。20の卸皿は古瀬戸前IV期～中I期のものか。23の常滑甕は中野編年6a～6b型式、31の片口鉢は8型式。

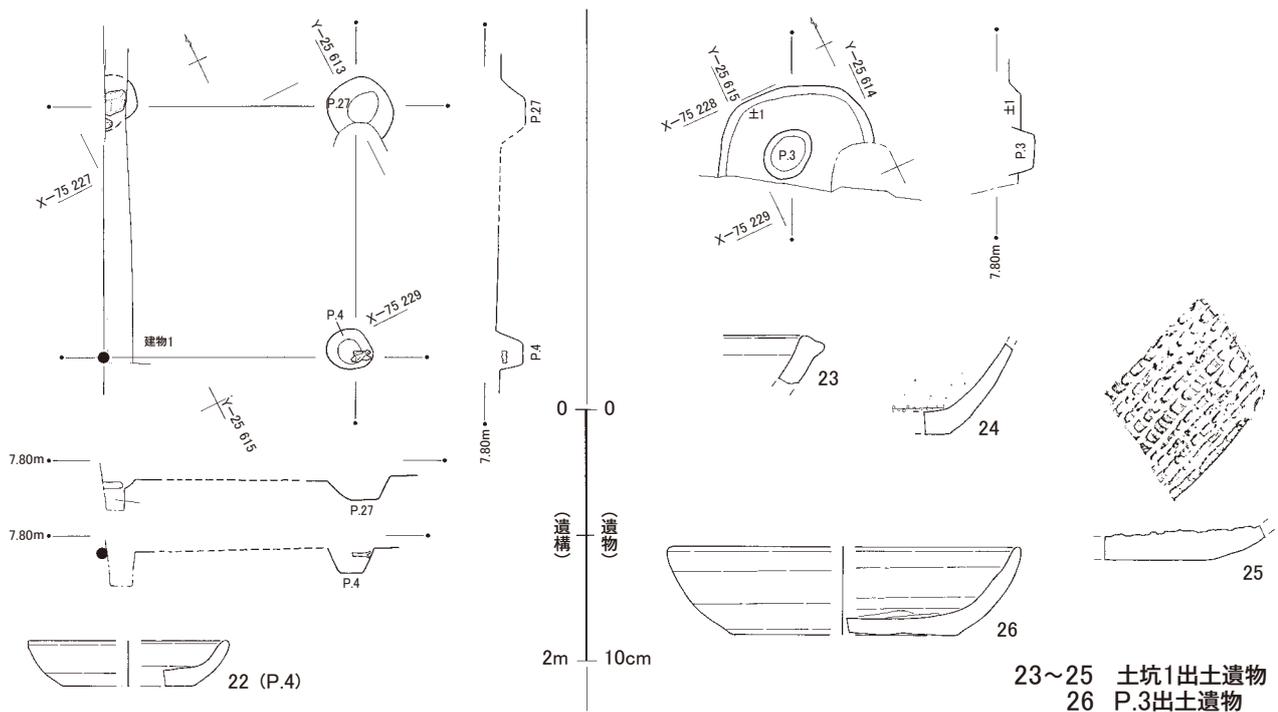
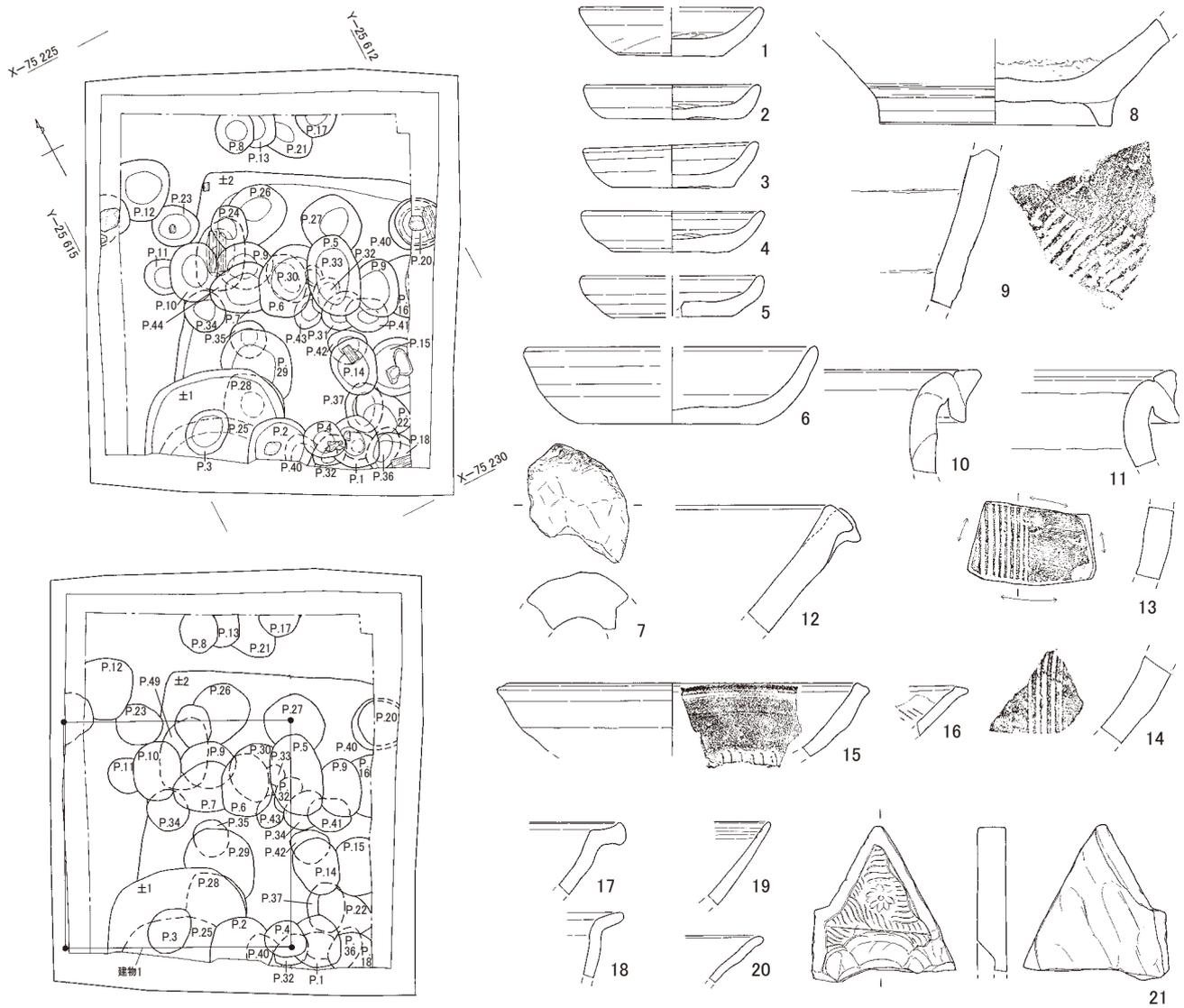
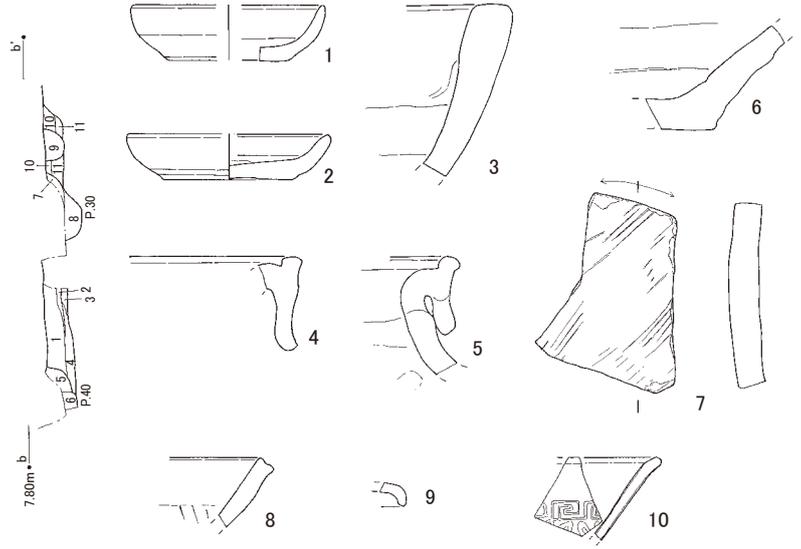
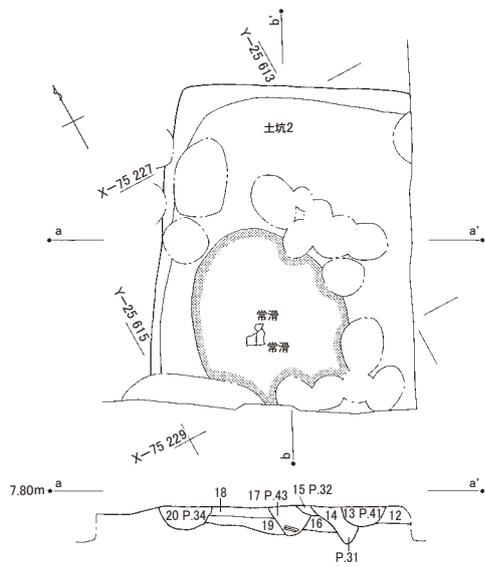


図5 1面遺構全図、同出土遺物・建物1・土坑1・P.3、同出土遺物



1. 暗青灰色弱砂質土
炭化物・泥岩粒・小石大泥岩・土師器皿細片やや多く含む
2. 暗青灰色弱砂質土
砂質土に暗茶色土少量混入、炭化物含む
3. 暗青灰色弱砂質土
2と同質
4. 暗青灰色弱砂質土
炭化物多く含む、少量の小石大泥岩片・土師器皿片を含む
5. 暗青灰色弱粘質土
黄色粘土・炭化物・泥岩片・砂質土を含む
6. 暗青灰色弱砂質土
灰茶褐色粘土・炭化物混入
7. 暗青灰色弱粘質土
5と同質
8. 黄茶灰色砂質土
炭化物・灰褐色粘質土混入
9. 暗青灰色弱粘質土
土師器皿細片・炭化物・泥岩粒・黄色粘土を多く含む、砂質土含む
10. 暗青灰色弱砂質土
炭化物・泥岩粒を少量含む
11. 青灰色弱砂質土
泥岩粒・小石大泥岩をやや多く含む
12. 暗青灰色粘質土
鉄分多く含む、炭化物・泥岩粒微量含む
13. 暗青灰色粘質土
鉄分・拳大までの泥岩・炭化物・やや多く含む
14. 暗青灰色粘質土
粘性強、炭化物多く含む、土師器皿細片・拳大までの泥岩・鉄分少量含む
15. 暗青灰色粘質土
14と同質。炭化物多く含む
16. 暗茶褐色弱粘質土
鉄分・炭化物少量含む、土師器皿細片・山砂・泥岩粒含む
17. 茶褐色弱砂質土
鉄分・土師器皿細片やや多く含む、炭化物・泥砂粒含む
18. 茶褐色弱砂質土
泥岩粒・炭化物・山砂を多く含む
19. 茶褐色弱砂質土
砂質土多く含む、炭化物・小石・大泥岩少量含む
20. 暗青灰色弱砂質土
炭化物多く含む、泥岩粒・鉄分・土師器皿細片含む

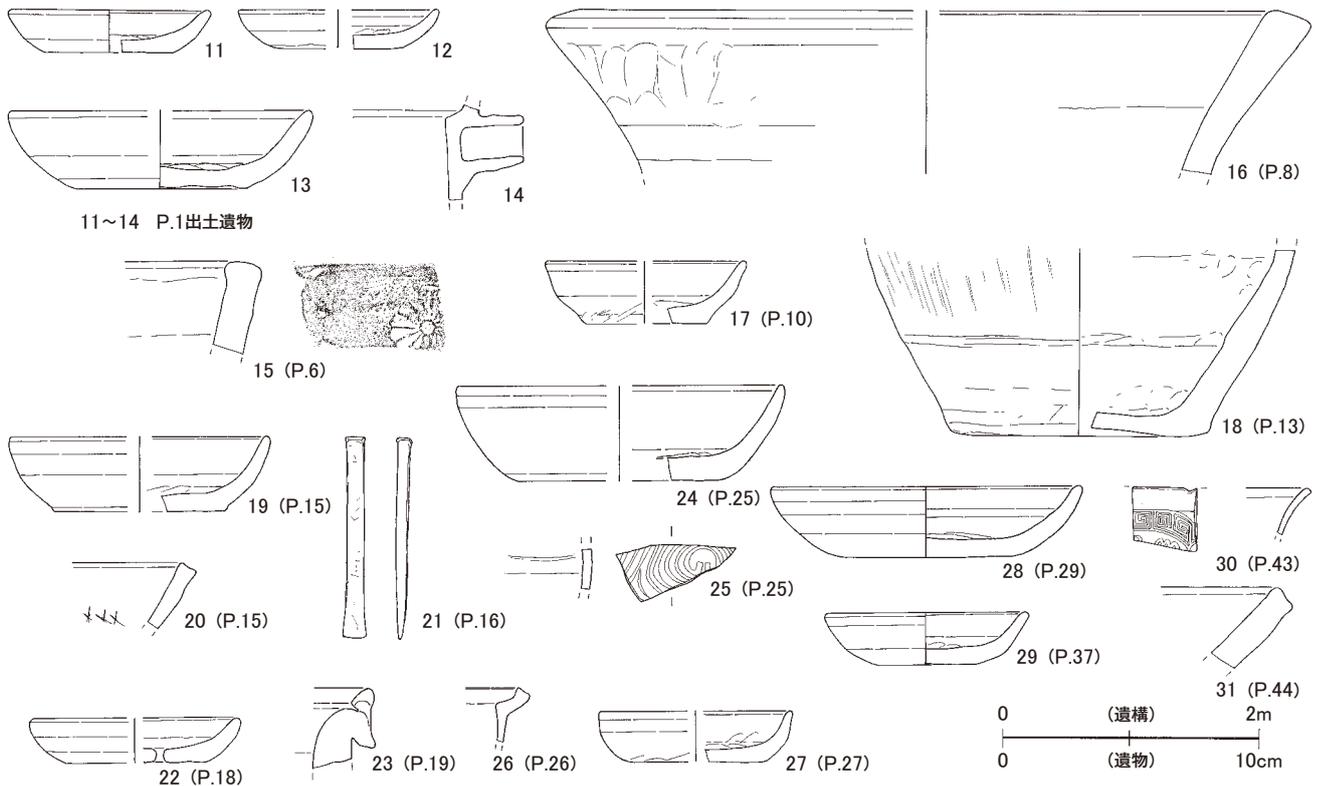


図6 土坑2、同出土遺物・1面ピット出土遺物

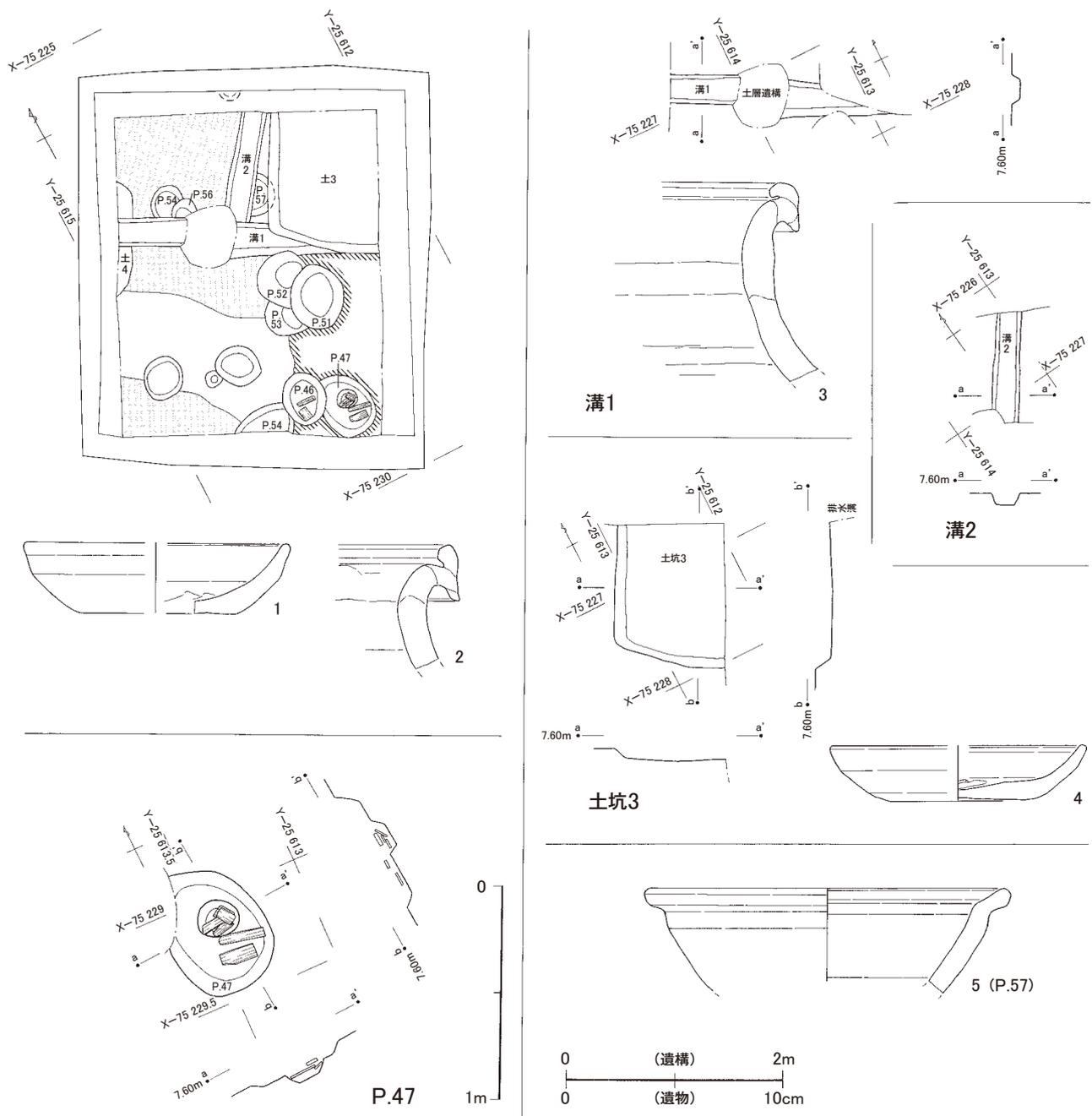


図7 2面遺構全図、同出土遺物・溝1、同出土遺物・溝2・土坑3、同出土遺物・P.47・2面ピット出土遺物

2. 2面

面の概要(図7)

検出高：7.40 m～7.57 m 面構成土：黄灰色砂質土・暗灰色弱粘質土 検出遺構：溝2条・土坑2基・ピット12穴 2面出土遺物：土師器皿R種大型(1)・常滑甕(2)

溝1(図7)

位置：X(-75 226.53～-75 227.88) Y(-25 612.84～-25 614.65) 断面形：逆台形 規模：最大幅0.35 m×長さ(2.07 m)×深さ0.08 m 主軸方位：N-70.5°-W 重複関係：土坑4・溝2・P.54・P.56を切る、土坑3・P.52に切られる 出土遺物：常滑甕(3) 特記事項：常滑甕は中野編年6a～6b。

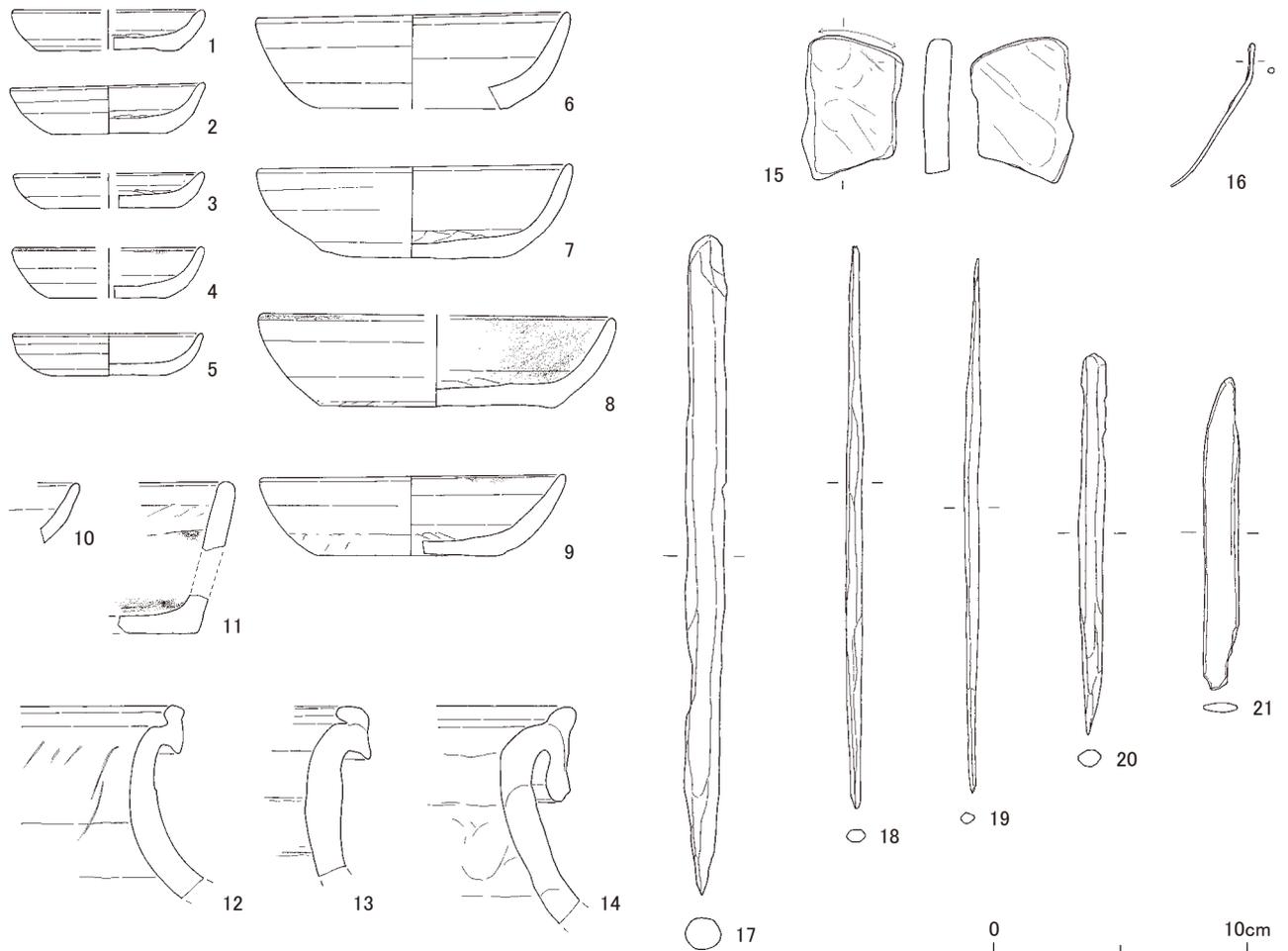


図8 2面構築土内出土遺物

溝2 (図7)

位置：X (-75 226.27 ~ -75 227.22) Y (-25 612.86 ~ -25 613.39) 断面形：逆台形 規模：最大幅0.25 m × 長さ (1.04 m) × 深さ0.11 m 主軸方位：N-38.5° -E 重複関係：P.57を切る、溝1に切られる。
出土遺物：凶化可能遺物なし

土坑3 (図7)

位置：X (-75 226.41 ~ -75 228.04) Y (-25 612.05) ~ -25 613.34 平面形：不整隅丸方形 断面形：浅鉢形 規模：長径 (1.34 m) × 短径 (1.03 m) × 深さ0.14 m 主軸方位：N-24° -E 重複関係：溝1・P.57を切る 出土遺物：土師器皿R種大型 (4)

P.47 (図7)

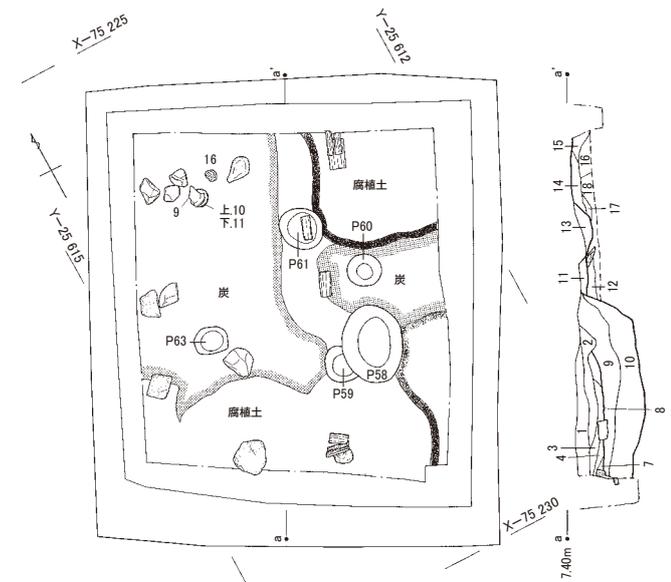
位置：X -75 228.84 ~ -75 229.46 Y -25 613.23 ~ -25 613.70 平面形：不整楕円形 断面形：浅皿形 規模：長径0.63 m × 短径0.46 m × 深さ0.06 m 主軸方位：N-5° -W 重複関係：P.46に切られる
出土遺物：凶化可能遺物なし 特記事項：礎板を敷き詰めた穴をもつ。

2面ピット出土遺物 (図7)

出土遺物：(P.46) 瀬戸折縁中皿 (5) 特記事項：瀬戸は中I・II期のものか。

2面構築土内出土遺物 (図8)

出土遺物：土師器皿R種小型 (1~5)・土師器皿R種大型 (6~9)・白色系土師器皿R種大型 (10)・



1. 明青灰色砂質土
炭化物・土師器皿細片・泥砂粒少量含む
2. 明青灰色砂質土
暗茶色粘土少量混入、小石大までの泥岩・炭化物やや多く含む、しまり直し
3. 明青灰色砂質土
ごく微量の泥岩粒・炭化物含む
4. 暗茶色弱砂質土
腐食木片・炭化物多く含む、泥岩粒含む
5. 暗茶色粘質土
腐植土・炭化物多く含む、木片・小石大までの泥岩多く含む
6. 青灰色砂質土
暗茶色腐植土やや多く含む、小石大泥岩多く含む、炭化物・木片混入
7. 青灰色砂質土
炭化物多量に含む
8. 炭層
青灰色砂混入、木片・遺物片・泥岩粒多く含む
9. 青灰色弱砂質土
暗茶色腐植土と炭化物多量に混入、拳大までの泥岩・砂岩含む(土4)
10. 暗茶色繊維質土(土4)
11. 暗青灰色弱砂質土
暗茶色腐植土やや多く含む、炭化物・木片多く含む、小石大泥岩混入
12. 暗茶色弱粘質土
腐植土と青灰色砂の混合土・炭化物多く含む、小石大までの泥岩混入
13. 明青灰色弱粘質土
小石大までの泥岩やや多く含む、炭化物・腐植土少量混入
14. 明青灰色砂質土
炭化物・黄灰色砂・小石大泥岩粒多く含む
15. 暗青灰色弱粘質土
炭化物多量に含む、土師器皿細片・小石大泥岩混入、粘性強
16. 青灰色弱砂質土
炭化物・木片・腐植土・礫片・泥岩粒やや多く含む
17. 青灰色弱砂質土
16と同質、炭化物多く含む
18. 暗茶色弱粘質土
腐植土・炭化物・木片多量に含む、泥岩粒少量含む、青灰色砂薄く堆積

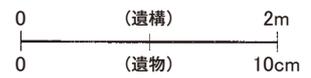
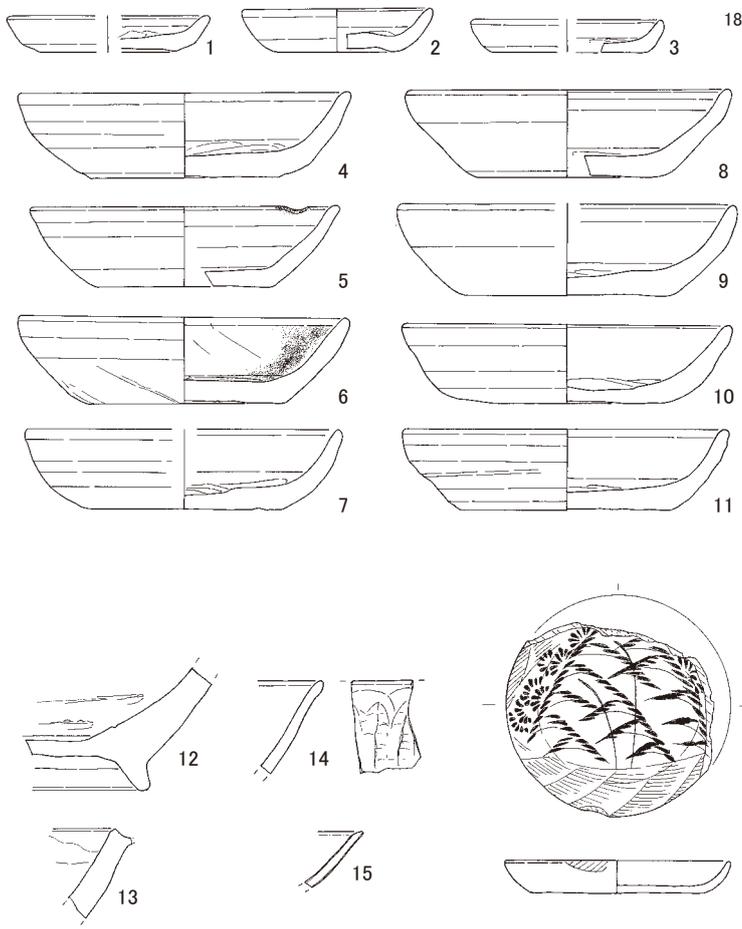


図9 3a面遺構全図、同出土遺物

土器香炉か(11)・常滑甕(12~14)・常滑甕転用磨耗陶片(15)・不明銅製品(16)・串状木製品(17)・箸状木製品(18・19)・へら状木製品(20・21) 特記事項：土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。常滑甕は中野編年6a~8型式のもの。16の銅製品は近現代の可能性もある。調査区壁からの落下により近現代遺物が混入した可能性を指摘しておく。

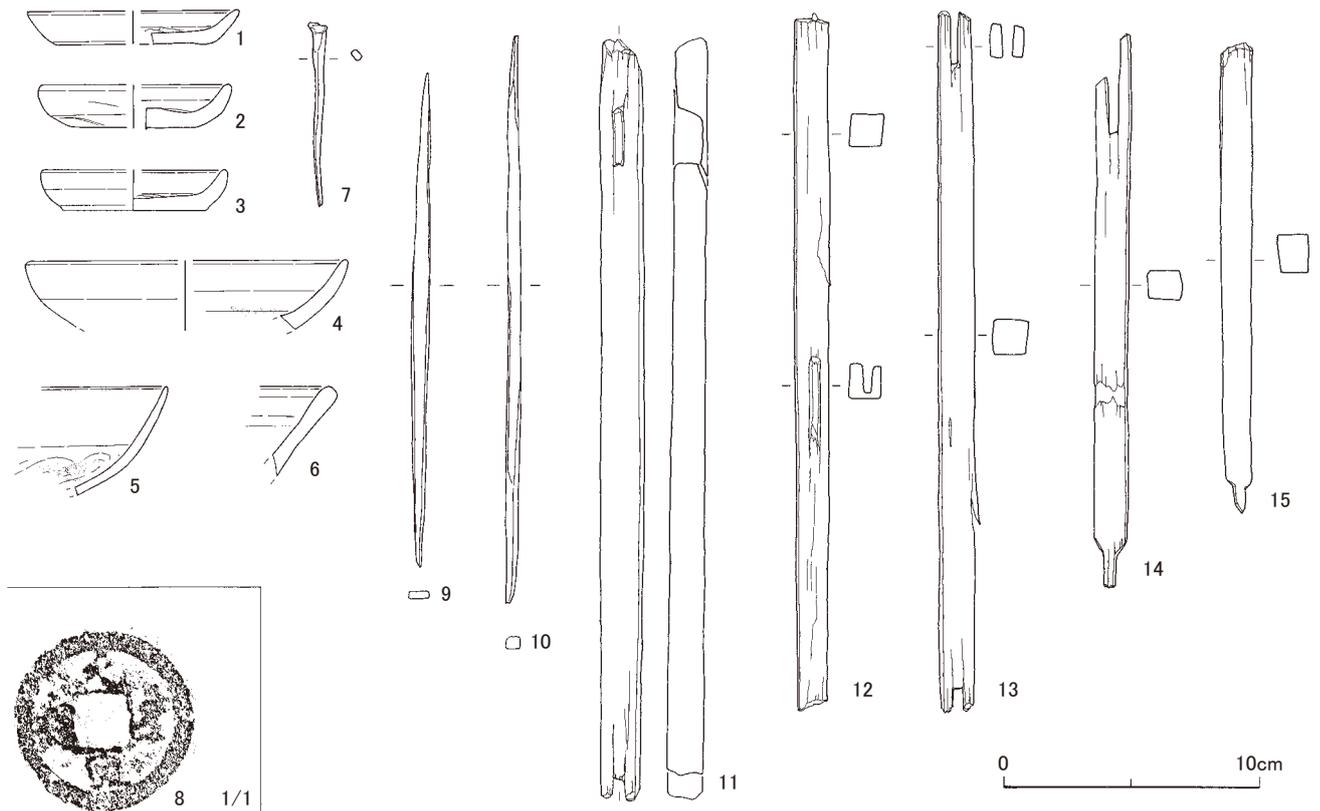


図10 3a面構築土内出土遺物

3. 3 a 面

面の概要 (図9)

検出高：7.35 m～7.40 m 面構成土：黄灰色砂質土 検出遺構：ピット5穴 3 a面出土遺物：土師器皿R種小型(1～3)・土師器皿R種大型(4～11)・常滑片口鉢I類(12)・常滑片口鉢II類(13)・竜泉窯青磁II類碗(14)・白磁IX類皿(15)・漆器皿(16)・箸状木製品(17～20)・へら状木製品(21)・棒状木製品(22) 特記事項：土師器皿は13世紀後半以降のもの。14の青磁は13世紀中葉頃までのもの。15の白磁は13世紀後半のもの。

3a面構築土内出土遺物 (図10)

出土遺物：土師器皿R種小型(1～3)・土師器皿R種大型(4)・瓦器質碗(5)・常滑片口鉢I類(6)・鉄釘(7)・元豊通宝(8)・箸状木製品(9・10)・不明木製品部材(11～15) 特記事項：土師器皿は13世紀中頃が上限となる。6の常滑片口鉢I類は中野編年5～6 a型式のもの。11～15の木製品は建具の部材となる可能性もある。

4. 3 b 面

面の概要 (図11)

検出高：7.25 m～7.30 m 面構成土：黄灰色砂質土 検出遺構：土坑1基・ピット8穴 3 b面出土遺物：土師器皿R種小型(1・2)・土師器皿R種大型(3・4) 特記事項：上面に炭化層が広く堆積している。土師器皿は13世紀後半以降のもの。

遺物集中部 (図11・12)

位置：X - 75 226.01 ～ - 75 227.65 Y - 25 612.13 ～ - 25 614.55 出土遺物：土師器皿R種小型(5)

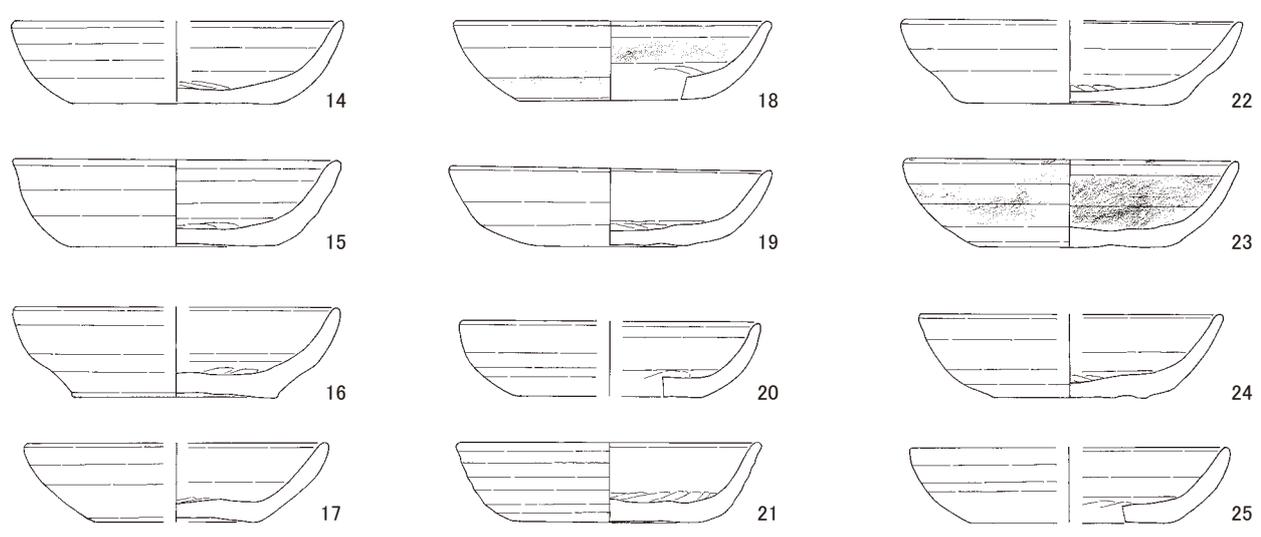
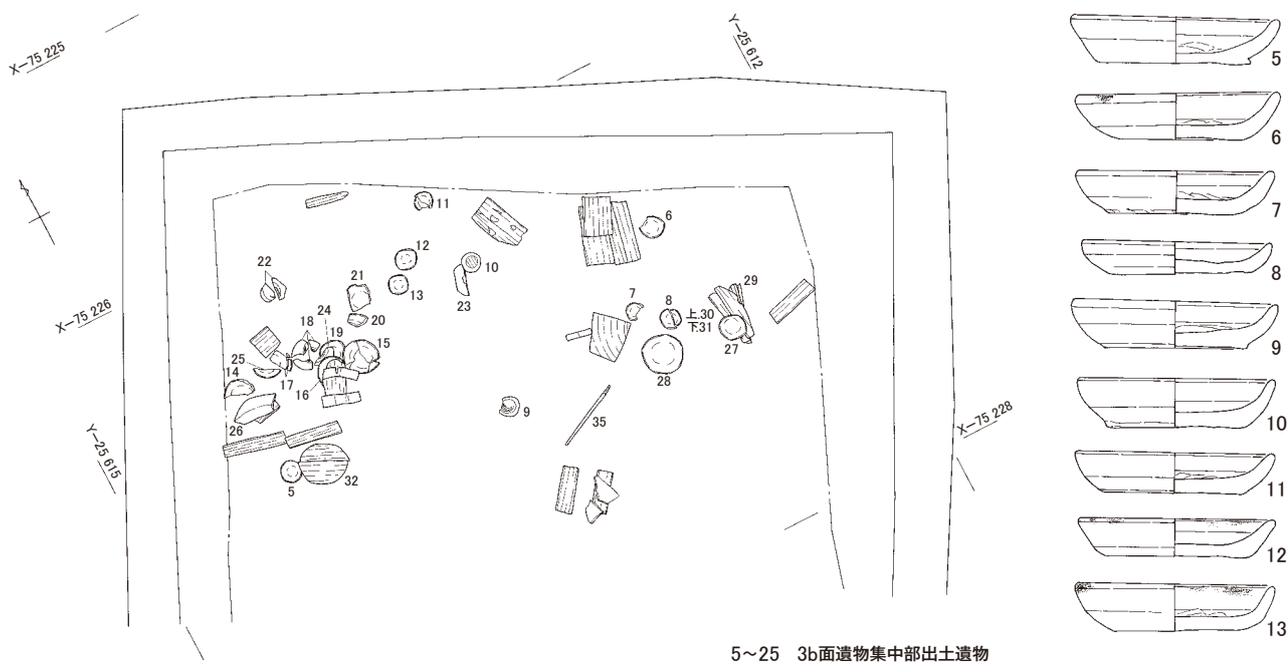
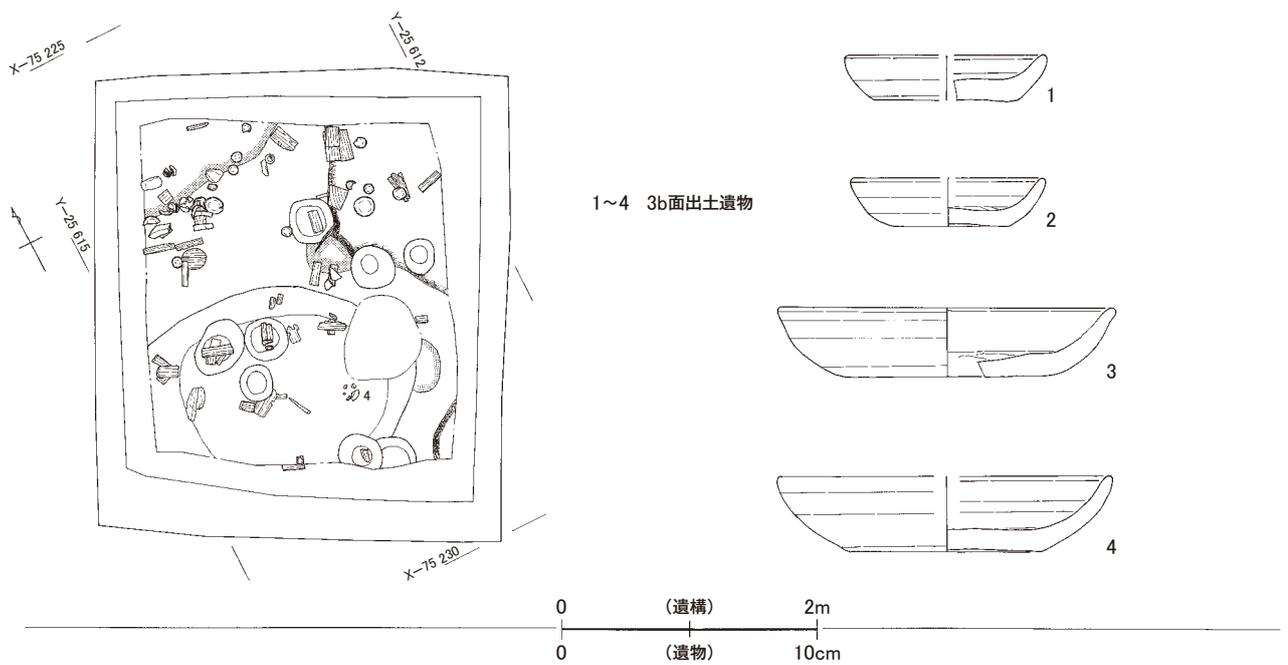


図11 3b面遺構全図、同出土遺物・3b面遺物集中部、同出土遺物(1)

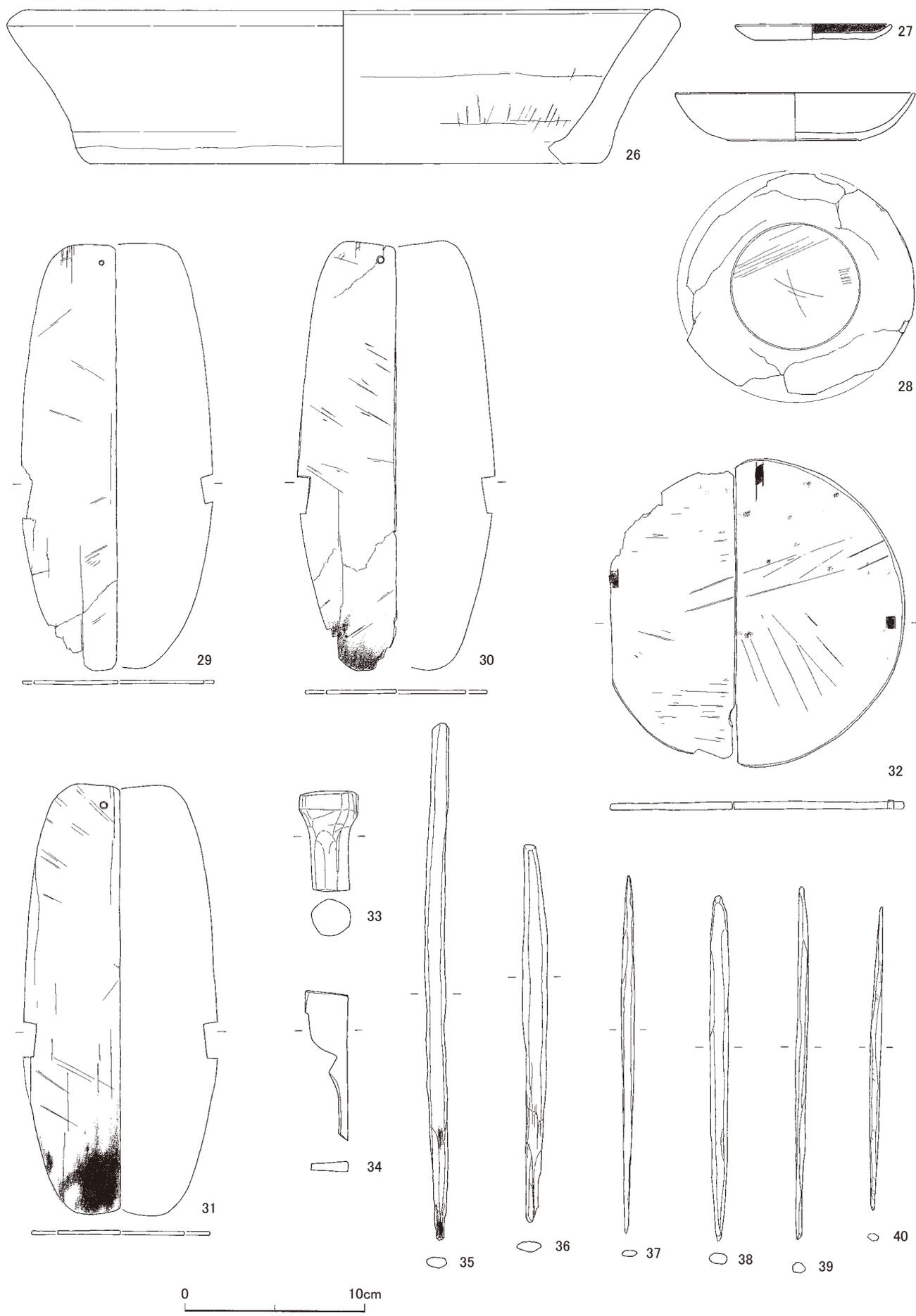


图12 3b面遺物集中部出土遺物(2)

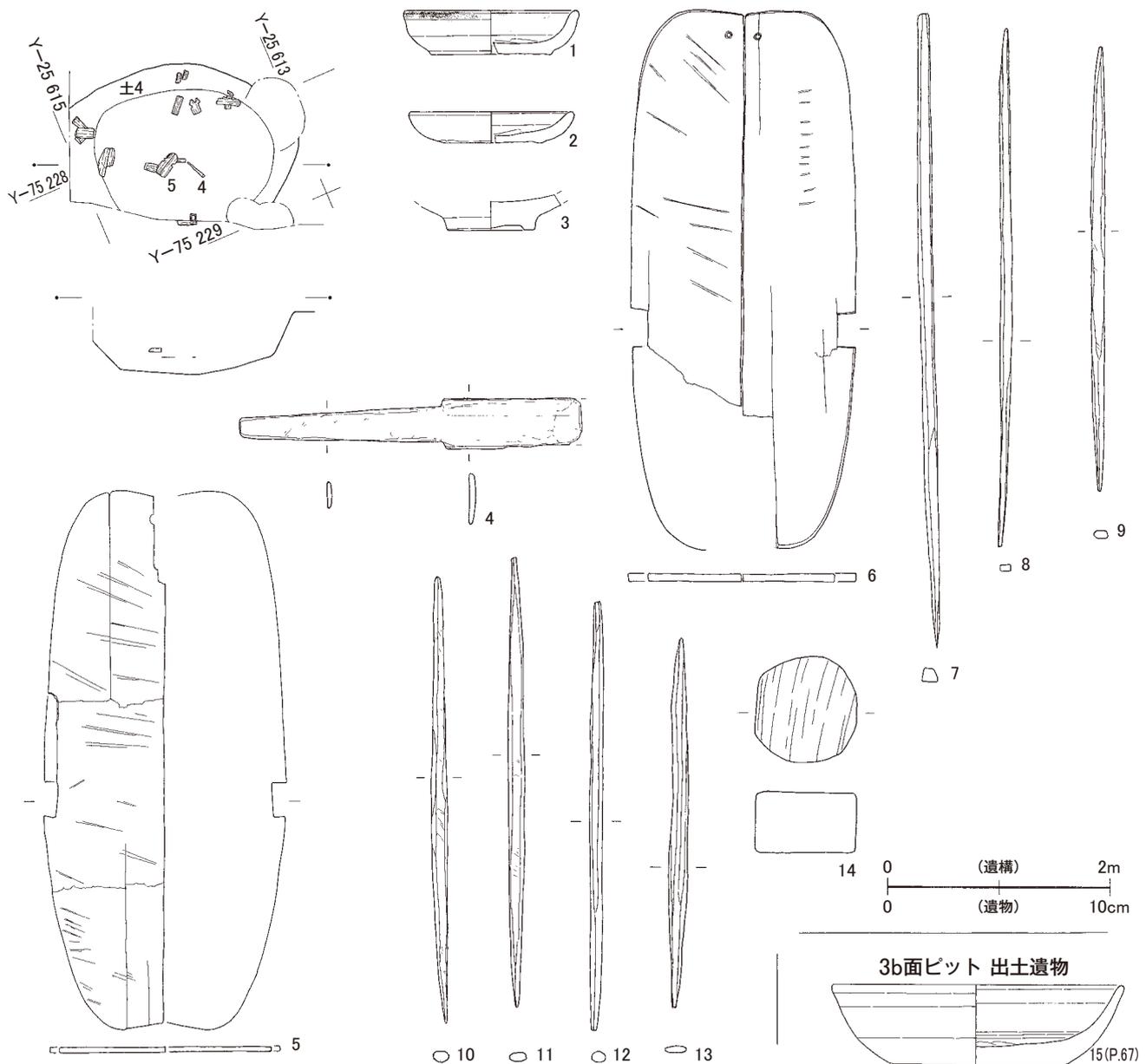


図13 土坑4、同出土遺物・3b面ピット出土遺物

～13)・土師器皿R種大型(14～25)・土器質火鉢(26)・漆器皿(27)・漆器椀(28)・板草履芯(29～31)・木製品円盤(32)・木製品栓(33)・木製品肘木(34)・串状木製品(35・36)・箸状木製品(37)・串状木製品(38)・箸状木製品(39・40) 特記事項：土師器皿は13世紀中頃を上限とするもの。33の木製品は栓になるか。

土坑4(図13)

位置：X-75 227.31～-75 228.90 Y-25 613.04～-25 615.18 充填土：青灰色弱砂質土・暗茶色繊維質土 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径(2.16m)×短径(1.48m)×深さ(0.52m) 主軸方位：N-74°-W 重複関係：P.64・67・68他ピット2穴に切られる 出土遺物：土師器皿R種小型(1・2)・竜泉窯青磁碗(3)・鉄製品刀子(4)・板草履芯(5・6)・串状木製品(7)・箸状木製品(8～13)・不明木製品(14) 特記事項：繊維質土が厚く堆積し、ウジのサナギも確認できた。有機質の廃棄物が充填されていた土坑か。土師器皿は13世紀中頃を上限とするもの。3の青磁は大宰府I類かII類にあたるが施文の有無が不明。図示した遺物は全て繊維質土内か繊維質直上のもの。

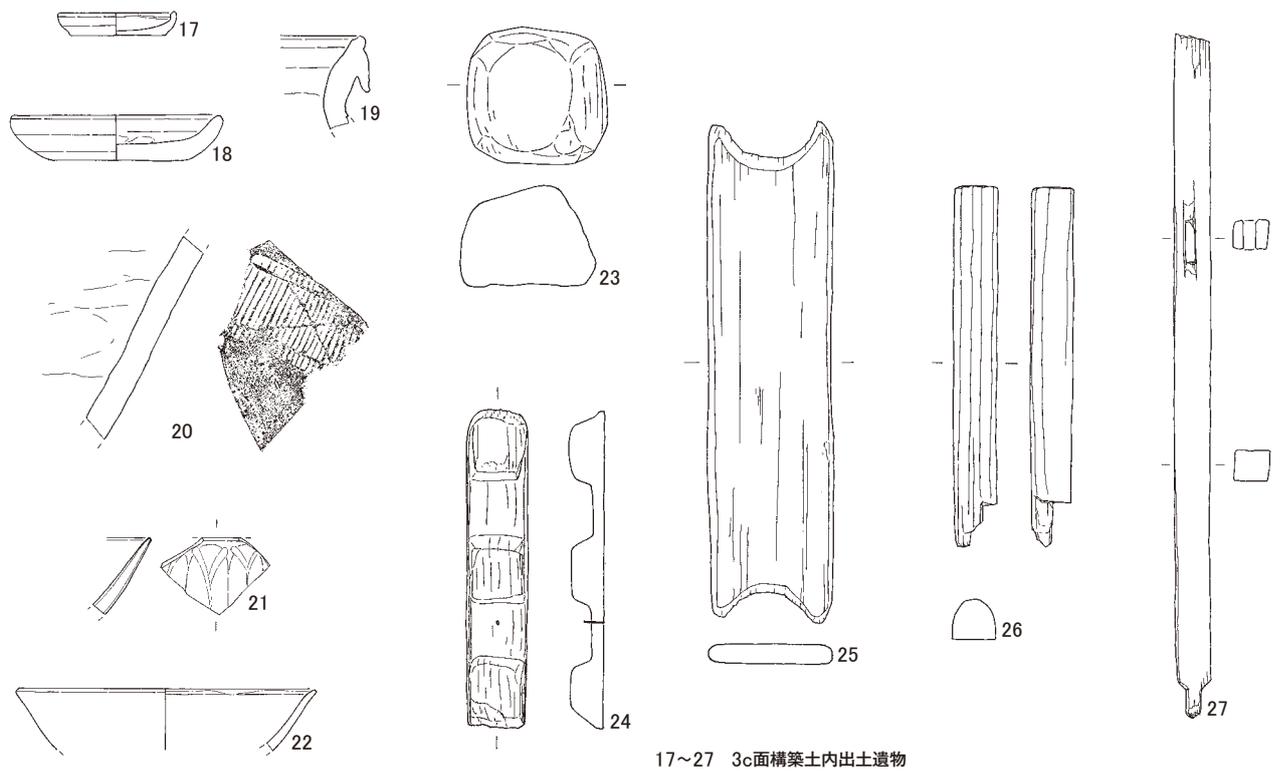
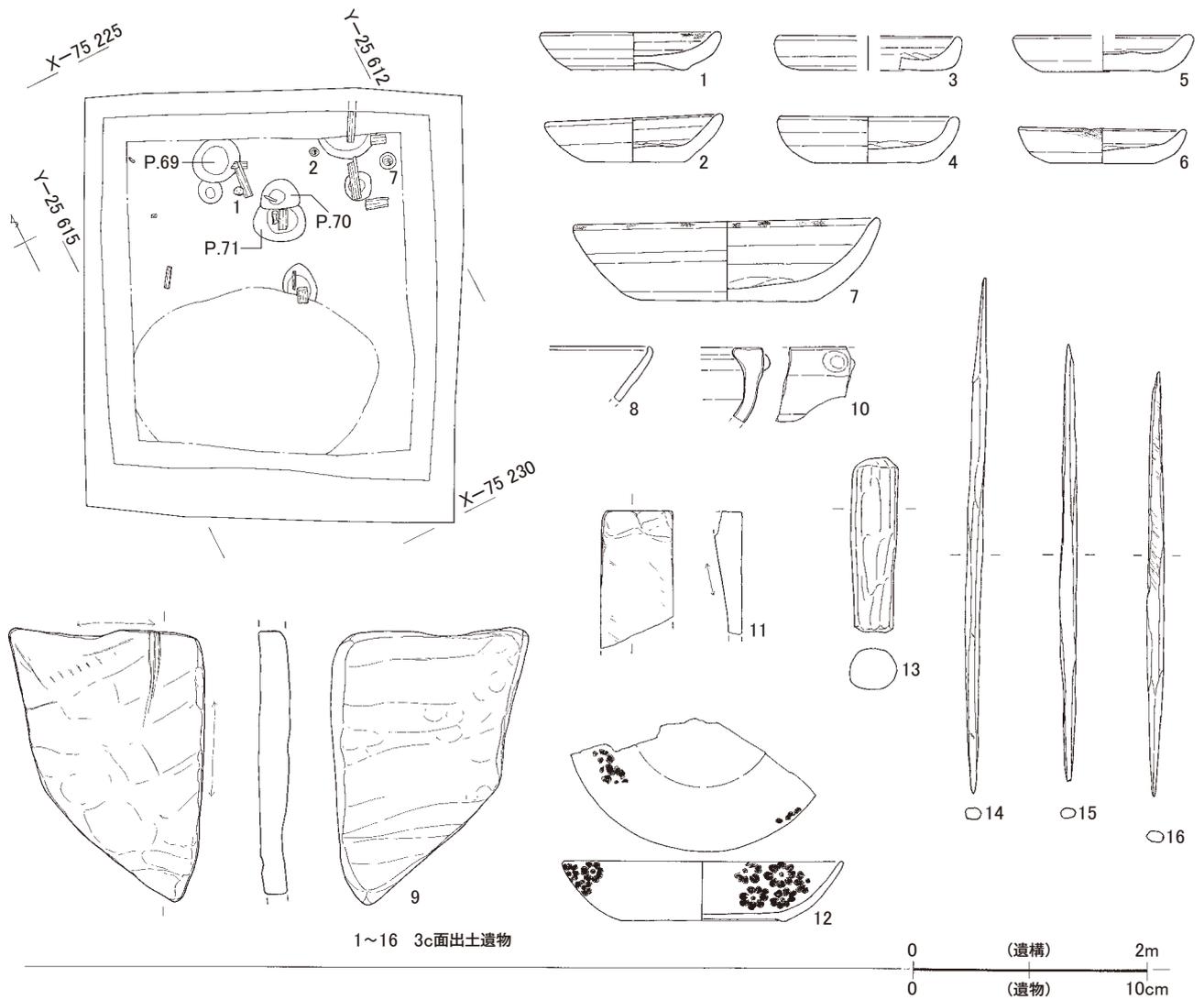
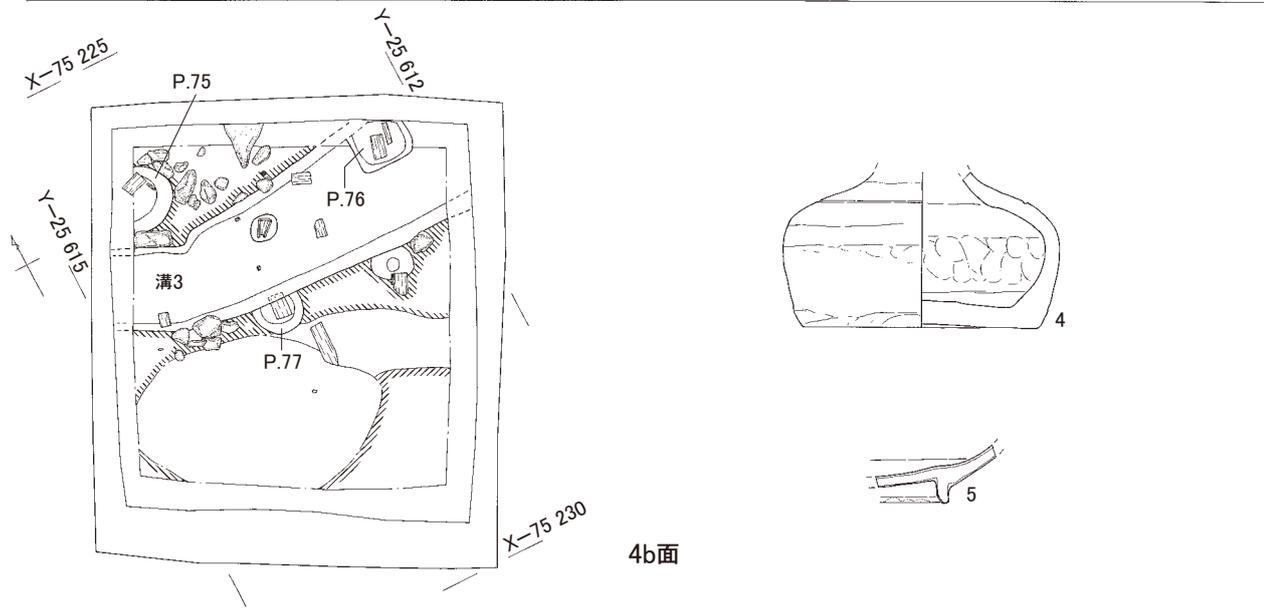
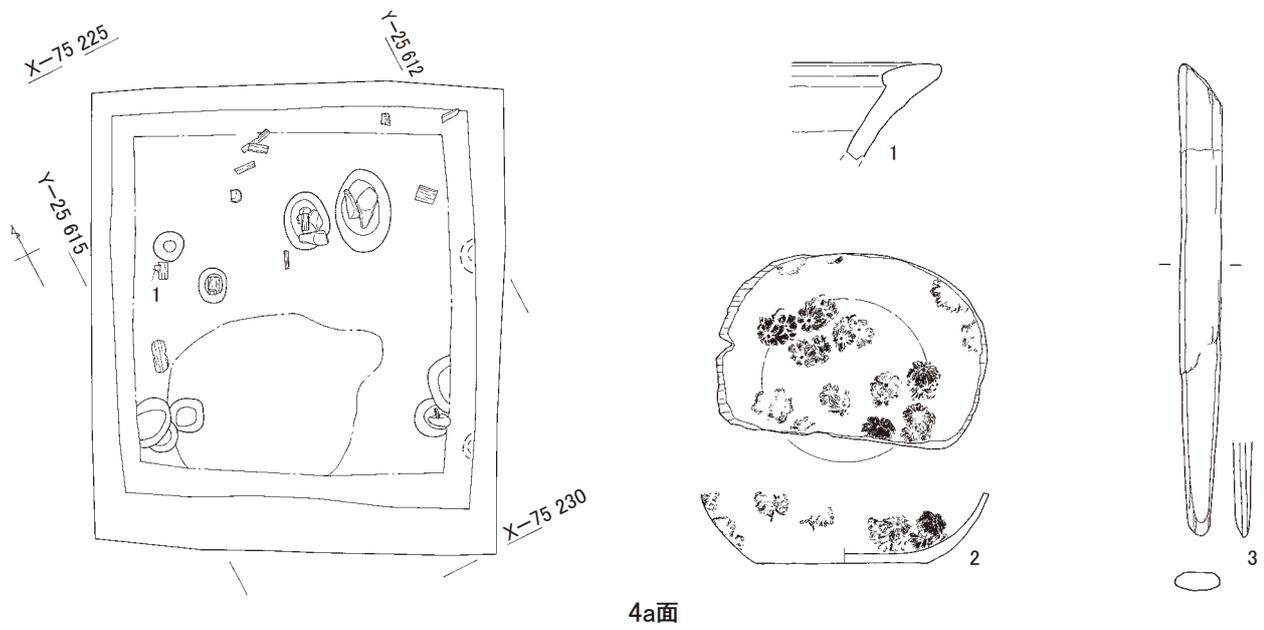


図14 3c面遺構全図、同出土遺物・3c面構築土内出土遺物



0 (遺構) 2m
0 (遺物) 10cm

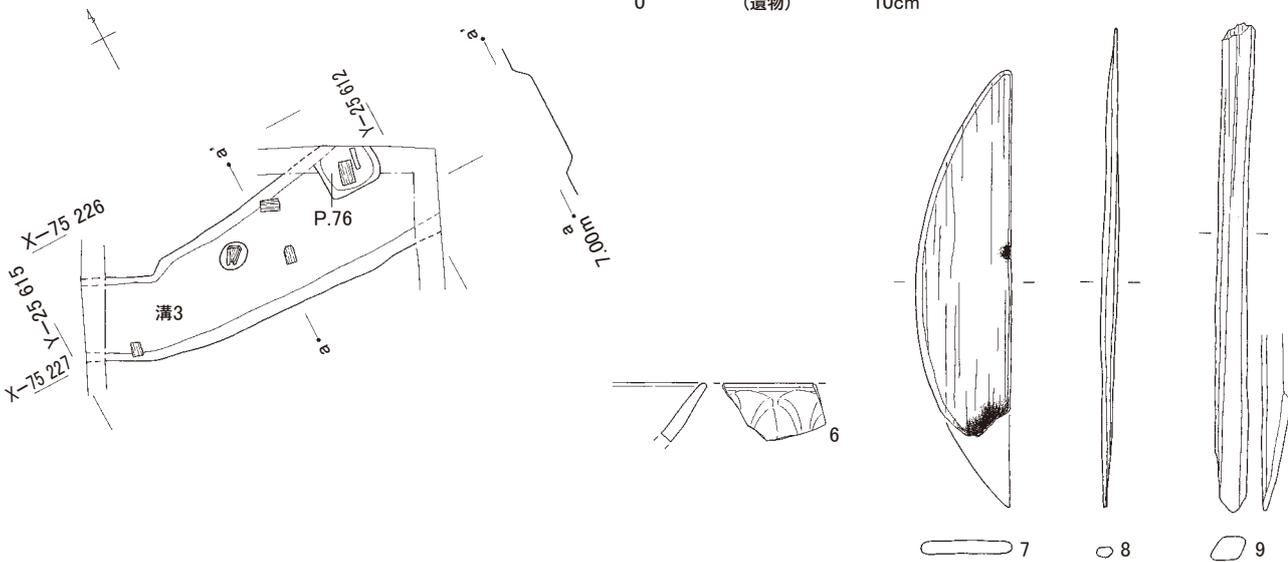


图15 4a面遺構全図、同出土遺物・4b面遺構全図、同出土遺物・溝3、同出土遺物

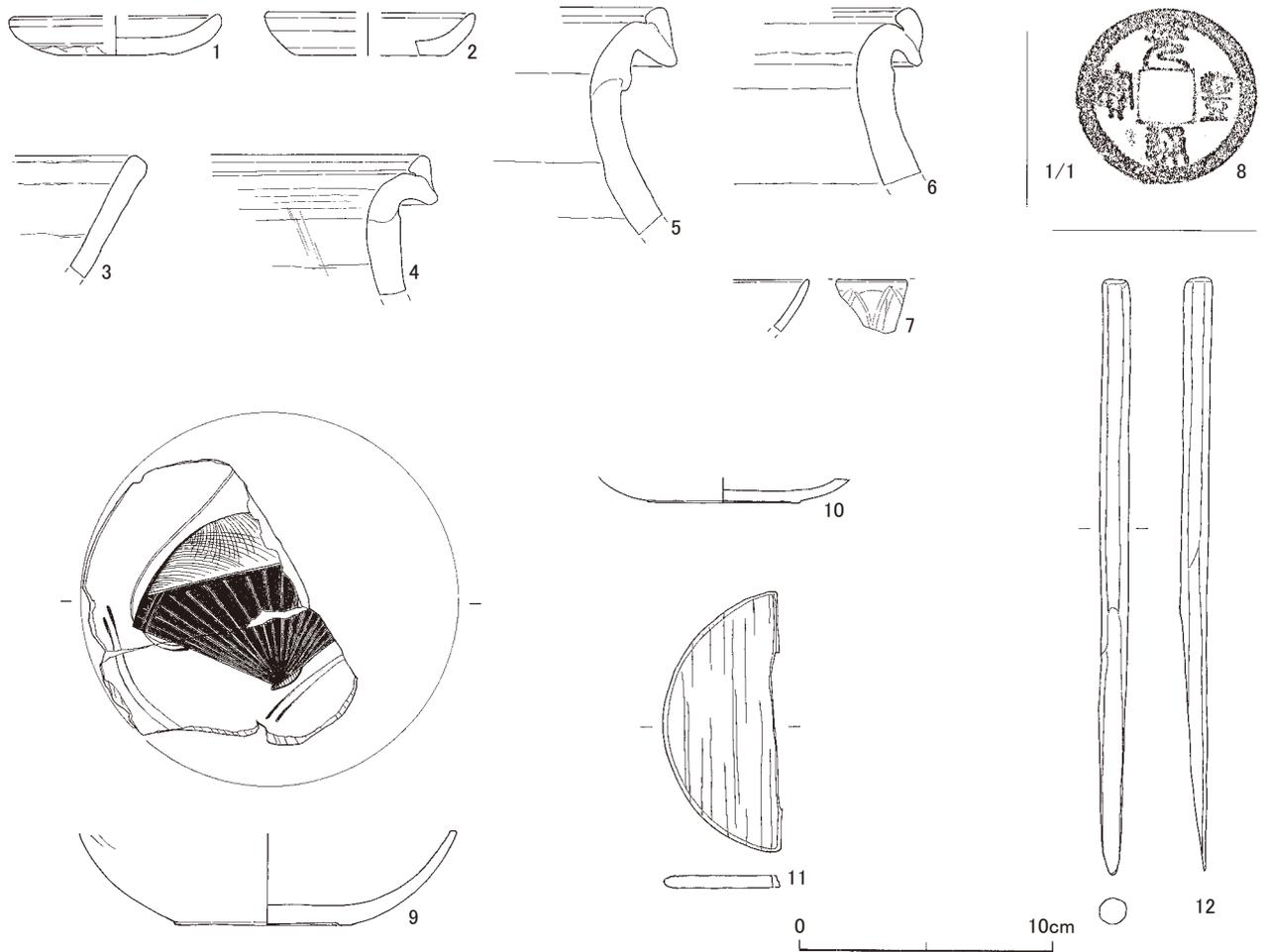


図16 4 b 面構築土内出土遺物

3 b 面ピット出土遺物 (図 13)

出土遺物：(P.67) 土師器皿 R 種 (15) 特記事項：土師器皿は 13 世紀後葉を上限とするもの。

5. 3 c 面

面の概要 (図 14)

検出高：7.15 m～7.20 m 面構成土：炭化物を多く含む砂質土 検出遺構：ピット 6 穴 3 c 面出土遺物：土師器皿 R 種小型 (1～6)・土師器皿 R 種大型 (7)・白色系土師器皿 R 種大型 (8)・常滑甕転用摩耗陶片 (9)・竜泉窯青磁皿類香炉 (10)・砥石仕上砥 (11)・漆器椀 (12)・不明木製品 (13)・箸状木製品 (14～16)
特記事項：土師器皿は 13 世紀後半以降のもの。10 の青磁は大宰府分類 III 類併行のもの。

3 c 面構築土内出土遺物 (図 14)

出土遺物：土師器皿 R 種極小型 (17)・土師器皿 R 種小型 (18)・常滑甕 (19・20)・竜泉窯青磁皿類碗 (21)・白磁 IX 類皿 (22)・不明木製品 (23～25)・不明木製品部材 (26・27) 特記事項：土師器皿は 13 世紀後半以降のもの。21 の青磁は大宰府分類 III 類。22 の白磁は大宰府分類 IX 類。25 の木製品は糸巻きか。27 の木製品は建具の部材になる可能性がある。

6. 4 a 面

面の概要 (図 15)

検出高：6.95 m～7.15 m 面構成土：暗青灰色砂質土・青灰色砂質土 検出遺構：ピット 9 穴 4 a

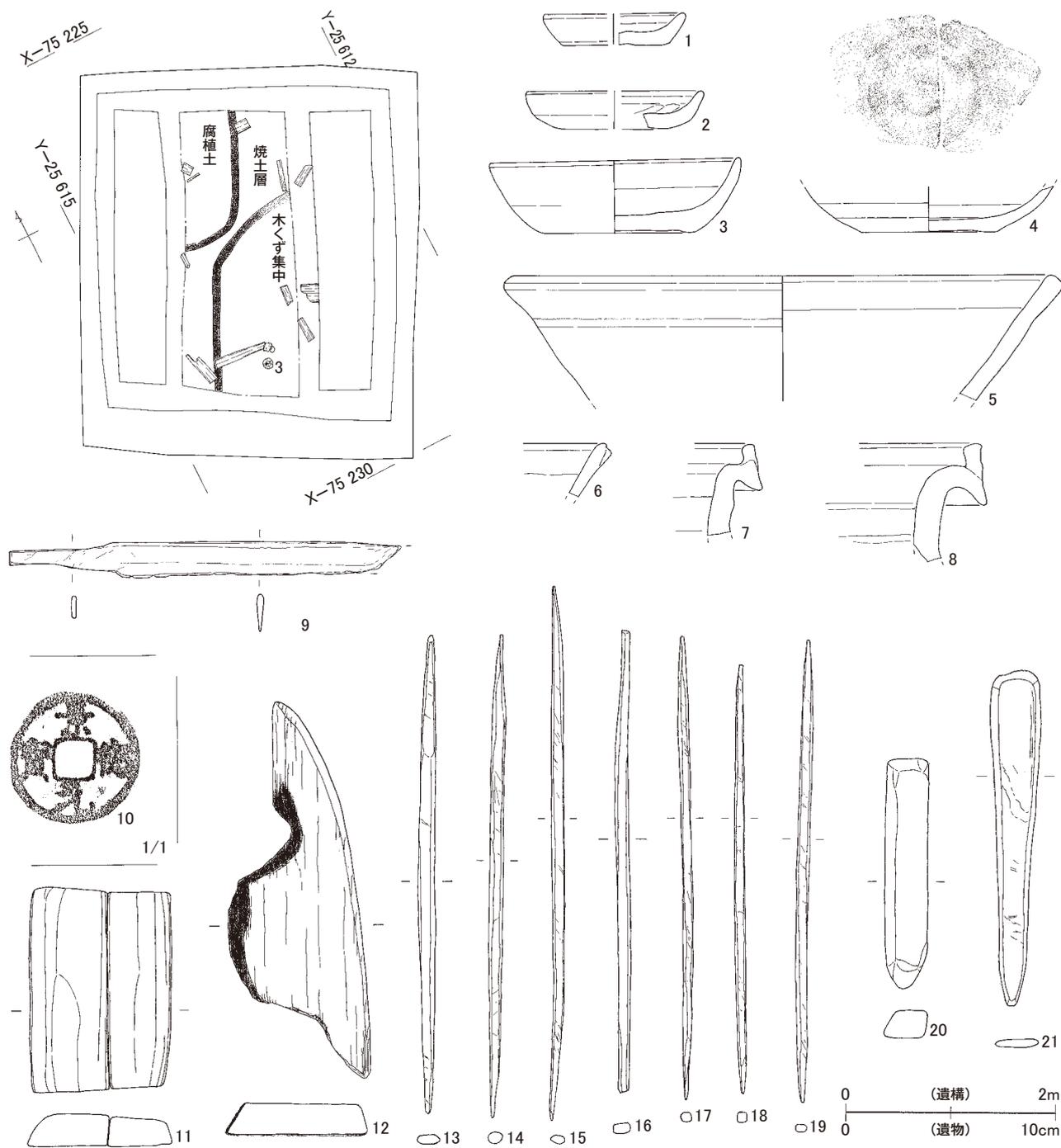


図17 5a面遺構全図、同出土遺物

面出土遺物：土器質火鉢 (1)・漆器碗 (2)・ヘラ状木製品 (3) 特記事項：調査区南側は上層土坑により大きく削平されている。

7.4 b面

面の概要 (図15)

検出高：6.81m～6.95m 面構成土：暗青灰色砂質土・青灰色砂質土 検出遺構：溝1・ピット5穴

4b面出土遺物：常滑鳶口壺 (4)・竜泉窯青磁Ⅲ類鉢 (5) 特記事項：調査区南側は上層土坑により大きく削平されている。4の常滑鳶口壺は13世紀中葉頃に多く生産されたもの。5の青磁は大宰府分類Ⅲ類。

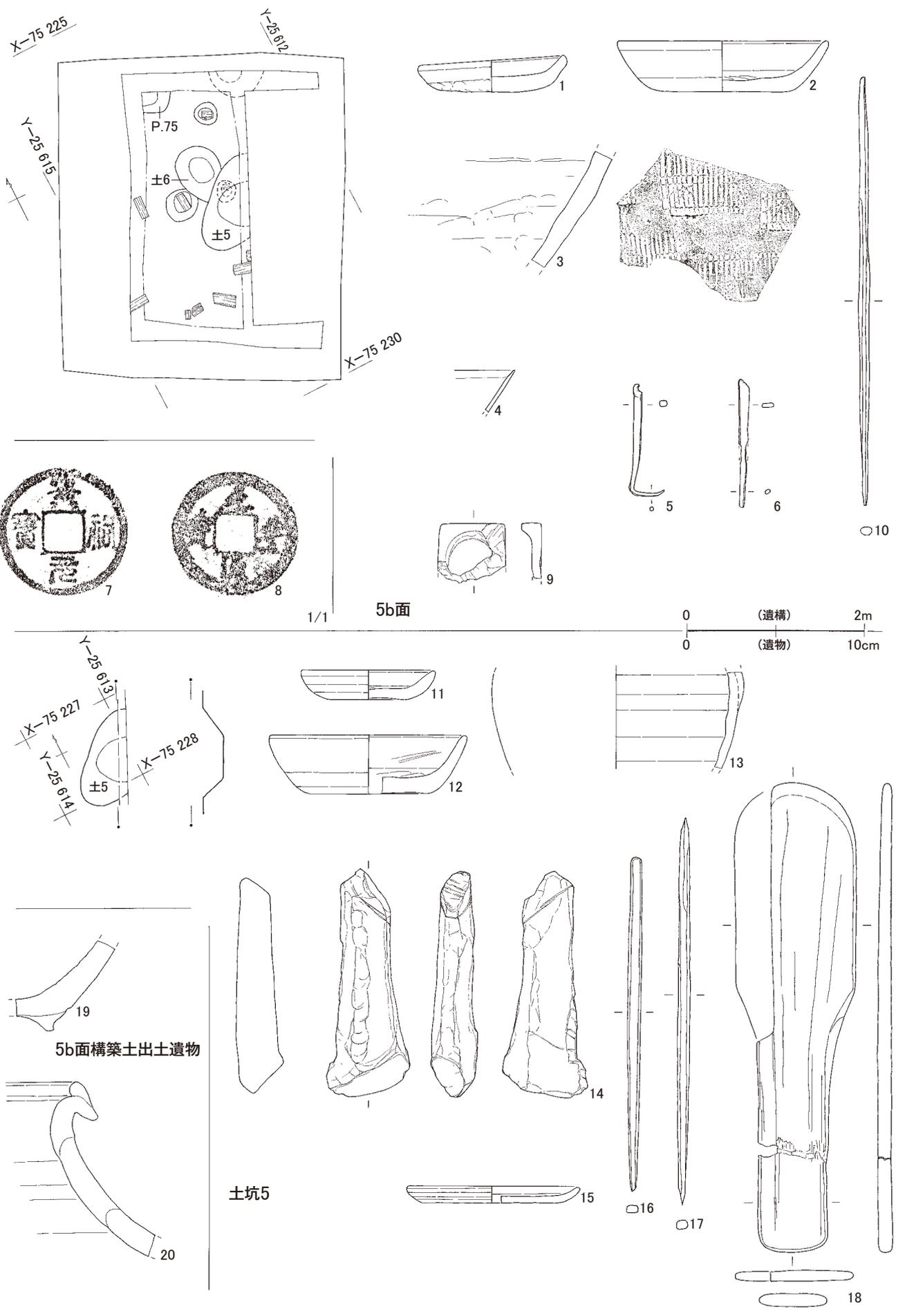


图 18 5b 遺構全図、同出土遺物・土坑5、同出土遺物・5b面構築土

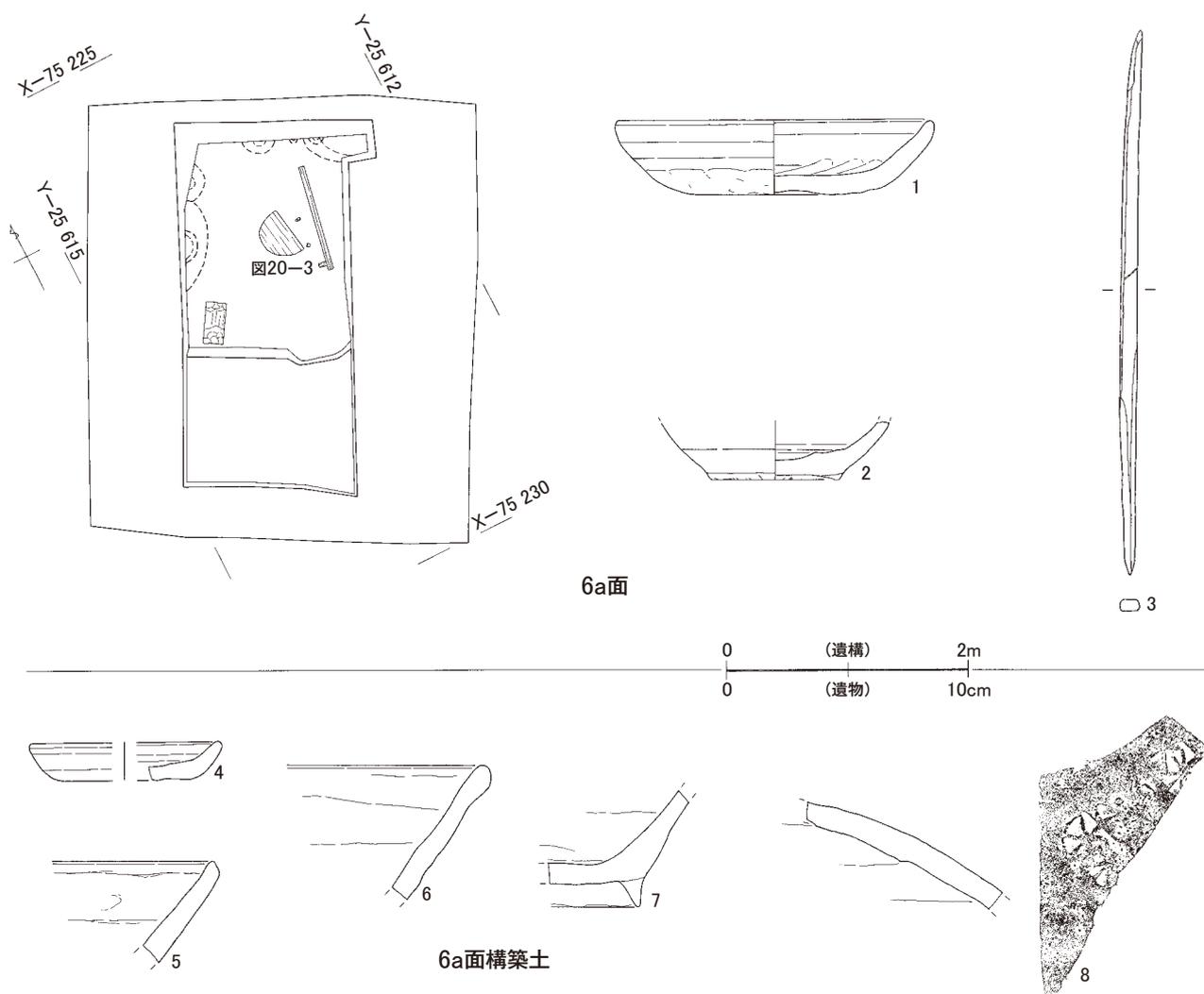


図19 6a面遺構全図、同出土遺物・6a面構築土内出土遺物

溝3 (図15)

位置: X(-75 226.32 ~ -75 227.40) Y(-25 611.90 ~ -25 615.92) 断面形: 浅皿形 規模: 最大幅1.07 m × 長さ(3.22 m) × 深さ0.11 m 主軸方位: N-90° -E 重複関係: P.76・77を切る 出土遺物: 竜泉窯青磁Ⅱ類碗(6)・木製品円盤(7)・箸状木製品(8)・へら状木製品(9) 特記事項: 6の青磁は大宰府分類Ⅱ類。7の円盤は蓋ないし底になるものか。

4b面構築土内出土遺物 (図16)

出土遺物: 土師器皿T種小型(1)・土師器皿R種小型(2)・常滑片口鉢Ⅰ類鉢(3)・常滑甕(4~6)・竜泉窯青磁Ⅱ類碗(7)・元豊通宝(8)・漆器碗(9・10)・木製品円盤(11)・へら状木製品(12) 特記事項: 土師器皿は13世紀後半以降のもの。3の片口鉢は中野編年5型式~6a型式のもの。常滑甕は6a型式から6b型式のもの。11の円盤は蓋か底になるか。

8.5 a面

面の概要 (図17)

検出高: 6.60 m ~ 6.70 m 面構成土: 暗青灰色砂質土・暗茶褐色腐植土 検出遺構: 5a面出土遺物: 土師器皿R種小型(1・2)・土師器皿R種大型(3・4)・常滑片口鉢Ⅰ類(5・6)・常滑甕(7・8)・鉄製品刀子(9)・景德元宝(10)・不明木製品(11)・木製品円盤(12)・箸状木製品(13~15)・棒状木製品(16)・

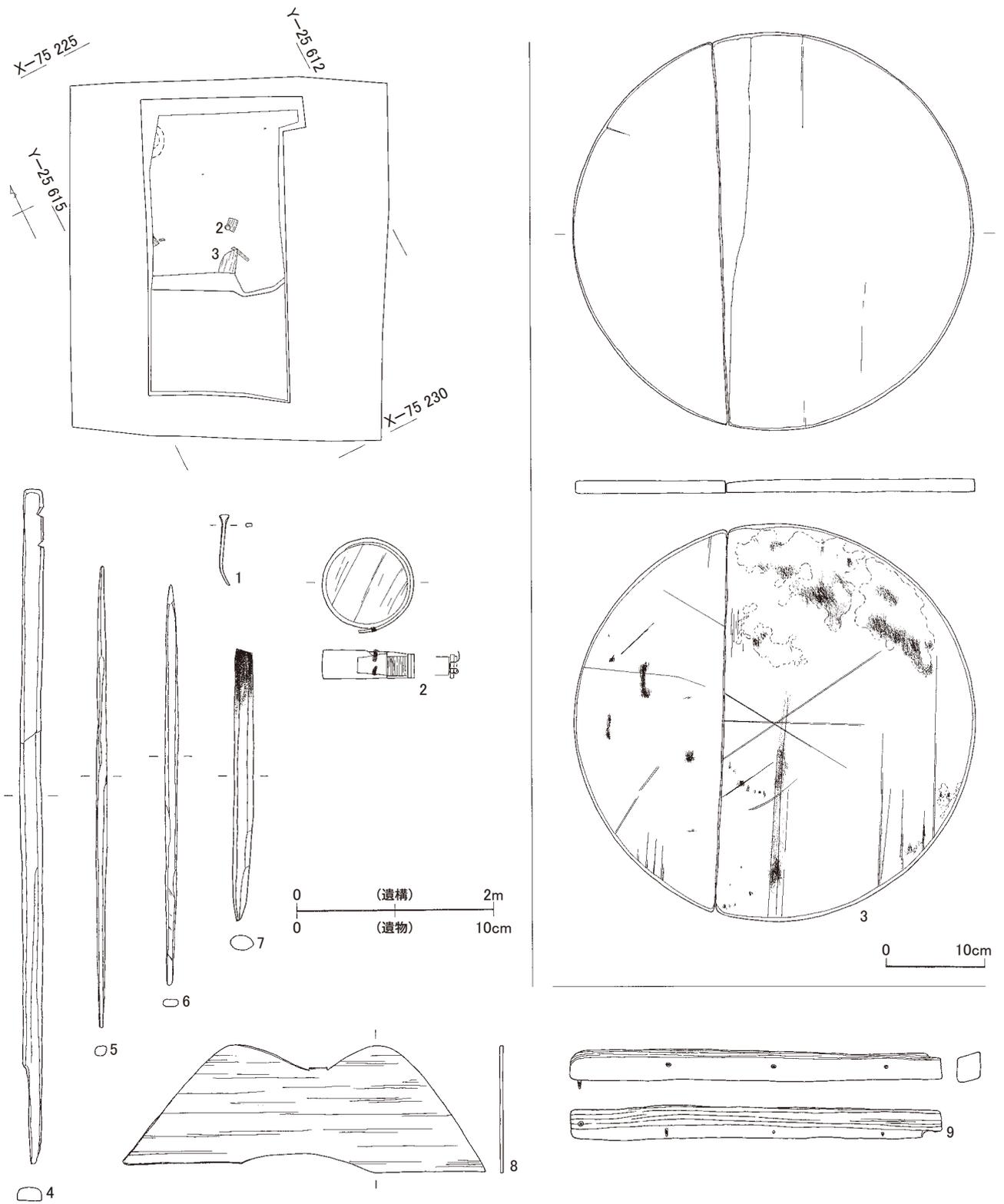


図20 6 b面遺構全図、同出土遺物

箸状木製品 (17～19)・不明木製品 (20・21) 特記事項：腐植土、焼土、木くず集中で構成されており、遺構面と評価できるかは定かではない。土師器皿は13世紀後半以降のもの。片口鉢Ⅰ類は中野編年5～6 b型式のもの。常滑甕は6 b～7型式のもの。

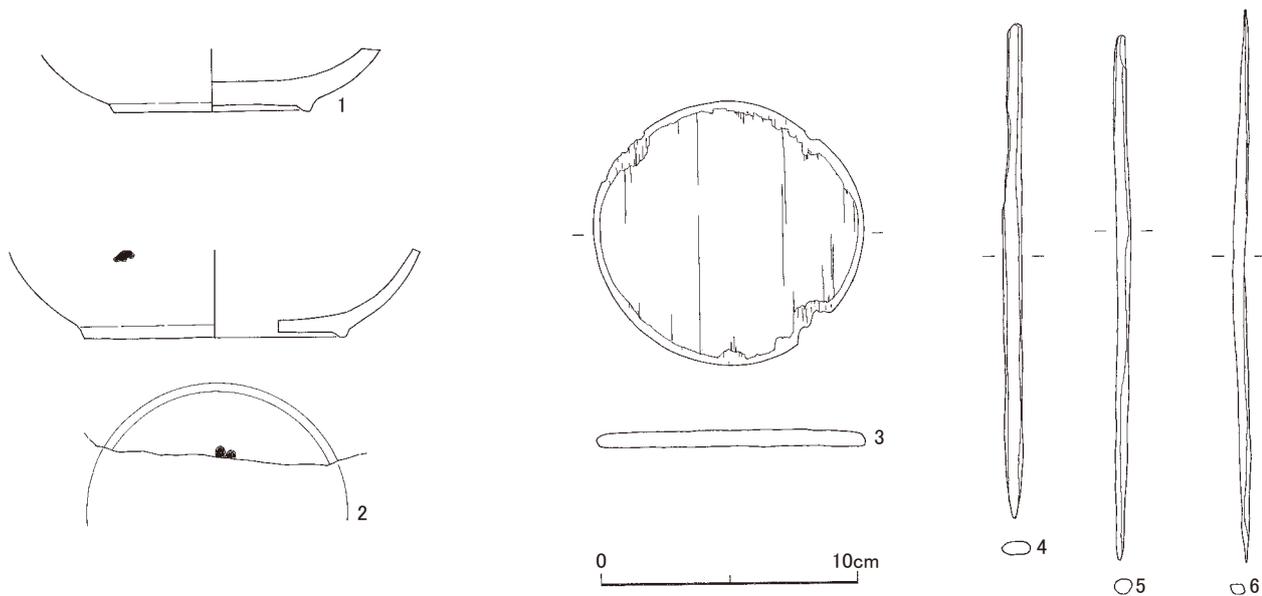


図21 6 b面構築土内出土遺物

9. 5 b 面

面の概要 (図18)

検出高:6.52 m～6.63 m 面構成土:暗茶褐色腐植土 検出遺構:土坑2基・ピット6穴 5 b面出土遺物:土師器皿T種小型(1)・土師器皿R種大型(2)・常滑甕(3)・青白磁碗(4)・鉄釘(5)・不明鉄製品(6)・景祐元宝(7)・元豊通宝(8)・石製品硯(9)・箸状木製品(10) 特記事項:土師器皿は13世紀中葉頃のもの。

土坑5 (図18)

位置:X(-75 227.18～-75 228.12) Y(-25 612.75)～-25 613.73 充填土:暗茶褐色繊維質土 断面形:深皿形か 規模:最大幅(0.90 m)×長さ(0.65 m)×深さ0.25 m 主軸方位:N-57°-W 重複関係:土6を切る 出土遺物:土師器皿R種小型(11)・土師器皿R種大型(12)・白磁水注(13)・滑石鍋転用陽物(14)・漆器皿(15)・箸状木製品(16・17)・木製品杓子(18) 特記事項:繊維質土が充填され、ウジのサナギも確認できたことから有機物の廃棄土坑の可能性がある。土師器皿は13世紀前半のもの。

5 b面構築土内出土遺物 (図18)

出土遺物:常滑片口鉢I類(19)・常滑甕(20) 特記事項:常滑甕は6 a～6 b型式か。

10. 6 a 面

面の概要 (図19)

検出高:6.40 m～6.48 m 面構成土:暗灰褐色粘質土 検出遺構:ピット4穴 6 a面出土遺物:土師器皿T種小型(1)・尾張型山茶碗(2)・箸状木製品(3) 特記事項:この検出面で出土した木製品円盤は下層のものと接合した。1の土師器皿は13世紀前半のもの。2の山茶碗は藤澤編年第6型式ないし第7型式のもの。

6 a面構築土内出土遺物 (図19)

出土遺物:土師器皿R種小型(4)・常滑片口鉢II類(5)・常滑片口鉢I類(6・7)・常滑甕(8) 特記事項:土師器皿は13世紀後半のもの。常滑片口鉢I類は中野編年5～6 a型式のもの。

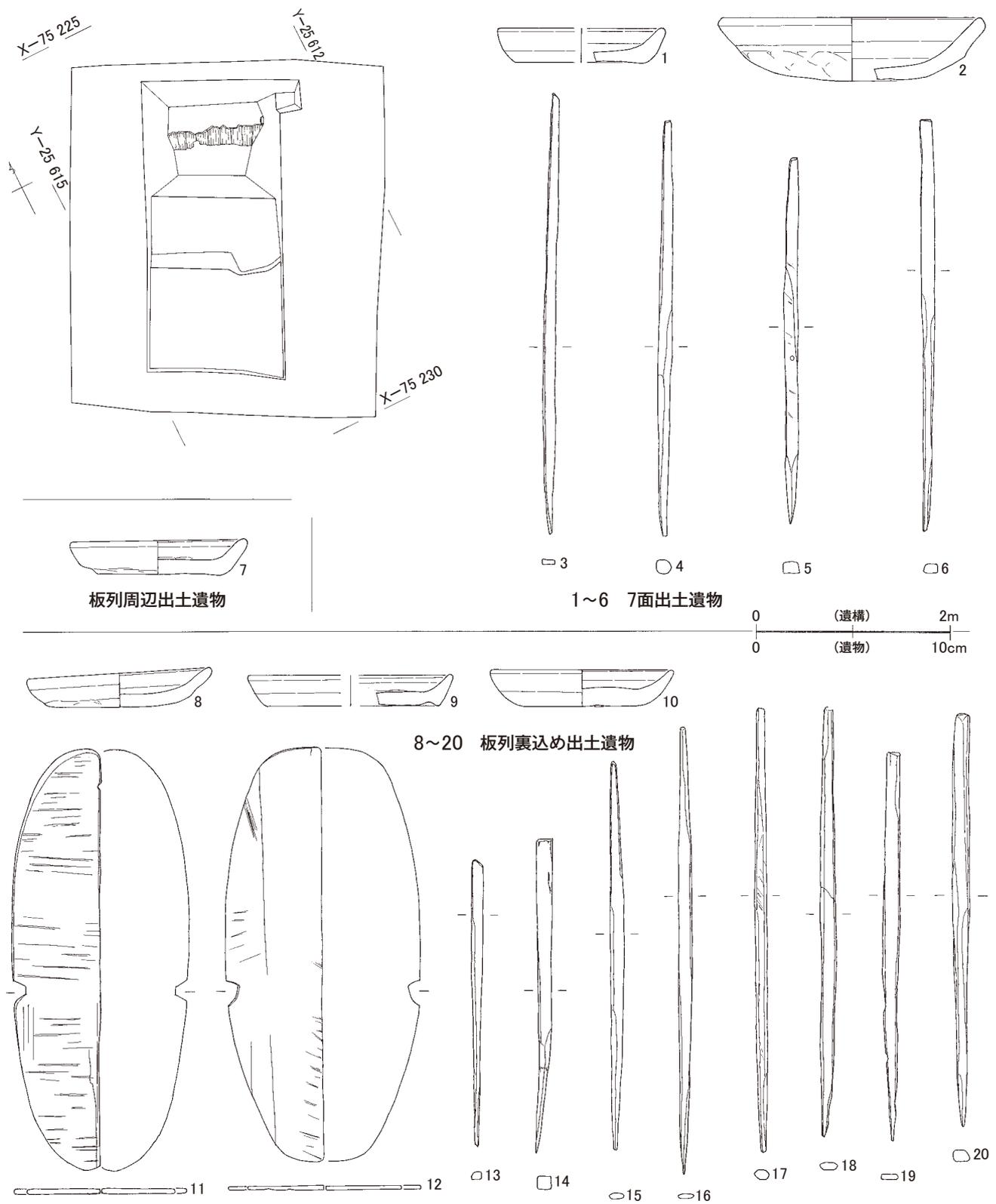


図22 7面遺構全図、同出土遺物・板列裏込め出土遺物

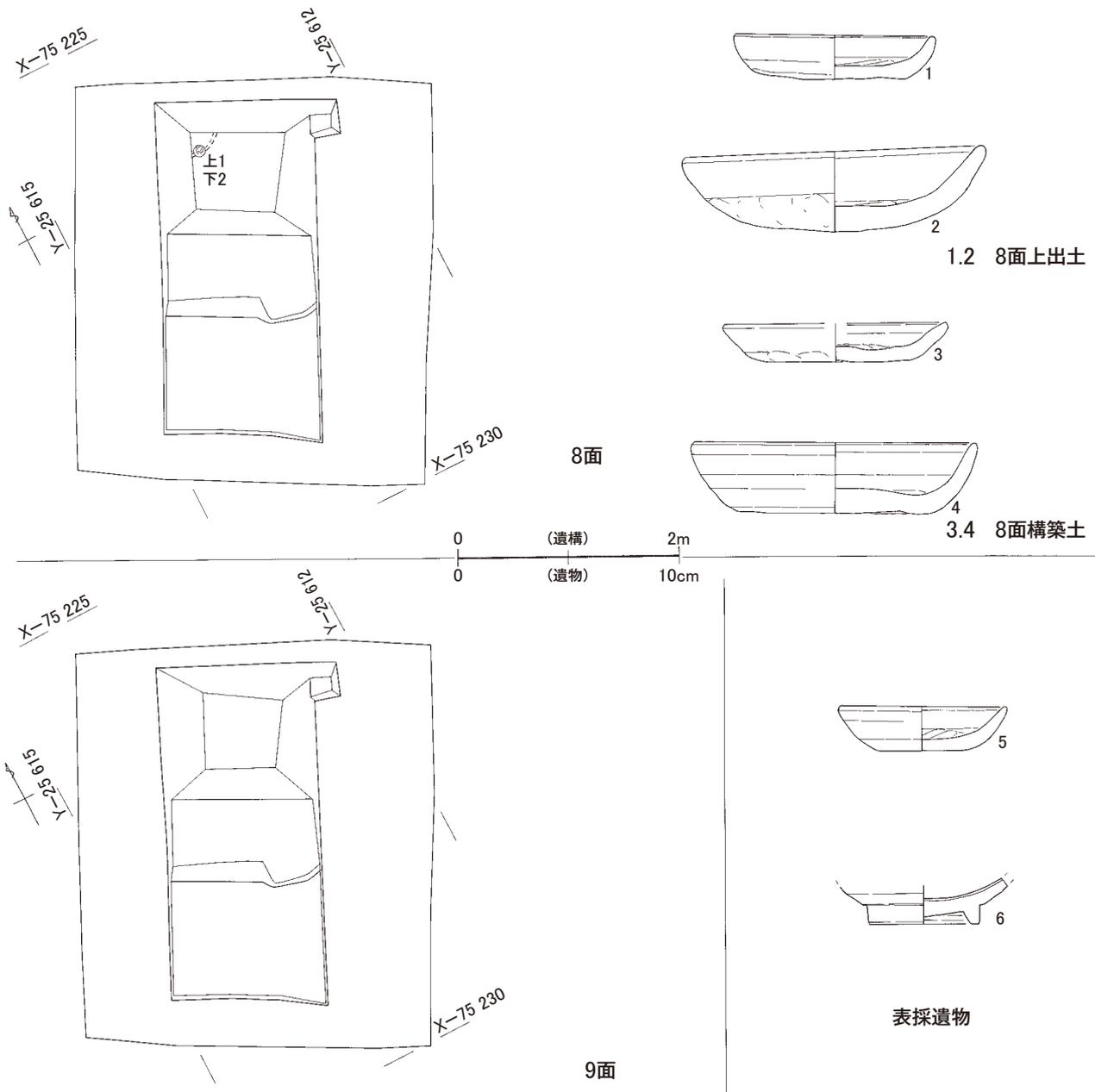


図23 8面遺構全図、同出土遺物・9面遺構全図、同出土遺物

11. 6 b 面

面の概要 (図20)

検出高：6.15 m～6.20 m 面構成土：暗灰褐色粘質土 検出遺構：ピット1穴 6 b面出土遺物：釘状鉄製品 (1)・曲物 (2)・木製品円盤 (3)・棒状木製品 (4)・箸状木製品 (5・6)・へら状木製品 (7)・不明木製品 (8)・不明木製品部材 (9) 特記事項：2の木製品円盤は6 a面出土のものと接合。底か蓋になるか。8・9の木製品は調度品の部材になる可能性もある。

6 b面構築土内出土遺物 (図21)

出土遺物：漆器椀 (1・2)・木製品円盤 (3)・箸状木製品 (4～6) 特記事項：漆器椀はいずれも輪高台のもの。1は厚手、2は薄手である。

12. 7面

面の概要 (図22)

検出高：5.92 m～5.97 m 面構成土：灰褐色粘質土 検出遺構：板列1列 7面出土遺物：土師器皿 R種小型(1)・土師器皿 T種大型(2)・棒状木製品(3～6) 特記事項：調査区狭小のため板列とそれに伴う落ちを検出したに留まる。調査区が狭小なため、板列とそれに伴う落ち等が逆である可能性を否定しない。土師器皿は13世紀中葉を中心とするもの。

板列周辺出土遺物 (図22)

出土遺物：土師器皿 R種小型(7)

板列裏込め出土遺物 (図22)

出土遺物：土師器皿 T種小型(8)・土師器皿 R種小型(9・10)・板草履芯(11・12)・串状木製品(13・14)・箸状木製品(15～20) 特記事項：土師器皿は13世紀中葉を中心とするもの。

13. 8面

面の概要 (図23)

検出高：5.60 m～5.62 m 面構成土：灰褐色粘質土 検出遺構：ピット1穴 8面出土遺物：土師器皿 R種小型(1)・土師器皿 T種大型(2) 特記事項：調査区狭小のため全容は不明。土師器皿は13世紀第2四半期あたりを上限とする。

8面構築土内出土遺物：土師器皿 T種小型(3)・土師器皿 R種大型(4) 特記事項：調査区狭小のため全容は不明。土師器皿は13世紀第2四半期あたりを上限とする。

14. 9面

面の概要 (図23)

検出高：5.30 m～5.45 m 面構成土：暗灰褐色粘質土 検出遺構：なし 9面出土遺物：凶化可能遺物なし 特記事項：面構成土にあたる102層の土層注記には「遺物片含む」とあるが、現地調査では遺物の取り上げはない。土層中に茶色の5 mm程度までの粒子が含まれることがあるが、これを遺物片と誤認した可能性もあるので、この面を遺構面とできるかは定かではない。

15. 表採遺物

面の概要 (図23)

土師器皿 R種小型(5)・瀬戸丸碗か(6)

16. 土層断面出土遺物

土層の概要 (図4)

土師器皿 R種大型(1)・瓦質火鉢(2)・土師器皿 R種小型(3)

表1 出土遺物観察表(1)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図4-1	調査区北壁	土師器皿 R種大型	口径(12.9)cm 底径(6.9)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	調査区東壁	瓦質 火鉢	口径(32.0)cm 胎土は灰白色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫片を含む 外面に焼きムラ・煤 内外面にナデ
3	調査区西壁	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm 底径(6.4)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図5-1	1面	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径4.7cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯(微)を含む
2	1面	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径6.0cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	1面	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径5.3cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	1面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径5.1cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	1面	穿孔土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.4)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	1面	土師器皿 R種大型	口径(12.5)cm 底径7.8cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内外面に煤
7	1面	フイゴ 羽口	残存長(5.0)cm 残存幅(4.3)cm 厚さ2.0cm 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・礫片を含む 先端に鈹滓付着
8	1面	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 付高台 内面剥離するほど磨耗 体部外面下位回転ヘラ削り 高台端部磨耗
9	1面	渥美 甕	胴部片 輪積み成形 胎土は灰褐色で白色粒子・礫片を含む 器表面に叩き目
10	1面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は暗赤褐色
11	1面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 器表面は暗赤褐色で、器表面外面に淡黄色の降灰
12	1面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 口縁部横ナデ 胎土は暗赤褐色で白色粒子・長石・礫片を含む 器表面は暗赤褐色
13	1面	備前 播鉢	胴部小片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 器表面は暗赤褐色 内面に8条の櫛目が入る 断面四面を弱く磨削している
14	1面	備前 播鉢	胴部小片 輪積み成形 胎土は暗赤褐色で白色粒子・礫片を含む 器表面は褐色 内面に4条の櫛目、灰白色の自然釉 内面調整確認できるが磨耗
15	1面	瀬戸 卸皿	口径(15.2)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色 器表内面に灰白色の灰釉ハケ塗り
16	1面	瀬戸 卸皿	口縁部小片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は淡黄色で白色粒子を含む 灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
17	1面	瀬戸 折縁深皿	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子を含む 灰白色の灰釉漬け掛け
18	1面	瀬戸 香炉か	口縁部小片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は淡黄色 オリーブ褐色の鉄釉漬け掛け
19	1面	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は灰オリーブ色透明 内面に片切り彫りによる区画線
20	1面	瀬戸 碗か	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色で黒色粒子を含む 灰白色の灰釉漬け掛け
21	1面	石製品 硯	残存長(6.9)cm 残存幅(6.2)cm 厚さ1.3cm 鳴滝硯 表面に花と波模様の線彫り 裏面に平タガネ痕と剥離による浅いくぼみあり
22	建物1 P.4	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.2)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯を含む
23	土坑1	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む 口縁部横ナデ
24	土坑1	瀬戸 平底末広碗	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 外底部右回転糸切り 胎土は灰色 内外面に灰白色の灰釉ハケ塗り
25	土坑1	瀬戸 卸皿	底部片 外底部右回転糸切り 板状圧痕 胎土は灰色 灰白色の灰釉ハケ塗り
26	P.3	土師器皿 R種大型	口径(13.7)cm 底径(9.1)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図6-1	土坑2	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	土坑2	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.1)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表2 出土遺物観察表(2)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図6-3	土坑2	瓦器質 輪花火鉢	口縁部片 胎土は灰白色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 外面に煤 内外面にへら磨き 残存長(7.0)cm 残存幅(4.5)cm
4	土坑2	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は赤褐色で、口縁上部に灰白色の降灰
5	土坑2	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗赤褐色で、口縁上部に灰白色の降灰 胎土は黄灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	土坑2	常滑 甕	底部片 輪積み成形 胎土は黄灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む
7	土坑2	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英を含む 表面は赤褐色 内面は黄灰色 断面3面磨耗
8	土坑2	瀬戸 卸皿	口縁部片 ロクロ整形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子を含む 器表面に灰白色の灰釉ハケ塗り
9	土坑2	瀬戸 蓋か	口縁部小片 胎土は灰色 灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
10	土坑2	青白磁 碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色 釉薬は明緑灰色透明 口縁部は釉面取り
11	P.1	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	P.1	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(4.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
13	P.1	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm 底径7.2cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
14	P.1	瀬戸 柄付片口	把手部 胎土は灰黄色 灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
15	P.6	瓦器質 火鉢	口縁部片 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・礫片・小石粒を含む 器表面は灰赤色 外面に菊花押印文あり 内外面にへら磨き
16	P.8	瓦質 火鉢	口径(27.2)cm 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・礫片・小石粒を含む 器表面は灰色 内外面に横ナデ
17	P.10	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(4.7)cm 器高2.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
18	P.13	常滑 壺	底径(10.0)cm 輪積み成形 胎土は暗灰色で白色粒・石英・礫片・小石粒を含む 底面に離れ砂 器表面は橙色、内面は暗赤褐色で灰白色の降灰 外面は板状工具による縦位ナデの後、横位ナデ
19	P.15	土師器皿 R種大型	口径(10.0)cm 底径(6.4)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
20	P.15	瀬戸 卸皿	口縁部片 ロクロ整形 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・礫片を含む 器表面は灰釉ハケ塗り
21	P.16	鉄製品 鑿か	長さ8.0cm 幅1.0cm 厚さ0.5cm 重さ16.0g
22	P.18	穿孔土師器皿 R種小型	口径(8.1)cm 底径(5.6)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 枝状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
23	P.19	常滑 甕	口縁部小片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子を含む 器表内面は暗赤褐色 口縁部に灰オリーブ色の降灰
24	P.25	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm 底径(8.0)cm 器高3.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土 はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・礫片・海綿骨芯を含む
25	P.25	青白磁 梅瓶	胴部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色透明 内面は無釉 断面に漆が付着しており漆継ぎ痕か
26	P.26	瓦器質 土鍋	口縁部小片 胎土は灰色 口縁上部に炭素吸着あり 西国産か
27	P.27	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(5.2)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で金雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
28	P.29	土師器皿 R種大型	口径(12.0)cm 底径(6.6)cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
29	P.37	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(3.6)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
30	P.43	白磁 輪花碗	口縁部小片 素地は灰白色 釉薬は灰白色の透明 口縁部は釉面取り
31	P.44	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒・石英を含む 口縁～内面に灰白色の降灰
図7-1	2面	土師器皿 R種大型	口径(12.0)cm 底径(7.6)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土 は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	2面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・礫片を含む 器表内面は暗赤褐色 内面上部に灰白色の降灰

表3 出土遺物観察表(3)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図7-3	溝1	常滑甕	口縁部片 輪積み成形 器表内面は暗赤褐色 口縁上部と外面下部に灰色の降灰 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片・小石粒を含む 図8-13と接合
4	土坑3	土師器皿 R種大型	口径(11.6)cm 底径(6.8)cm 器高2.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	P.46	瀬戸折縁中皿	口径(16.4)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子を含む 内面は灰白色、外面は灰オリブ色の灰釉ハケ塗り 口縁部は釉剥落
図8-1	2面構築土	土師器皿 R種小型	口縁(7.4)cm 底径(5.6)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
2	2面構築土	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径4.7cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯・礫片を含む 口縁部一部橙色・煤あり
3	2面構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.5)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	2面構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.6)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子を含む 口縁部に煤付着
5	2面構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.4)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む
6	2面構築土	土師器皿 R種大型	口径12.2cm 底径(7.8)cm 器高3.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
7	2面構築土	土師器皿 R種大型	口径12.3cm 底径7.8cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
8	2面構築土	土師器皿 R種大型	口径(13.8)cm 底径(9.3)cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内面に煤付着
9	2面構築土	土師器皿 R種大型	口径12.0cm 底径7.4cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁に煤付着 外面に灰色の付着物
10	2面構築土	白色系土師器皿 R種大型	口縁部小片 回転ロクロ 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子を含む
11	2面構築土	土器 香炉か	口縁部片・底部片 胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子を含む 内面一部に煤付着
12	2面構築土	常滑甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 器表面は赤褐色 長石の吹き出しあり
13	2面構築土	常滑甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は赤褐色 口縁～内面上部に灰オリブ色の降灰 図7-3と接合
14	2面構築土	常滑甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は黒褐色
15	2面構築土	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英を含む 表面は暗赤褐色 断面2面磨耗
16	2面構築土	不明 銅製品	残存長(6.5)cm 残存幅(0.2)cm 厚さ0.2cm 重さ1.3g 近現代製品の可能性あり
17	2面構築土	串状 木製品	長さ26.5cm 幅1.5cm 厚さ1.2cm 片口 端部曲線状と尖頭状に加工
18	2面構築土	箸状 木製品	長さ22.7cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 片口
19	2面構築土	箸状 木製品	長さ21.3cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口
20	2面構築土	へら状 木製品	長さ15.3cm 幅1.0cm 厚さ0.7cm 片口 端部曲線状と5回の削りで細く加工
21	2面構築土	へら状 木製品	長さ12.5cm 幅1.4cm 厚さ0.4cm 端部曲線状とナイフ状に加工
図9-1	3a面	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.3)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	3a面	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.3)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3a面	土師器皿 R種小型	口径(7.5)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	3a面	土師器皿 R種大型	口径12.8cm 底径7.2cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁一部に煤
5	3a面	土師器皿 R種大型	口径(12.0)cm 底径(7.2)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁一部に煤
6	3a面	土師器皿 R種大型	口径12.9cm 底径8.0cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内底部暗灰色に煤けている
7	3a面	土師器皿 R種大型	口径(12.2)cm 底径(7.7)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表4 出土遺物観察表(4)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図9-8	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 底径(7.3)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外面暗灰色に煤けている
9	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径(13.0)cm 底径8.4cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
10	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径12.7cm 底径8.3cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
11	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径12.5cm 底径8.2cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	3 a 面	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・長石を含む 内面調整確認できないほど磨耗 付け高台
13	3 a 面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片 輪積み成形 胎土は灰褐色で白色粒子・長石・礫片を含む 口縁部一部破損
14	3 a 面	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は灰オリーブ色透明
15	3 a 面	白磁 Ⅸ類皿	口縁部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は灰白色透明 口縁部釉面取り
16	3 a 面	漆器 皿	口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.3cm 黒漆 朱漆で手描きで施文
17	3 a 面	箸状 木製品	長さ20.7cm 幅0.6cm 厚さ0.6cm 両口
18	3 a 面	箸状 木製品	長さ20.7cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 両口
19	3 a 面	箸状 木製品	長さ19.5cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 片口
20	3 a 面	箸状 木製品	長さ19.4cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口
21	3 a 面	へら状 木製品	長さ14.3cm 幅1.5cm 厚さ0.8cm 端部は斜めの切り出しと3面が1回、1面が2回の削り出し
22	3 a 面	棒状 木製品	長さ17.9cm 幅0.9cm 厚さ0.3cm 端部は直線の切り出しと4回の削りで細く加工
図10-1	3 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 焼成非常に良好
2	3 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.2)cm 底径5.6cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	3 a 面 構築土	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 回転ロクロ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内部一部に煤付着
5	3 a 面 構築土	瓦器質 碗	口縁部片 手づくね 胎土は黒色 器表内面は灰色 口縁部・体部下部に炭素吸着
6	3 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 内面に灰白色の降灰
7	3 a 面 構築土	鉄釘	長さ7.2cm 幅0.4cm 厚さ0.3cm 重量4.1g
8	3 a 面 構築土	元豊通宝	北宋 初鑄1078年 行書
9	3 a 面 構築土	箸状 木製品	長さ19.7cm 幅0.7cm 厚さ0.3cm 両口
10	3 a 面 構築土	箸状 木製品	長さ22.7cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 片口
11	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(30.2)cm 幅1.5cm 厚さ1.3cm 不貫通柄穴あり
12	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(27.7)cm 幅1.3cm 厚さ1.3cm 不貫通柄穴あり
13	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(27.8)cm 幅1.4cm 厚さ1.4cm 貫通柄穴あり
14	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(22.1)cm 幅1.3cm 厚さ1.1cm 不貫通柄穴と柄を有する
15	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(18.6)cm 幅1.2cm 厚さ1.5cm 柄を有する(中央突起)

表5 出土遺物観察表(5)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図11-1	3 b 面	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.6)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	3 b 面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径4.6cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3 b 面	土師器皿 R種大型	口径12.9cm 底径8.1cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	3 b 面	土師器皿 R種大型	口径(13.0)cm 底径7.6cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.9cm 底径5.8cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径4.9cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤
7	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径5.1cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
8	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.2cm 底径5.0cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラにより橙色の部分あり
9	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径5.5cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
10	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径5.5cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
11	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.7cm 底径5.4cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径5.5cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付着
13	遺物集中部	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径5.2cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付着
14	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径8.3cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付着
15	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径12.7cm 底径7.9cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
16	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 底径7.9cm 器高(3.6)cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
17	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm 底径(6.5)cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
18	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径12.2cm 底径7.4cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内面ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内外面に煤状の付着物
19	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径12.4cm 底径7.0cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
20	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(11.6)cm 底径(7.3)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
21	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径7.9cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外面一部に煤状付着物
22	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(13.1)cm 底径8.5cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
23	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径12.9cm 底径7.1cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部油煤付着 内外面に煤状付着物
24	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径(6.0)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は黄灰色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
25	遺物集中部	土師器皿 R種大型	口径(12.4)cm 底径(8.0)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図12-26	遺物集中部	土器質 火鉢	口径(35.4)cm 底径(28.4)cm 器高8.7cm 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・礫片を含む 内面上半部に漆喰の塗布あり 底面付近に火鉢の使用痕が認められる
27	遺物集中部	漆器 皿	口径8.4cm 底径6.8cm 器高0.9cm 外面黒漆、内面黒漆の上に朱漆
28	遺物集中部	漆器 碗	口径12.9cm 底径7.3cm 器高2.7cm 内外面黒漆 輪高台
29	遺物集中部	板草履芯	長さ24.2cm 幅5.3cm 厚さ0.2cm 板目材
30	遺物集中部	板草履芯	長さ24.3cm 幅5.4cm 厚さ0.2cm 板目材
31	遺物集中部	板草履芯	長さ24.4cm 幅5.4cm 厚さ0.2cm 板目材

表6 出土遺物観察表(6)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図12-32	遺物集中部	木製品 円盤	径17.5cm 厚さ0.4cm 桜皮3カ所付着 曲物の底板か 柾目材
33	遺物集中部	木製品 柱	頭部径3.3cm 胴部径2.2cm 長さ5.6cm 柾目材
34	遺物集中部	木製品 肘木	長さ8.4cm 幅2.3cm 厚さ0.6cm 表面に黒漆
35	遺物集中部	串状 木製品	長さ29.3cm 幅1.2cm 厚さ0.6cm 先端部炭化
36	遺物集中部	串状 木製品	長さ21.4cm 幅1.4cm 厚さ0.6cm 4回以上の削りにより先端部を加工
37	遺物集中部	箸状 木製品	長さ20.3cm 幅0.8cm 厚さ0.3cm 両口
38	遺物集中部	串状 木製品	長さ19.7cm 幅1.0cm 厚さ0.6cm 4回以上の削りにより先端部を加工
39	遺物集中部	箸状 木製品	長さ20.0cm 幅0.7cm 厚さ0.6cm 両口
40	遺物集中部	箸状 木製品	長さ17.2cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 両口
図13-1	土坑4	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.4)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内外面煤状付着物
2	土坑4	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.2)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・海綿骨芯を含む 混入物少ない
3	土坑4	竜泉窯青磁 碗	底径(3.9)cm ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子(微)を含む 釉薬は灰オリーブ色透明 高台内面は無釉 削り出し高台
4	土坑4	鉄製品 刀子	残存長15.6cm 最大幅2.3cm 最大厚0.3cm 重さ31.8g
5	土坑4	板草履芯	長さ24.7cm 幅5.4cm 厚さ0.2cm 植物圧痕あり
6	土坑4	板草履芯	長さ24.5cm 幅10.4cm 厚さ0.45cm 植物圧痕あり
7	土坑4	串状 木製品	長さ29.0cm 幅0.7cm 厚さ0.6cm 先端部を5回以上の削りで細く加工
8	土坑4	箸状 木製品	長さ23.6cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 両口
9	土坑4	箸状 木製品	長さ20.3cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 両口
10	土坑4	箸状 木製品	長さ20.4cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
11	土坑4	箸状 木製品	長さ20.5cm 幅0.8cm 厚さ0.4cm 両口
12	土坑4	箸状 木製品	長さ19.6cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
13	土坑4	箸状 木製品	長さ16.9cm 幅1.0cm 厚さ0.3cm 両口
14	土坑4	不明 木製品	径4.9cm 厚さ2.7cm 円柱状の部材を短く切断か 柾目材
15	P.67	土師器皿 R種大型	口径(13.1)cm 底径(8.0)cm 器高3.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図14-1	3c面	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径4.7cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付着
2	3c面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径4.3cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3c面	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(6.0)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土は橙色で黒色粒子・海綿骨芯を含む
4	3c面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径5.2cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	3c面	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.2)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	3c面	土師器皿 R種小型	口径(6.9)cm 底径(5.2)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外面一部黒色に変色
7	3c面	土師器皿 R種大型	口径12.8cm 底径7.8cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤 内面まだらに黒色に変色

表7 出土遺物観察表(7)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図14-8	3 c 面	白色系土師器皿 R種大型	口縁部小片 回転ロクロ 胎土は灰白色で黒色粒子・礫片を含む
9	3 c 面	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片 輪積み成形 胎土は褐灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・礫片を含む 鉄分の吹き出しあり 断面2面磨耗
10	3 c 面	竜泉窯青磁 Ⅲ類香炉	口縁部小片 胎土は灰色・一部黒色で黒色粒子・赤色粒子を含む 釉薬は明緑灰色不透明
11	3 c 面	砥石 仕上砥	残存長(5.3)cm 幅3.1cm 厚さ1.2～0.6cm 灰白色 鳴滝 1面使用
12	3 c 面	漆器 椀	口径(11.8)cm 底径(7.0)cm 器高2.6cm 黒漆に朱漆で印判施文
13	3 c 面	不明 木製品	最大径2.0cm 最小径1.4cm 長さ7.8cm 両端で径が違い、栓のような形状 柾目材
14	3 c 面	箸状 木製品	長さ22.3cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
15	3 c 面	箸状 木製品	長さ19.0cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口
16	3 c 面	箸状 木製品	長さ18.5cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
写真図 版11	3 c 面	常滑 甕	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む 外面は褐灰色 内面に黒色の漆様の付着物
図14-17	3 c 面 構築土	土師器皿 R種極小型	口径4.5cm 底径3.8cm 器高0.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子を含む 内折れ 外面に黒色の付着物
18	3 c 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(8.1)cm 底径(5.3)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
19	3 c 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 口縁の縁帯部が赤褐色・外面がにぶい黄橙色 内面が暗赤褐色で灰オリーブ色の降灰あり
20	3 c 面 構築土	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は赤褐色 外面に灰オリーブ色の自然釉、叩き目
21	3 c 面 構築土	竜泉窯青磁 Ⅲ類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は緑灰色半透明 釉層厚い
22	3 c 面 構築土	白磁 Ⅸ類皿	口径(11.6)cm ロクロ成形 素地は灰白色 釉薬は透明 口縁部釉を面取り
23	3 c 面 構築土	不明 木製品	長さ5.4cm 幅5.4cm 厚さ3.9cm 端部を斜めに面取りしている
24	3 c 面 構築土	不明 木製品	長さ12.7cm 幅2.4cm 厚さ1.3cm 1ヶ所鉄釘あり
25	3 c 面 構築土	不明 木製品	長さ20.0cm 幅5.0cm 厚さ0.8cm 端部半円状に切り取り加工 糸巻きか
26	3 c 面 構築土	不明 木製品部材	長さ14.5cm 幅1.7cm 厚さ1.6cm 柄を有する(片側突起)
27	3 c 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(27.3)cm 幅1.4cm 厚さ1.2cm 不貫通柄穴と柄を有する
図15-1	4 a 面	土器質 火鉢	口縁部片 輪積み成形 外面は褐灰色 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・礫片・海綿骨芯を含む
2	4 a 面	漆器 椀	口径10.5cm 底径6.6cm 器高2.8cm 黒漆に朱漆で印判で施文
3	4 a 面	へら状 木製品	長さ18.8cm 幅1.7cm 厚さ0.7cm 尖端部4回以上の削りでへら状に加工 端部周辺2ヶ所に切り込みあり 端部は切り込みから折れた、あるいは折って成形
4	4 b 面	常滑 鷹口壺	底径9.2cm 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は褐灰色 外面上部に灰オリーブ色の降灰 内面に暗赤色の付着物あり 長石の吹き出しあり 肩部から上部に打ち欠いたような痕跡多くあり
5	4 b 面	竜泉窯青磁 Ⅲ類鉢	底部片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色不透明 釉層厚い
6	溝3	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色で白色粒子を含む 釉薬はオリーブ灰色不透明
7	溝3	木製品 円盤	残存長(13.4)cm 残存幅3.7cm 厚さ0.6cm 一部炭化 曲物等の底板か 柾目材
8	溝3	箸状 木製品	長さ19.3cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
9	溝3	へら状 木製品	長さ19.4cm 幅1.2cm 厚さ0.9cm 角材の端部を斜めに削りへら状に加工
図16-1	4 b 面 構築土	土師器皿 T種小型	口径(8.1)cm 底径(5.1)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表8 出土遺物観察表(8)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図16-2	4 b 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(8.1)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	4 b 面 構築土	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 一部煤状付着物
4	4 b 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土はにぶい褐色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は褐色
5	4 b 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 内面は暗赤褐色 口縁部に灰白色の降灰
6	4 b 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は褐灰色 外面は暗赤褐色 口縁部・体部下部に灰オリブ色の自然釉 長石の吹き出しあり
7	4 b 面 構築土	竜泉窯青磁 II類碗	口縁部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は緑灰色半透明 気泡あり 釉層厚い
8	4 b 面 構築土	元豊通宝	北宋 初鑄1078年 篆書
9	4 b 面 構築土	漆器 椀	口径15.0cm 底径7.1cm 器高3.8cm 黒漆に朱漆で手描きで施文 輪高台
10	4 b 面 構築土	漆器 椀	口径(9.8)cm 底径(5.9)cm 器高1.0cm 黒漆 輪高台
11	4 b 面 構築土	木製品 円盤	長さ10.5cm 幅4.6cm 厚さ0.5cm 曲物等の底板か 柾目材
12	4 b 面 構築土	へら状 木製品	長さ23.5cm 幅1.2cm 厚さ1.1cm 円柱状の先端部を斜めに削り加工
図17-1	5 a 面	土師器皿 R種小型	口径(6.7)cm 底径(4.8)cm 器高1.5cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	5 a 面	土師器皿 R種小型	口径(8.3)cm 底径(5.6)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	5 a 面	土師器皿 R種大型	口径11.9cm 底径7.0cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	5 a 面	土師器皿 R種大型	底径(6.6)cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部渦状ナデ 胎土は灰黄色で金雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨芯を含む 混入物少ない
5	5 a 面	常滑 片口鉢I類	口径(25.5)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	5 a 面	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・長石・石英を含む
7	5 a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は褐灰色で白色粒子・石英を含む 内面は褐色で口縁部に灰オリブ色の自然釉 外面は褐灰色
8	5 a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 内面下部・外面はオリブ黒色の自然釉 口縁部に灰白色の降灰
9	5 a 面	鉄製品 刀子	長さ18.8cm 幅1.6cm 厚さ0.3cm 重さ29.5g
10	5 a 面	景德元宝	北宋 初鑄1004年 真書
11	5 a 面	不明 木製品	長さ9.9cm 幅6.8cm 厚さ1.6cm 上面端部は曲線状になるように加工か 板目材
12	5 a 面	木製品 円盤	長さ18.2cm 幅6.7cm 厚さ1.5cm 一部炭化 端部を曲線状に削る
13	5 a 面	箸状 木製品	長さ22.8cm 幅1.0cm 厚さ0.4cm 両口
14	5 a 面	箸状 木製品	長さ23.1cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
15	5 a 面	箸状 木製品	長さ25.6cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 両口
16	5 a 面	棒状 木製品	長さ22.1cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 端部4回の削りで細く加工
17	5 a 面	箸状 木製品	長さ22.1cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 両口
18	5 a 面	箸状 木製品	長さ20.5cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 両口
19	5 a 面	箸状 木製品	長さ22.1cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 両口
20	5 a 面	不明 木製品	長さ11.0cm 幅2.0cm 厚さ1.3cm 先端部直線状の切り出しと、3面が1回の削りで尖頭状に加工

表9 出土遺物観察表(9)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図17-21	5 a 面	不明 木製品	長さ16.1cm 幅2.3cm 厚さ0.4cm 幅広端部の方が薄くなっている
図18-1	5 b 面	土師器皿 T種小型	口径8.1cm 底径5.8cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・海綿骨芯を含む 割れ目の一部橙色
2	5 b 面	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径7.4cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	5 b 面	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面はにぶい黄橙色 外面は赤褐色で、板状工具による縦位のナデ、叩き目あり
4	5 b 面	青白磁 碗	口縁部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色透明 素地・釉層薄い 口縁部釉面取り
5	5 b 面	鉄釘	長さ7.5cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 重さ3.7g
6	5 b 面	不明 鉄製品	長さ7.5cm 幅0.6cm 厚さ0.3cm 重さ3.2g 釘状ではあるが頭部の形状が違う
7	5 b 面	景祐元宝	北宋 初鑄1034年 篆書
8	5 b 面	元豊通宝	北宋 初鑄1078年 行書
9	5 b 面	石製品 硯	残存長(3.4)cm 幅3.8cm 厚さ1.1cm 鳴滝より柔らかい石を使用か
10	5 b 面	箸状 木製品	長さ24.7cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
11	土坑5	土師器皿 R種小型	口径(7.5)cm 底径(4.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 内面は口縁部付近まで橙色・赤褐色
12	土坑5	土師器皿 R種大型	口径(11.0)cm 底径(7.4)cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 青灰色の付着物あり
13	土坑5	白磁 水注	胴部片 ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子を含む 釉薬は明オリーブ灰色半透明
14	土坑5	滑石鍋 転用陽物	長さ13.2cm 幅4.8cm 厚さ2.4cm 灰白色 滑石鍋の底部を転用
15	土坑5	漆器 皿	口径(9.5)cm 底径(8.0)cm 器高0.9cm 黒漆
16	土坑5	箸状 木製品	長さ19.2cm 幅0.7cm 厚さ0.3cm 片口
17	土坑5	箸状 木製品	長さ22.2cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
18	土坑5	木製品 杓子	長さ27.1cm 幅3.9・(6.8)cm 厚さ0.7cm
19	5 b 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 内面剥離するほど磨耗 付け高台 外面下位回転ヘラ削り 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片・小石粒を含む
20	5 b 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は褐灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 内面は暗赤褐色 外面は黒褐色 口縁部に灰オリーブ色・灰白色の降灰 長石の吹き出しあり
図19-1	6 a 面	土師器皿 T種小型	口径13.0cm 底径7.2cm 器高3.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	6 a 面	尾張型 山茶碗	底径5.3cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む 外底部板状圧痕 付高台 内底部中央に指頭ナデ 内面黒褐色に変色、外面にぶい黄橙色 内面調整確認できるが磨耗
3	5 b 面	箸状 木製品	長さ23.0cm 幅0.7cm 厚さ0.45cm 両口
4	6 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.3)cm 器高1.6cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	6 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は褐灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	6 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 内面は黄褐色、外面は黄灰色 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片(多)・小石粒を含む
7	6 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 内面調整が確認できないほど磨耗 外面下位回転ヘラ削り 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片(多)小石粒を含む 付け高台
8	6 a 面 構築土	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は黄灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は暗褐色 外面にオリーブ灰色の自然釉、叩き目あり
図20-1	6 b 面	釘状 鉄製品	長さ3.6cm 幅0.2cm 厚さ0.1cm 重さ0.6g 頭部の形状が釘と若干違う

表10 出土遺物観察表(10)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図20-2	6 b 面	曲物	径4.7cm 厚さ1.3cm 厚さ0.7cmの底板に木の板を巻きつけ、木の皮で留めている
3	6 b 面	木製品 円盤	径41.7cm 厚さ0.7cm 灰白色の付着物あり 柾目材
4	6 b 面	棒状 木製品	長さ35.0cm 幅1.2cm 厚さ0.7cm 角柱状の棒に2ヶ所の切込みあり
5	6 b 面	箸状 木製品	長さ23.9cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
6	6 b 面	箸状 木製品	長さ20.8cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 両口
7	6 b 面	へら状 木製品	長さ14.1cm 幅1.1cm 厚さ0.7cm 先端部6回の削りで細く加工 端部炭化
8	6 b 面	不明 木製品	長さ18.5cm 幅6.6cm 厚さ0.15cm 加工により形状を作る 柾目材
9	6 b 面	不明 木製品部材	長さ11.0cm 幅1.5cm 厚さ1.2cm 平坦面1面に3ヶ所、1面に1ヶ所木釘あり
図21-1	6 b 面 構築土	漆器 椀	底径7.8cm 器高(2.4)cm 内外面黒漆
2	6 b 面 構築土	漆器 椀	口径(15.7)cm 底径10.2cm 器高(3.5)cm 黒漆に朱漆で印判で施文
3	6 b 面 構築土	木製品 円盤	径10.6cm 厚さ0.6cm 曲物の底板か 柾目材
4	6 b 面 構築土	箸状 木製品	長さ19.8cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 両口
5	6 b 面 構築土	箸状 木製品	長さ20.9cm 幅0.6cm 厚さ0.6cm 両口
6	6 b 面 構築土	箸状 木製品	長さ22.1cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 両口
図22-1	7 面	土師器皿 R種小型	口径(8.4)cm 底径(6.8)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で赤色粒子・海綿骨芯を含む 外面焼きムラあり
2	7 面	土師器皿 T種大型	口径13.3cm 底径8.2cm 器高3.4cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 粉質土、混入物少ない
3	7 面	棒状 木製品	長さ23.4cm 幅0.6cm 厚さ0.3cm 先端部2面が1回、1面が2回の削り 端部平たく加工
4	7 面	棒状 木製品	長さ21.9cm 幅0.7cm 厚さ0.7cm 先端部3回の削りと5回の削りで形成
5	7 面	棒状 木製品	長さ19.3cm 幅0.8cm 厚さ0.6cm 先端部4回の削り
6	7 面	棒状 木製品	長さ21.7cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 先端部3回の削りで細く加工
7	板列周辺	土師器皿 R種小型	口径9.1cm 底径7.4cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
8	板列裏込め	土師器皿 T種小型	口径9.4cm 底径6.5cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
9	板列裏込め	土師器皿 R種小型	口径(10.3)cm 底径(9.0)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内面に焼きムラ
10	板列裏込め	土師器皿 R種小型	口径9.3cm 底径6.3cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内面に焼きムラ
11	板列裏込め	板草履芯	長さ22.3cm 幅4.6cm 厚さ0.3cm 植物圧痕あり
12	板列裏込め	板草履芯	長さ21.9cm 幅5.0cm 厚さ0.2cm 植物圧痕あり
13	板列裏込め	串状 木製品	長さ15.1cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 端部斜めの切り出しと先端部2回の削りで加工
14	板列裏込め	串状 木製品	長さ16.6cm 幅0.8cm 厚さ0.7cm 先端部4回の削りで加工
15	板列裏込め	箸状 木製品	長さ20.5cm 幅0.7cm 厚さ0.3cm 両口
16	板列裏込め	箸状 木製品	長さ23.5cm 幅0.8cm 厚さ0.3cm 両口
17	板列裏込め	箸状 木製品	長さ23.5cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 片口

表11 出土遺物観察表(11)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図22-18	板列裏込め	箸状木製品	長さ22.6cm 幅0.9cm 厚さ0.4cm 両口
19	板列裏込め	箸状木製品	長さ21.6cm 幅0.8cm 厚さ0.3cm 片口
20	板列裏込め	箸状木製品	長さ21.7cm 幅0.8cm 厚さ0.6cm 片口
図23-1	8面	土師器皿R種小型	口径8.9cm 底径6.4cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 混入物少ない
2	8面	土師器皿T種大型	口径13.5cm 底径9.1cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	8面構築土	土師器皿T種小型	口径(10.0)cm 底径(6.2)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	8面構築土	土師器皿R種大型	口径12.7cm 底径8.9cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 焼成良好
5	表採	土師器皿R種小型	口径7.5cm 底径4.0cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	表採	瀬戸丸碗か	底径5.0cm 胎土は淡黄色で黒色粒子を含む 内面に灰オリーブ色の釉薬 釉層厚く、気泡あり 削り出し高台

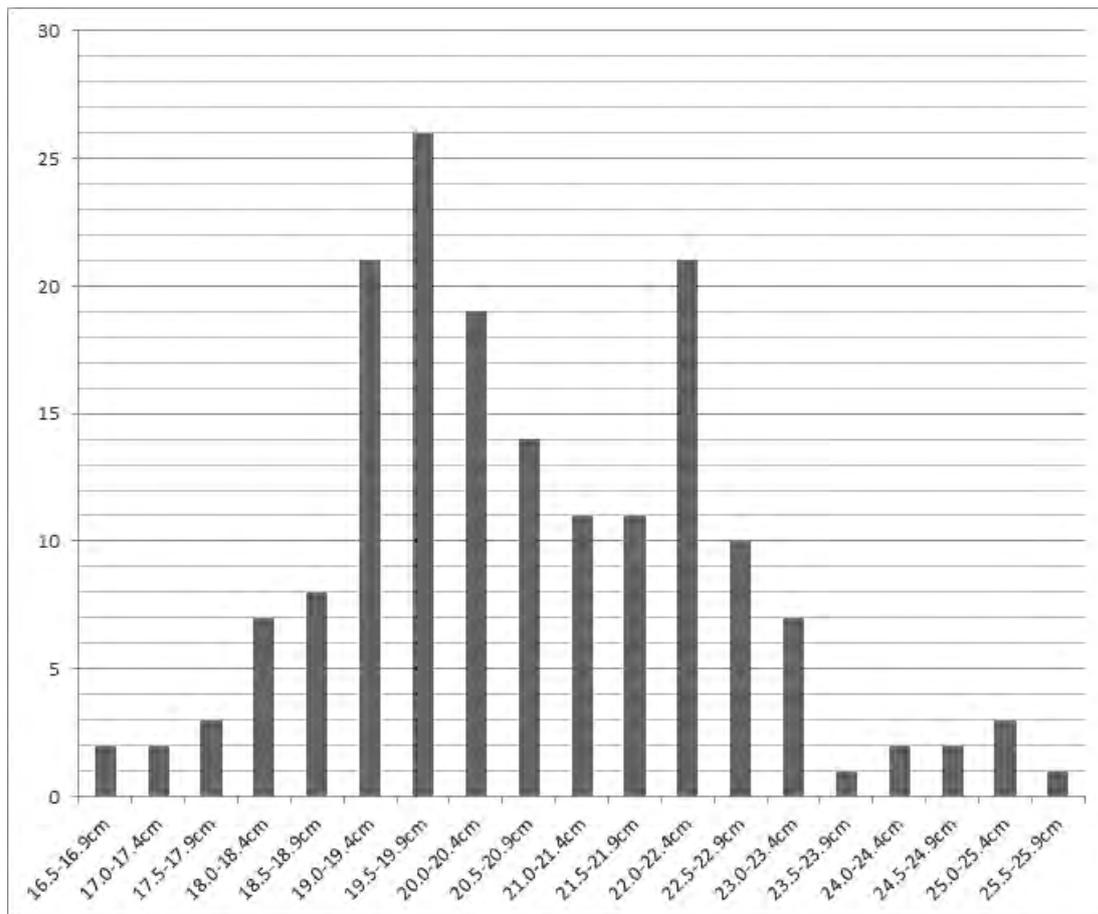


図24 箸状木製品寸法分布

表12 出土遺物計量表(1)

		1面		2面		3a面		3b面		3c面			
中世以前	須惠器	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	鬼高式	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
土器	土師器皿	T種	大	2	0.12%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
			小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
		R種	大	1293	79.57%	390	64.68%	304	47.13%	112	19.31%	142	41.76%
			燈明皿	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	3	0.52%	1	0.29%
			小	114	7.02%	48	7.96%	35	5.43%	17	2.93%	16	4.71%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.34%	2	0.59%
	R種白色系	極小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%	
		大	0	0.00%	1	0.17%	1	0.16%	0	0.00%	1	0.29%	
	土器質	火鉢	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	2	0.34%	0	0.00%	
		香炉	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
瓦質土器	火鉢	16	0.98%	2	0.33%	2	0.31%	2	0.34%	0	0.00%		
瓦器質土器	火鉢	5	0.31%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
瓦器	産地不明	碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%	
		鍋	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
土製品	羽口	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
国産陶器	常滑	壺	5	0.31%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		甕	140	8.62%	56	9.29%	39	6.05%	10	1.72%	13	3.82%	
		片口鉢	I類片口鉢	1	0.06%	3	0.50%	4	0.62%	0	0.00%	0	0.00%
			II類片口鉢	5	0.31%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	2	0.59%
		鶯口壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		摩耗陶片	1	0.06%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	瀬戸	四耳壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		瓶子	1	0.06%	2	0.33%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		卸皿	5	0.31%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		折縁皿	1	0.06%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		柄付片口	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		香炉	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		入子	2	0.12%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%	
		平底末広碗	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		壺類	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		碗類	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	器種不明	2	0.12%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	尾張型	山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	1	0.29%	
	渥美	壺	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	備前	甕	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	瓦	播鉢	3	0.18%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
			II期以降平瓦	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	舶載陶磁器	大宰府I類	碗	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%
蓮弁文碗			0	0.00%	3	0.50%	2	0.31%	0	0.00%	0	0.00%	
大宰府II類			蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%
大宰府III類			折縁鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%	
青白磁		梅瓶	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		碗	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
白磁		口はげ	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		碗	0	0.00%	0	0.00%	3	0.47%	0	0.00%	1	0.29%	
		水注	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	輪花碗	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
褐釉	壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
金属製品	銭	中国銅銭	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%	
		釘	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%	
	鉄	刀子	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	
		鑿	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	銅	不明	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
石製品	滑石	鍋転用陽物	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	砥石	鳴滝	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%	
	硯	鳴滝硯	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
石材・石	縣石	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	摩耗石片	1	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
木製品	漆器	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	1	0.29%	
		皿	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	1	0.17%	0	0.00%	
	漆器以外木製品	箸状木製品(両口)	1	0.06%	18	2.99%	48	7.44%	87	15.00%	49	14.41%	
		箸状木製品(片口)	0	0.00%	1	0.17%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%	
		箸状木製品(不明)	2	0.12%	30	4.98%	54	8.37%	142	24.48%	68	20.00%	
		杓文字	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		曲物	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	1	0.29%	
		折敷	0	0.00%	5	0.83%	3	0.47%	14	2.41%	3	0.88%	
		板草履	0	0.00%	2	0.33%	6	0.93%	15	2.59%	4	1.18%	
		板状木製品	0	0.00%	7	1.16%	2	0.31%	13	2.24%	0	0.00%	
		棒状木製品	0	0.00%	0	0.00%	1	0.16%	5	0.86%	15	4.41%	
		串状木製品	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	4	0.69%	0	0.00%	
		へら状木製品	0	0.00%	2	0.33%	1	0.16%	0	0.00%	0	0.00%	
		栓	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	
	不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	4	1.18%		
木材	部材	0	0.00%	13	2.16%	113	17.52%	133	22.93%	4	1.18%		
	肘木	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%		
自然遺物	木	炭	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%	
		鳥獸骨	6	0.37%	6	1.00%	12	1.86%	2	0.34%	3	0.88%	
		魚骨	1	0.06%	1	0.17%	0	0.00%	2	0.34%	2	0.59%	
	貝	アカニシ	0	0.00%	0	0.00%	6	0.93%	1	0.17%	1	0.29%	
		サザエ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		バイガイ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		ダンベイキサゴ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		ハマグリ類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.29%	
		イガイ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	
		カキ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.69%	0	0.00%	
		アワビ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	
		種	モモ	0	0.00%	2	0.33%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	クルミ		0	0.00%	2	0.33%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	ウメ		0	0.00%	1	0.17%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		トチ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
合計		1625	100%	603	100%	645	100%	580	100%	340	100%		

表13 出土遺物計量表(2)

		4a面		4b面		5a面		5b面		6a面			
中世以前	須恵器	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	鬼高式	0	0.00%	0	0.00%	3	1.13%	0	0.00%	0	0.00%		
土器	土師器皿	T種	大	0	0.00%	0	0.00%	29	10.90%	0	0.00%	1	0.82%
			小	0	0.00%	1	0.55%	6	2.26%	1	0.68%	1	0.82%
		R種	大	18	36.73%	54	29.83%	52	19.55%	25	17.12%	16	13.11%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
			小	0	0.00%	4	2.21%	6	2.26%	1	0.68%	2	1.64%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	R種白色系	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	土器質	火鉢	1	2.04%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	瓦質土器	火鉢	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	瓦器質土器	火鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
瓦器	産地不明	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		鍋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
土製品	羽口	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
国産陶器	常滑	壺	0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%	
		甕	5	10.20%	22	12.15%	12	4.51%	11	7.53%	7	5.74%	
		片口鉢	I類片口鉢	1	2.04%	4	2.21%	4	1.50%	1	0.68%	2	1.64%
			II類片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.82%
		鶯口壺	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	摩耗陶片	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	瀬戸	四耳壺	0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%	
		瓶子	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		卸皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		折縁皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		柄付片口	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		入子	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		平底末広碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		壺類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		器種不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	尾張型	山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.82%	
	渥美	壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	備前	甕	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		掃鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
瓦	II期以降平瓦	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
舶載陶磁器	大宰府I類	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		蓮弁文碗	0	0.00%	2	1.10%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		蓮弁文碗	0	0.00%	1	0.55%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%	
		折縁鉢	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	青白磁	梅瓶	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
	白磁	口はげ	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	水注	水注	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
		輪花碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
褐釉	壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	2.46%		
金属製品	銭	中国銅銭	0	0.00%	1	0.55%	1	0.38%	2	1.37%	0	0.00%	
		釘	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
	鉄	刀子	0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%	
		鑿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
銅	不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%		
	不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
石製品	滑石	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%		
	砥石	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%		
	硯	鳴滝硯	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
石材・石	縣石	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	摩耗石片	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
木製品	漆器	碗	1	2.04%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		皿	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
	漆器以外木製品	箸状木製品(両口)	0	0.00%	7	3.87%	43	16.17%	5	3.42%	23	18.85%	
		箸状木製品(片口)	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
		箸状木製品(不明)	10	20.41%	15	8.29%	50	18.80%	32	21.92%	39	31.97%	
		杓文字	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
		曲物	0	0.00%	4	2.21%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%	
		折敷	1	2.04%	0	0.00%	0	0.00%	3	2.05%	0	0.00%	
		板草履	1	2.04%	2	1.10%	1	0.38%	4	2.74%	5	4.10%	
		板状木製品	0	0.00%	3	1.66%	1	0.38%	0	0.00%	0	0.00%	
		棒状木製品	1	2.04%	2	1.10%	1	0.38%	2	1.37%	0	0.00%	
		串状木製品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		へら状木製品	1	2.04%	2	1.10%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		栓	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
不明	0	0.00%	0	0.00%	3	1.13%	0	0.00%	0	0.00%			
木材	部材	5	10.20%	26	14.36%	29	10.90%	24	16.44%	14	11.48%		
	肘木	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
自然遺物	木	炭	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		鳥獣骨	2	4.08%	3	1.66%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		魚骨	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	貝	アカニシ	0	0.00%	2	1.10%	2	0.75%	1	0.68%	1	0.82%	
		サザエ	0	0.00%	1	0.55%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		バイガイ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	
		ダンベイキサゴ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.82%	
		ハマグリ類	2	4.08%	18	9.94%	17	6.39%	19	13.01%	4	3.28%	
		イガイ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		カキ	0	0.00%	0	0.00%	1	0.38%	1	0.68%	1	0.82%	
	アワビ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%		
	種	不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		モモ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		クルミ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		ウメ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	トチ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	1.37%	0	0.00%		
合計		49	100%	181	100%	266	100%	146	100%	122	100%		

表 14 出土遺物計量表(3)

			6b面		7面		8面		総計		
中世以前	須恵器		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.00%	
	鬼高式		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.12%	
土器	土師器皿	T種	大	1	0.51%	3	5.56%	3	25.00%	66	1.34%
			小	0	0.00%	1	1.85%	1	8.33%	16	0.33%
		R種	大	23	11.73%	2	3.70%	1	8.33%	249	49.90%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
			小	5	2.55%	5	9.26%	1	8.33%	260	5.30%
			燈明皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	R種白色系	小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		極小	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%	
	土器質	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
瓦質土器	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	23	0.47%	
瓦器質土器	火鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%	
瓦器	産地不明	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		鍋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
土製品			羽口	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
国産陶器	常滑	壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%	
		壺	7	3.57%	0	0.00%	0	0.00%	324	6.60%	
		片口鉢	I類片口鉢	1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	21	0.43%
			II類片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	9	0.18%
		鶯口壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
	摩耗陶片		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%	
	瀬戸	四耳壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		瓶子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		銅皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
		折縁皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		柄付片口		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		入子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		平底末広碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		壺類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		碗類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	器種不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%	
	尾張型	山茶碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
	渥美	壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	備前	壺		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
播鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%		
瓦			II期以降平瓦	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
舶載陶磁器	大宰府I類	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%	
		連弁文碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		連弁文碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		折縁鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		香炉		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	青白磁	梅瓶		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	白磁	口はげ	碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.08%
	褐釉	水注		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
輪花碗		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%		
備前	壺		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%	
金属製品	銭	中国銅銭		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.10%
		釘		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
	鉄	刀子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		鑿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
銅	不明		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%	
石製品	不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
	滑石	鍋転用陽物		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
	砥石	鳴瀆		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
	硯	鳴瀆硯		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
石材・石			縣石	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			摩耗石片	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
木製品	漆器	碗		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.12%
		皿		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.08%
	漆器以外木製品	箸状木製品(両口)		29	14.80%	5	9.26%	1	8.33%	318	6.48%
		箸状木製品(片口)		0	0.00%	4	7.41%	0	0.00%	7	0.14%
		箸状木製品(不明)		65	33.16%	0	0.00%	3	25.00%	520	10.59%
		杓文字		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		曲物		3	1.53%	0	0.00%	0	0.00%	10	0.20%
		折敷		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	32	0.65%
		板草履		4	2.04%	4	7.41%	0	0.00%	49	1.00%
		板状木製品		9	4.59%	0	0.00%	0	0.00%	38	0.77%
		棒状木製品		3	1.53%	5	9.26%	0	0.00%	35	0.71%
		串状木製品		0	0.00%	2	3.70%	0	0.00%	7	0.14%
		へら状木製品		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		栓		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	10	0.20%
木材			部材	21	10.71%	19	35.19%	1	8.33%	413	8.41%
			肘木	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
自然遺物	木	炭		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		鳥獣骨		1	0.51%	1	1.85%	0	0.00%	39	0.79%
		魚骨		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.12%
	貝	アカニシ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	14	0.29%
		サザエ		2	1.02%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.06%
		バイガイ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		ダンペイキサゴ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		ハマグリ類		8	4.08%	2	3.70%	1	8.33%	72	1.47%
		イガイ		1	0.51%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		カキ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.14%
		アワビ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
		不明		1	0.51%	1	1.85%	0	0.00%	3	0.06%
	種	モモ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		クルミ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%
		ウメ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
トチ		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.04%		
合計			196	100%	54	100%	12	100%	4908	100%	

第四章 自然科学分析

第1節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の中世の遺構から出土した大型植物遺体を同定し、食用などとして利用された植物や、遺跡周辺における栽培状況および植生について検討する。なお、同一試料を用いて花粉分析と寄生虫卵分析も行われている(各分析の項参照)。

2. 試料と方法

試料は、北条小町邸跡の土坑16の11層から採取された堆積物、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の10層から採取された堆積物である。考古学的な所見による遺構の時期は、土坑16が12世紀末～14世紀初頭、土坑4が13世紀前半～14世紀半ばである。

試料は、300ccを最小0.5mm目の篩で水洗した。試料の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその産出数を記号(+)で表記した。試料は、鎌倉市教育委員会に保管されている。

3. 結果

3-1. 北条小町邸跡の土坑16

同定した結果、木本植物は含まれておらず、草本植物ではミチヤナギ属果実と、スベリヒユ属種子、ウシハコベ種子、アカザ属種子、キケマン属種子、エノキグサ属種子、メロン仲間種子、イヌコウジュ属果実、キク科果実、ヘラオモダカ果実、ヒエ炭化種子、ヒエ属有ふ果、イネ籾殻・小穂軸・炭化種子、アワ有ふ果、ハリイ属果実、サンカクイーフトイ果実の16分類群、シダ植物のワラビ裂片1分類群の、計17分類群が見いだされた。不明の芽は一括した。種実以外には昆虫遺体がみられた(表1)。

キケマン属がやや多く、イネが少量、スベリヒユ属とアカザ属がわずかに得られた。それ以外はいずれも産出数が4点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とヒエ、アワがわずかに得られた。

表1 北条小町邸跡出土の大型植物遺体 (括弧内は破片数)

分類群	水洗量 (cc)	土坑 16
		層位 11層
		時期 12世紀末～14世紀初頭
		300
ミチヤナギ属	果実	1 (1)
スベリヒユ属	種子	8
ウシハコベ	種子	4
アカザ属	種子	10
キケマン属	種子	47 (10)
エノキグサ属	種子	(1)
メロン仲間	種子	2
イヌコウジュ属	果実	1
キク科	果実	3
ヘラオモダカ	果実	1
ヒエ	炭化種子	1
ヒエ属	有ふ果	1
イネ	籾殻	(2+)
	小穂軸	(14)
	炭化種子	(1)
アワ	有ふ果	1
ハリイ属	果実	1
サンカクイーフトイ	果実	1 (1)
ワラビ	裂片	(1)
昆虫		(++)

+ : 1-9, ++ : 10-49

3-2. 若宮大路周辺遺跡群の土坑4

同定した結果、木本植物のクリ果実と、キイチゴ属核、キブシ種子の3分類群、草本植物ではヤナギタデ果実と、イヌタデ果実、キケマン属種子、メロン仲間種子、トウダイグサ種子、スマレ属種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、イヌコウジュ属果実、シソ属果実、ニガクサ属果実、ナス種子、コウゾリナ果実、メナモミ属果実、タカサブロウ果実、オトコエシ属果実、イネ籾殻・小穂軸、オオムギ炭化種子、スゲ属果実、ヒメクグ果実、カワラスガナ果実、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実の23分類群、計26分類群が得られた。種実以外には昆虫遺体がみられた(表2)。

イネが非常に多く(図版2-5)、ヤナギタデとイヌタデ、キケマン属、トウバナ属、タカサブロウ、ヒメクグがわずかに得られた。その他の分類群はいずれも産出数が2点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とナス、オオムギがわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高10.3mm、残存幅6.0mm。

(2) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

黄白色～黄褐色で、上面観は扁平、側面観は倒卵形。表面は平滑で、基部は突出せず直線状の隆線となる。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。北条小町邸跡の土坑16から出土した種子は、長さ8.0mm、残存幅2.5mmと、長さ5.7mm、幅3.4mmの2点で、マクワウリ・シロウリ型と雑草メロン型の大きさであった。若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した種子は長さ8.4mm、残存幅3.0mmで、モモルディカメロン型であった。

(3) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.6mm、幅1.3mm。

(4) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

赤褐色で、上面観は長楕円形、側面観は完形ならばいびつな円形。着点は明瞭に窪む。種皮細胞の細胞壁が屈曲し、それが網目状隆線を構成する。残存長2.4mm、残存幅3.2mm。

表2 若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	水洗量(cc)	土坑	4
		層位	10層
		時期	13世紀前半～14世紀半
			300
クリ	果実		(1)
キイチゴ属	核		(1)
キブシ	種子		1
ヤナギタデ	果実		1 (2)
イヌタデ	果実		4 (2)
キケマン属	種子		4
メロン仲間	種子		1
トウダイグサ	種子		1
スマレ属	種子		(2)
トウバナ属	果実		5
メハジキ属	果実		1
イヌコウジュ属	果実		2
シソ属	果実		1 (1)
ニガクサ属	果実		1
ナス	種子		(1)
コウゾリナ	果実		1
メナモミ属	果実		(1)
タカサブロウ	果実		4
オトコエシ属	果実		2
イネ	籾殻		(++++)
	小穂軸		(++++)
オオムギ	炭化種子		1
スゲ属	果実		2
ヒメクグ	果実		4
カワラスガナ	果実		1
カヤツリグサ属	果実		2
ホタルイ属	果実		1 (1)
昆虫			(+++)

+ : 1-9, ++ : 10-49, +++ : 50-99, ++++ : 100以上

(5) キク科 *Asteraceae* sp. 果実

黒褐色で、側面観は非対称の狭倒卵形。頂部はやや切形になり、冠毛着点の隆起がある。長さ2.4mm、幅0.7mm。

(6) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 炭化種子 イネ科

側面観が卵形、断面が片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。長さ1.9mm、幅1.7mm。

(7) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果 イネ科

茶褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。内穎は膨らまない。残存長3.0mm、残存幅1.5mm。全体の形状は、栽培種であるヒエよりも細長く、野生のイヌビエに近い。

(8) イネ *Oryza sativa* L. 籾殻・小穂軸・炭化種子 イネ科

籾殻は黄褐色～淡褐色で、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。基部は突出し、小穂軸がある。北条小町邸跡の土坑16から出土した籾殻は残存長1.8mm、残存幅1.3mm、小穂軸は残存長1.7mm、残存幅1.1mm。若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した籾殻は残存長3.2mm、残存幅1.7mm、小穂軸は残存長1.5mm、残存幅1.0mm。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。残存長2.2mm、幅2.9mm。

(9) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、紡錘形。内穎と外穎に独立した微細な乳頭突起がある。長さ1.8mm、幅1.5mm。

(10) オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化種子 イネ科

状態が悪いが、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面は楕円形となる。長さ5.4mm、幅2.9mm、厚さ2.4mm。

(11) ワラビ *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn subsp. *japonicum* (Nakai) A. et S.Löve 裂片 ワラビ科

暗褐色で、長楕円形。鈍頭で全縁。葉脈は2～3叉状に分岐し、平行に並ぶ。残存長3.3mm、残存幅3.1mm。

4. 考察

以下、遺跡ごとに考察を行う。

4-1. 北条小町邸跡の土坑16

12世紀末～14世紀初頭の土坑16から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物はメロン仲間とヒエ、イネ、アワが得られた。メロン仲間は種子の大きさからマクワウリ・シロウリ型と雑草メロン型に分類され、栽培種のマクワウリ・シロウリ型が含まれていた。ヒエとイネは食用部位が炭化して産出している状況から判断して、調理で炭化した種子が土坑内に入り込んだ可能性がある。野生植物ではあるが食用あるいは他の用途に利用可能な植物としては、葉や茎を食用にするスベリヒユ属やウシハコベ、若芽を食用にするワラビがある。

種実から周囲の植生を検討すると、周辺には森林要素はなく、遺構のごく近くには、ミチヤナギ属やアカザ属、キケマン属など、道端や荒地などの乾いた草地に生育する草本が生育していたと考えられる。

畑作植物であるメロン仲間やヒエ、アワは、持ち込まれた可能性と付近で栽培されていた可能性の両方の可能性が考えられる。スベリヒユ属やウシハコベ、エノキグサ属などは畑作雑草として畑地に生育していた可能性もある。

イネは炭化種子だけでなく、籾殻や籾の軸にあたる小穂軸が少量産出しており、籾殻を土坑内に廃棄

した可能性がある。水生植物であるハリイ属やサンカクイ-フトイなども多産しており、遺構周辺に存在した湿地や水田の堆積物が土坑内に堆積した可能性がある。

4-2. 若宮大路周辺遺跡群の土坑4

13世紀前半～14世紀半の土坑4から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物は、メロン仲間とナス、イネ、オオムギが得られた。メロン仲間は種子の大きさからモモルディカメロン型に分類された。オオムギは食用部位が炭化して産出している状況から判断して、調理で炭化した種子が入り込んだ可能性がある。野生植物ではあるが食用あるいは他の用途に利用可能な植物としては、食用可能なクリとキイチゴ属、シソ属や、染料に利用するキブシなどがある。

種実から周囲の植生を検討すると、周辺にはほとんど森林要素はなく、遺構のごく近くには落葉樹がわずかに生えていた可能性と、産出した種実はすべて利用可能な植物のため、なんらかの用途のために持ち込まれた可能性、庭木として植栽された可能性などが考えられる。遺構周辺には、イヌタデやトウダイグサ、メハジキ属、キケマン属など道端や荒地などの乾いた草地に生育する草本が生育していたと考えられる。

畑作植物であるメロン仲間やナス、オオムギは持ち込まれた可能性と付近で栽培されていた可能性の両方の可能性が考えられる。イヌタデやタカサブロウなどは畑作雑草として畑地に生育していた可能性もある。

イネは籾殻や籾の軸にあたる小穂軸が非常に多産しているため、籾殻をまとめて土坑内に廃棄した可能性がある。水生植物であるヒメクグやカワラスガナ、ホタルイ属なども産出しており、遺構周辺に存在した湿地や水田の堆積物が土坑内に堆積したと考えられる。

引用文献

藤下典之(1984) 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」: 638-654, 同朋舎出版.

第2節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

鎌倉市雪ノ下一丁目427番2外地点に所在する北条小町邸跡と、鎌倉市小町二丁目24番14地点に所在する若宮大路周辺遺跡群において、花粉分析用と寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている(大型植物遺体分析の節参照)。

2. 試料と方法

北条小町邸跡の分析試料は、土坑16の第11層から採取された黒色(10YR2/1)有機質シルト1点である。土坑16は、12世紀末～14世紀初頭の井戸の可能性が考えられている。若宮大路周辺遺跡群の分析試料は土坑4の第10層から採取された黒色(10YR2/1)有機質シルト1点である。土坑4は、13世紀前半～14世紀半ばのゴミ穴の可能性が考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1. 花粉分析

試料(湿重量約1～2g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本(PLC.1577～1583)を作製し、写真を図版1に載せた。

2-2. 寄生虫卵分析

試料を計量し、花粉分析と同様の方法で処理を行った。処理後の残渣に適量のグリセリンを加え、計量を行った。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$$X = BD/AC$$

X: 試料1g中の寄生虫卵含有数、A: 分析に用いた試料の重量(g)、B: 濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C: 濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D: プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良好な寄生虫卵を選んで単体標本(PLC.1584)を作製し、写真を図版1に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉7、草本花粉12、形態分類のシダ植物胞子2の総計21である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、分布図を図1に示した。分布図の樹木花粉・草本花粉・シダ植物胞子は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科とマメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括

して入れてある。

今回の分析試料は、両試料ともに樹木花粉の含有量が少なく、ほとんどが草本花粉で占められる。草本花粉のなかではイネ科とヨモギ属の産出が突出するが、北条小町邸跡の土坑16の試料ではイネ科の産出は少ない。北条小町邸跡の土坑16の試料ではイネ科が3%、ヨモギ属が97%、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料ではイネ科が51%、ヨモギ属が46%の産出率である。

3-2. 寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表2に示す。両試料ともに鞭虫卵が検出された。北条小町邸跡の土坑16の試料では試料1g当たり86個、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料では試料1g当たり83個である。

4. 考察

花粉分析の結果では、両試料ともにヨモギ属の産出が突出している。特に北条小町邸跡の土坑16の試料では、産出花粉のうち、ほとんどがヨモギ属であった。このような特定の分類群が突出するような産状は、自然状態よりも人為的

な影響を反映している可能性がある。例えば、土坑内にヨモギ属が人為的に投げ込まれた状況などが推測できる。また、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料では、ヨモギ属とともにイネ科の産出も多い。同試料は、大型植物遺体分析で籾殻が大量に検出されている（大型植物遺体の節参照）。籾殻には花粉が多量に付着しているため、検出されたイネ科花粉は籾殻由来であると考えられる。

寄生虫卵分析の結果では、両試料ともに鞭虫卵が検出された。鎌倉時代の鎌倉では市内各地で回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵が大量に産出しており（鈴木，2008）、鎌倉時代の鎌倉における寄生虫卵の産出は一般的な現象であると考えられる。ただし、今回の試料では鞭虫卵が検出されたものの、比較的産出量が少なく、回虫卵などは一切検出されていない。寄生虫卵の有無を決める要因は不明であるが、今回の北条小町邸跡の土坑16と若宮大路周辺遺跡群の土坑4は、寄生虫卵の汚染が軽度な遺構であると考えられる。

引用文献

鈴木 茂 (2008) 鎌倉の遺跡と寄生虫卵. 考古論業神奈河第16集, 77-83.

表1 産出花粉孢子一覧表

学名	和名	北条小町邸跡 若宮大路周辺遺跡群	
		土坑16	土坑4
樹木			
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	-	2
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	5	-
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	-	1
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	スルデ属-ウルシ属	-	1
<i>Acer</i>	カエデ属	-	1
Araliaceae	ウコギ科	4	3
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	1
草本			
Gramineae	イネ科	255	1245
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	1
Moraceae	クワ科	1	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	3
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	18	6
Leguminosae	マメ科	1	-
Apiaceae	セリ科	1	-
Labiatae	シソ科	-	3
<i>Patrinia</i>	オミナエシ属	6	4
<i>Ambrosia-Xanthium</i>	ブタクサ属-オナモミ属	1	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	9797	1107
Tubuliflorae	キク亜科	41	35
Liguliflorae	タンポポ亜科	2	7
シダ植物			
monolete type spore	単条溝孢子	2	-
trilete type spore	三条溝孢子	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	9	9
Nonarboreal pollen	草本花粉	10123	2411
Spores	シダ植物孢子	3	1
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	10135	2421
Unknown pollen	不明花粉	5	3

表2 寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵数

	北条小町邸跡 若宮大路遺跡群	
	土坑16	土坑4
分析に用いた試料 (g)	2.5716	1.6005
残渣+グリセリン (g)	1.5177	1.3139
封入に用いた量 (g)	0.0482	0.0791
鞭虫卵	7	8
(試料1g当たりの個数)	86	83

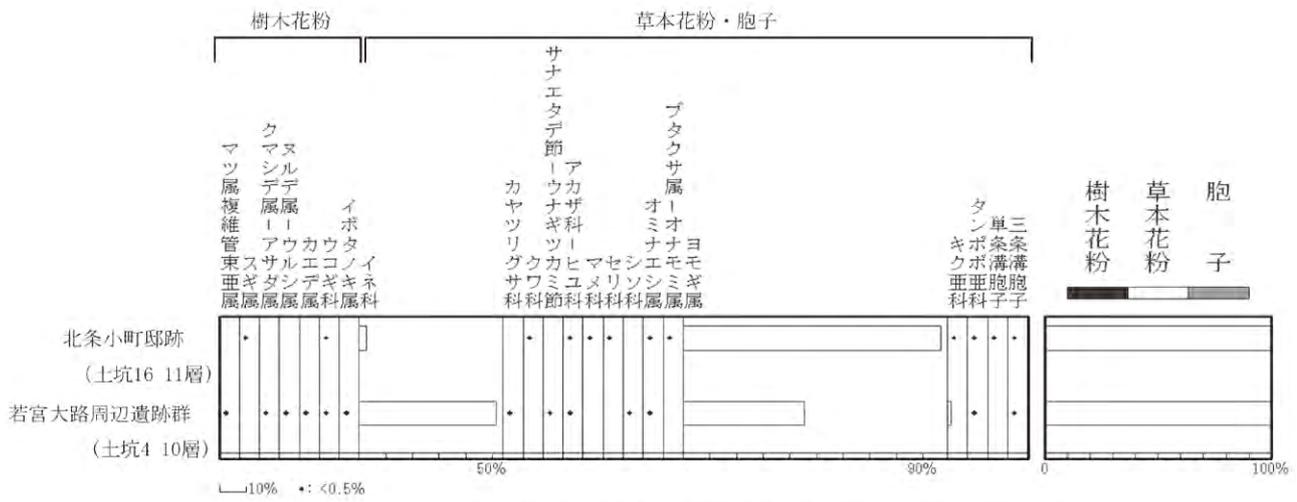


図1 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の土坑採取試料における花粉分布図
樹木花粉、草本花粉、孢子は産出花粉孢子総数を基数として百分率で算出した。

第3節 若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン・佐々木由香（パレオ・ラボ）

1. はじめに

神奈川県鎌倉市の若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）は、沖積平野である市内中心部の小町に所在し、13世紀前半から14世紀半の遺構などが検出されている。以下では、13世紀中葉～後半の堆積物を掘り込んで作られたゴミ穴である土坑の土壌より得られた大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、第5b面を掘り込んだ遺構である土坑5の埋土から採取された堆積物である。土相は、暗茶褐色の砂礫混じりの砂質シルトである。第5b面は、13世紀中葉～後半の遺構面と推定されている。

試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。試料500ccについて最小0.5mm目の篩を用いて水洗した。同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群は、おおよその産出数を記号(+)で表記した。試料は、鎌倉市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物ではクワ属核と、キイチゴ属核、ブドウ属種子、カキノキ種子の4分類群、草本植物ではソバ果実と、イヌタデ果実、サナエタデ-オオイヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、スベリヒユ属種子、アカザ属種子、キケマン属種子、ゴマ種子、メロン仲間種子、オトコエシ属果実、トウバナ属果実、メハジキ属果実、シソ属果実、タカサブロウ果実、メナモミ属果実、コウゾリナ属果実、ナス種子、ナス属種子、ヘラオモダカ種子、オモダカ属果実、メヒシバ属果実、イネ籾殻・炭化籾殻・炭化種子、エノコログサ属有ふ果、ヒメクグ果実、カヤツリグサ属果実、サンカクイ-フトイ果実、ホタルイ属果実の27分類群の、計31分類群が見いだされた（表1）。大型植物遺体以外には昆虫遺体や骨片、鉄釘がみられたが、同定の対象外とした。

産出した大型植物遺体では、イネの籾殻（炭化籾殻を含む）が多量で、キケマン属とナス、カヤツリグサ属が少量、クワ属とキイチゴ属、ブドウ属、カキノキ、ソバ、イヌタデ、サナエタデ-オオイヌタデ、ミチヤナギ属、スベリヒユ属、アカザ属、ゴマ、メロン仲間、オトコエシ属、トウバナ属、メハジキ属、シソ属、タカサブロウ、メナモミ属、コウゾリナ属、ナス属、ヘラオモダカ、オモダカ属、メヒシバ属、イネ（種子）、エノコログサ属、ヒメクグ、サンカクイ-フトイ、ホタルイ属がわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) クワ属 *Morus* sp. 核 クワ科

淡褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面形は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚くやや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ1.7mm、幅1.5mm。

(2) ブドウ属 *Vitis* sp. 種子 ブドウ科

黒褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点

があり、腹面には縦方向の2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。長さ4.2mm、幅3.9mm、厚さ2.4mm。

(3) カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 種子 カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと想定される種子をカキノキとした。残存長12.4mm、幅8.1mm。

(4) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実 タデ科

暗褐色で、完形ならば横断面が正三角形の三稜形。着点付近には膜状の果皮が残存する。残存長3.4mm、幅4.1mm。

(5) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ2.8mm、残存幅2.1mm。

(6) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は細長い卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさで次の3群に分類している。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。計測可能な3点の大きさは、長さ5.9～7.9(平均6.9±1.0)mm。図版に示した種子は、長さ6.9mm、残存幅3.5mm。ほぼすべてマクワウリ・シロウリ型の大きさである。

(7) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.7mm、幅1.6mm。

(8) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

黄褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ3.1mm、幅3.7mm。

(9) ナス属 *Solanum* spp. 種子 ナス科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には細かい畝状突起をもつ網目状隆線がある。長さ1.3mm、幅1.5mm。

(10) イネ *Oryza sativa* L. 籾殻・炭化籾殻・炭化種子(穎果) イネ科

表1 出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	検出面 遺構	第5b面
		土坑5
採取位置		埋土
水洗量 (cc)		13世紀中葉～後半
		500
クワ属	核	1
キイチゴ属	核	6 (1)
ブドウ属	種子	1 (1)
カキノキ	種子	(2)
ソバ	果実	(1)
イヌタデ	果実	2 (4)
サナエタデ-オオイヌタデ	果実	(1)
ミチヤナギ属	果実	1
スベリヒユ属	種子	2 (1)
アカザ属	種子	5 (1)
キケマン属	種子	11 (6)
ゴマ	種子	2
メロン仲間	種子	3 (1)
オトコエシ属	果実	1
トウバナ属	果実	3
メハジキ属	果実	2
シソ属	果実	1 (1)
タカサブロウ	果実	(1)
メナモミ属	果実	(1)
コウゾリナ属	果実	1
ナス	種子	4 (11)
ナス属	種子	4 (1)
ヘラオモダカ	種子	1
オモダカ属	果実	1
メヒシバ属	果実	1
イネ	籾殻	(++++)
	炭化籾殻	4 (++)
	炭化種子	1
エノコログサ属	有ふ果	1 (9)
ヒメクグ	果実	1
カヤツリグサ属	果実	24
サンカクイ-フトイ	果実	1
ホタルイ属	果実	3
昆虫		(+++)

+ : 1-9、++ : 10-49、+++ : 50-99、++++ : 100以上

籾殻は橙褐色で、完形ならば側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長3.8mm、残存幅1.2mm。炭化籾殻は残存長4.6mm、残存幅1.8mm。種子（穎果）は上面観が両凸レンズ形、側面観が楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.7mm、幅2.4mm。

(11) エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ1.9mm、幅1.1mm。

(12) カヤツリグサ属 *Cyperus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、上面観は三稜形、側面観は狭倒卵形。頂部と基部が突出する。表面には微細な網目状の文様がある。やや光沢がある。長さ1.3mm、幅0.6mm。

4. 考察

13世紀中葉～後半の第5b面を掘り込んでつくられた土坑5の堆積物を水洗した結果、栽培植物ではカキノキとソバ、ゴマ、メロン仲間、ナス、イネが得られた。食用として利用可能な野生植物ではクワ属とブドウ属、シソ属、エノコログサ属が得られた。イネは籾摺り後の籾殻がゴミとしてまとめて廃棄されたと考えられる。イネ籾は目視でおおよその数を計数すると、約800点に相当する量が含まれていた。

木本植物はほとんど産出しておらず、クワ属やキイチゴ属、ブドウ属子、カキノキがわずかずつの産出であった。これらは食用可能な種であるため、食べられた後の残渣の可能性もある。草本植物のイヌタデやミチヤナギ属、アカザ属、キケマン属、メハジキ属、メナモミ属、コウゾリナ属、メヒシバ属などは、遺構周辺の道端や荒地、畑地に生育していたと考えられる。やや湿った道端や田の畔などにはトウバナ属やタカサブロウ、ヒメクグなど、湿地にはサンカクイ-フトイ、水田や浅い水域にはヘラオモダカやホタルイ属などが生育していたと考えられる。今回検討した試料には、明瞭な水田雑草は含まれていなかった。

引用文献

藤下典之(1984) 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」: 638-654, 同朋舎.

第4節 若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

鎌倉市小町二丁目24番14地点に所在する若宮大路周辺遺跡群において、花粉分析用と寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている(大型植物遺体分析の節参照)。

2. 試料と方法

分析試料は、第5b面(13世紀中葉～後半)を掘り込んだ遺構(土坑5)の埋土から採取された黒色(10YR2/1)有機質シルト1点である。土坑5の埋土には繊維質の有機物が多数含まれており、土坑5はゴミ穴の可能性が考えられている。この試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1. 花粉分析

試料(湿重量約1～2g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本(PLC.1656～1662)を作製し、写真を図版1に載せた。

2-2. 寄生虫卵分析

試料を計量し、花粉分析と同様の方法で処理を行った。処理後の残渣に適容量のグリセリンを加え、計量を行った。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$$X = BD/AC$$

X: 試料1g中の寄生虫卵含有数、A: 分析に用いた試料の重量(g)、B: 濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C: 濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D: プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良好な寄生虫卵を選んで単体標本(PLC.1663、PLC.1664)を作製し、写真を図版1に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉10、草本花粉21、形態分類のシダ植物胞子1の総計32である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、分布図を図1に示した。分布図の樹木花粉・草本花粉・シダ植物胞子は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して

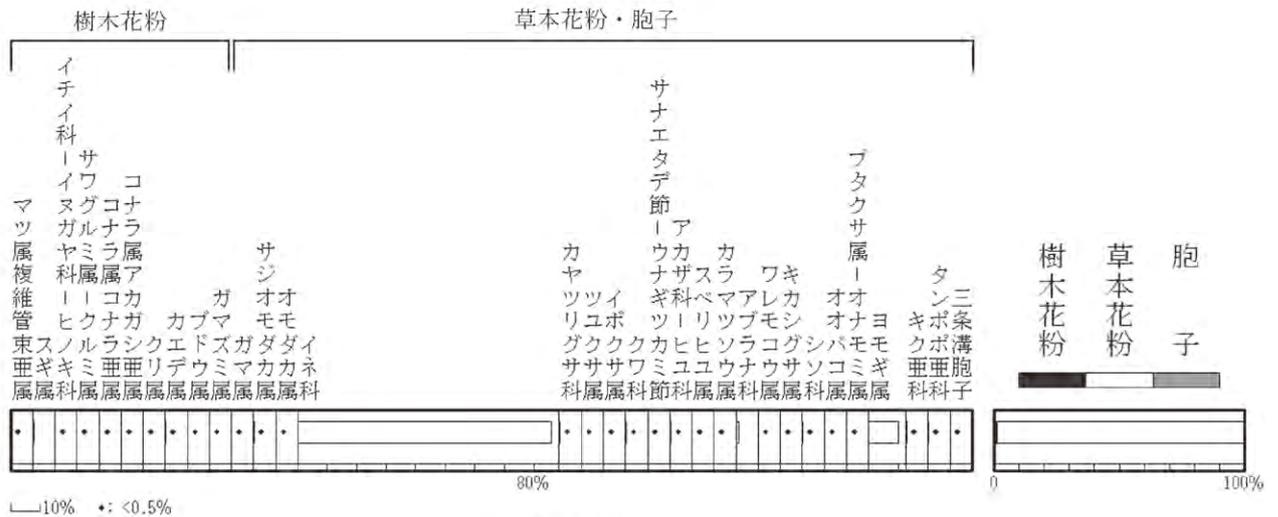


図1 花粉分布図

樹木花粉・草本花粉・孢子は産出花粉孢子総数を基数として百分率で算出した。

表1 産出花粉孢子一覧表

学名	和名	土坑5
樹木		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑維管束亜属	3
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	17
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2
<i>Pterocarya</i> - <i>Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	7
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	4
<i>Castanea</i>	クリ属	1
<i>Acer</i>	カエデ属	2
<i>Vitis</i>	ブドウ属	2
<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	1
草本		
<i>Typha</i>	ガマ属	1
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属	2
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	2
Gramineae	イネ科	2590
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4
<i>Commelina</i>	ツユクサ属	1
<i>Aneilema</i>	イボクサ属	1
Moraceae	クワ科	6
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i> - <i>Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	11
<i>Portulaca</i>	スベリヒユ属	2
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	1
Brassicaceae	アブラナ科	22
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	1
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	2
Labiatae	シソ科	1
<i>Plantago</i>	オオバコ属	1
<i>Ambrosia</i> - <i>Xanthium</i>	ブタクサ属-オナモミ属	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	303
Tubuliflorae	キク亜科	8
Liguliflorae	タンポポ科	3
シダ植物		
trilete type spore	三条溝孢子	2
Arboreal pollen	樹木花粉	40
Nonarboreal pollen	草本花粉	2964
Spores	シダ植物孢子	2
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	3006
Unknown pollen	不明花粉	3

表2 寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵

	土坑5
分析に用いた試料(g)	1.8393
残渣+グリセリン(g)	1.0113
封入に用いた量(g)	0.0347
試料の密度 (g/cm^3)	1.05
回虫卵	18
(試料1g当たりの個数)	285
鞭虫卵	51
(試料1g当たりの個数)	808
肝吸虫卵	1
(試料1g当たりの個数)	16
不明	6
(試料1g当たりの個数)	95
計	76
(試料1g当たりの個数)	1204
(試料1cm ³ 当たりの個数)	1264

入れてある。

今回の分析試料は、樹木花粉の含有量が少なく、ほとんどが草本花粉で占められる。草本花粉のなかではイネ科が突出しており、ヨモギ属を伴う。イネ科の産出率は86%、ヨモギ属の産出率は10%である。その他では、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、キカシグサ属などの好湿性植物花粉がわずかに産出している。

3-2. 寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表2に示す。検鏡の結果、回虫卵と鞭虫卵、肝吸虫卵が検出された。回虫卵は試料1g当たり285個、鞭虫卵は試料1g当たり808個、肝吸虫卵は試料1g当たり16個である。試料全体では、試料1cm³当たり1264個となる。

4. 考察

花粉分析の結果ではイネ科が突出して多く産出した。大型植物遺体分析によると、土坑5内からはイネの籾殻が大量に検出されている（大型植物遺体の節参照）。イネの花は、開花後すぐに籾殻が閉じるため、籾殻内に花粉が取り込まれ、籾殻には多量の花粉が付着している。よって、土坑5の埋土から検出されたイネ科花粉の大半は、籾殻に付着していたイネ花粉であると考えられる。その他では、ヨモギ属をはじめカヤツリグサ科やスベリヒユ属、アブラナ科、オオバコ属、ブタクサ属-オナモミ属、キク亜科、タンポポ亜科などの草本類が検出されており、土坑周辺に生育していたと思われる。また、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、キカシグサ属などの好湿性植物の花粉も検出されており、土坑周辺には湿地的環境も存在していたと考えられる。一方で、樹木花粉の産出は非常に少なく、大型植物遺体分析でも木本植物はほとんど産出していない。土坑周辺に木本植物が生育していなかったか、あるいは、土坑の形状が小さいため、土坑周辺の草本類の花粉のみが土坑内に供給され、遺跡周辺に分布する樹木花粉はあまり入り込めなかったか、または、土坑内堆積物が人為的に短時間で供給されたために樹木花粉が堆積する余地がなかったなどの理由が考えられよう。

寄生虫卵分析の結果では、回虫卵や鞭虫卵、肝吸虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料1cm³中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられている（金原，1997）。この値に照らし合わせると、土坑5から産出した寄生虫卵数は試料1cm³当たり1264個であるため、糞便が含まれていた可能性は高いと思われる。ただし、鎌倉時代の鎌倉では市内各地で回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵が大量に産出しており（鈴木，2008）、鎌倉時代の鎌倉における寄生虫卵の産出は一般的な現象とも考えられる。

引用文献

- 金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197-216，東京美術．
鈴木 茂（2008）鎌倉の遺跡と寄生虫卵．考古論業神奈河，16，77-83．

第五章 まとめと考察

1. 遺構の変遷と年代

1期－9面

調査区が狭小なため定かではないが、遺構は検出されていない。また現地でも9面から確実に取り上げられた遺物はない。このため、9面を遺構面とする確証はなく、出土遺物がないことから年代も不明。

2期－8面

調査区が狭小のため全容は定かではないが、ピットが1穴のみ検出されている。また出土遺物が確認できることから、本期以降、人の手が入ったことは確実と言える。出土遺物から見て、13世紀前葉の後半(13世紀第2四半期あたり)が上限となる。

3期－7面

調査区が狭小なため、板列とそれに伴う落ちを検出したに留まる。板列裏込めおよび板列に伴う落ちの埋土からの出土遺物は、ともに大きな年代差を認められず、ほぼ同時期のものと言える。年代は13世紀前葉の後半(13世紀第2四半期あたり)が上限。

4期－6b面

調査区が狭小なため、全容は不明。木製品の出土が多い。遺構の検出状況も悪く、上層の6a面と接合した木製品もあるため、生活面として評価できるかどうか定かではない。接合状況から考えて、上層の6a面と近似する年代か。

5期－6a面

調査区が狭小なため全容は不明。生活面の上に火災等の何らかの理由により、炭土が広がる状況が形成されたか。出土遺物からみて13世紀中葉が上限か。

6期－5b面

調査区が狭小なため全容は不明。確認された遺構のうち、土坑5は有機物が腐植した繊維質土が充填されていた。この他に礎板の可能性もある板が面上で複数確認している。構築土内の出土遺物から、上限は13世紀の中頃と言えよう。

7期－5a面

腐植土・焼土・木くず集中で覆われており、生活面として評価できるか定かではない。ただし、次の整地(地行)を行う直前の廃絶時の状況を反映している可能性を指摘できる。年代は出土遺物からみて、13世紀後半以降と考えられる。

8期－4b面

調査区南側は上層の土坑により削平されている。調査区北半分はほとんど溝3のみとなっており、この溝は区画を示す可能性もあるが、全容は不明。出土遺物に13世紀中葉のものも含まれるが、構築土の出土遺物からみて、年代は13世紀後半以降と言える。

9期－4a面

調査区が狭小なことから、調査区南側が上層の土坑により削平されていることから全容は不明。出土遺物から年代を特定するには至らないが、上下層から勘案すると、13世紀後半以降となるか。

10期－3c面

調査区が狭小なことから、調査区南側が上層の土坑により削平されていることから全容は不明。出土遺物からみて、年代は13世紀後半以降と言える。

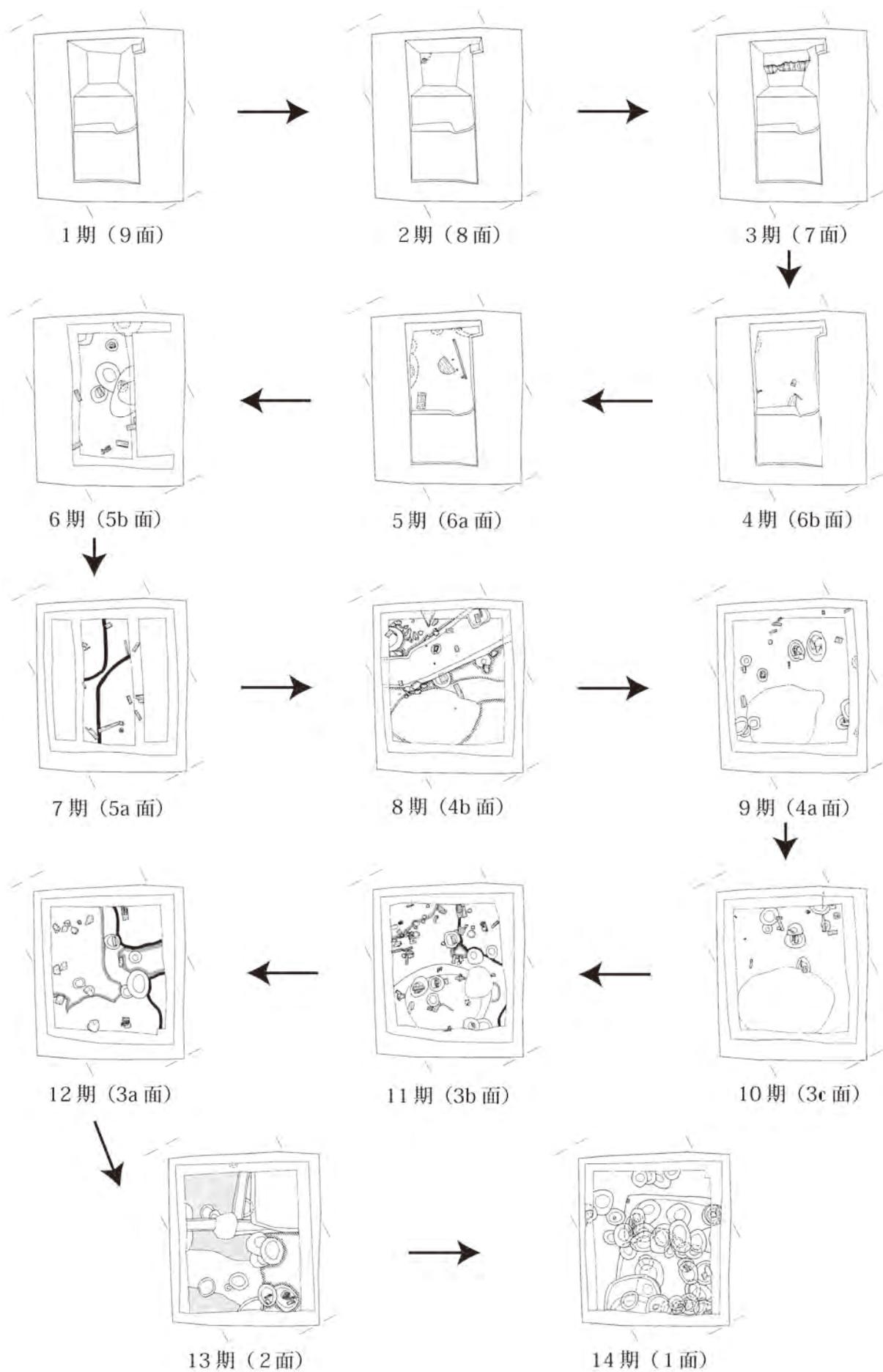


图25 遺構變遷圖

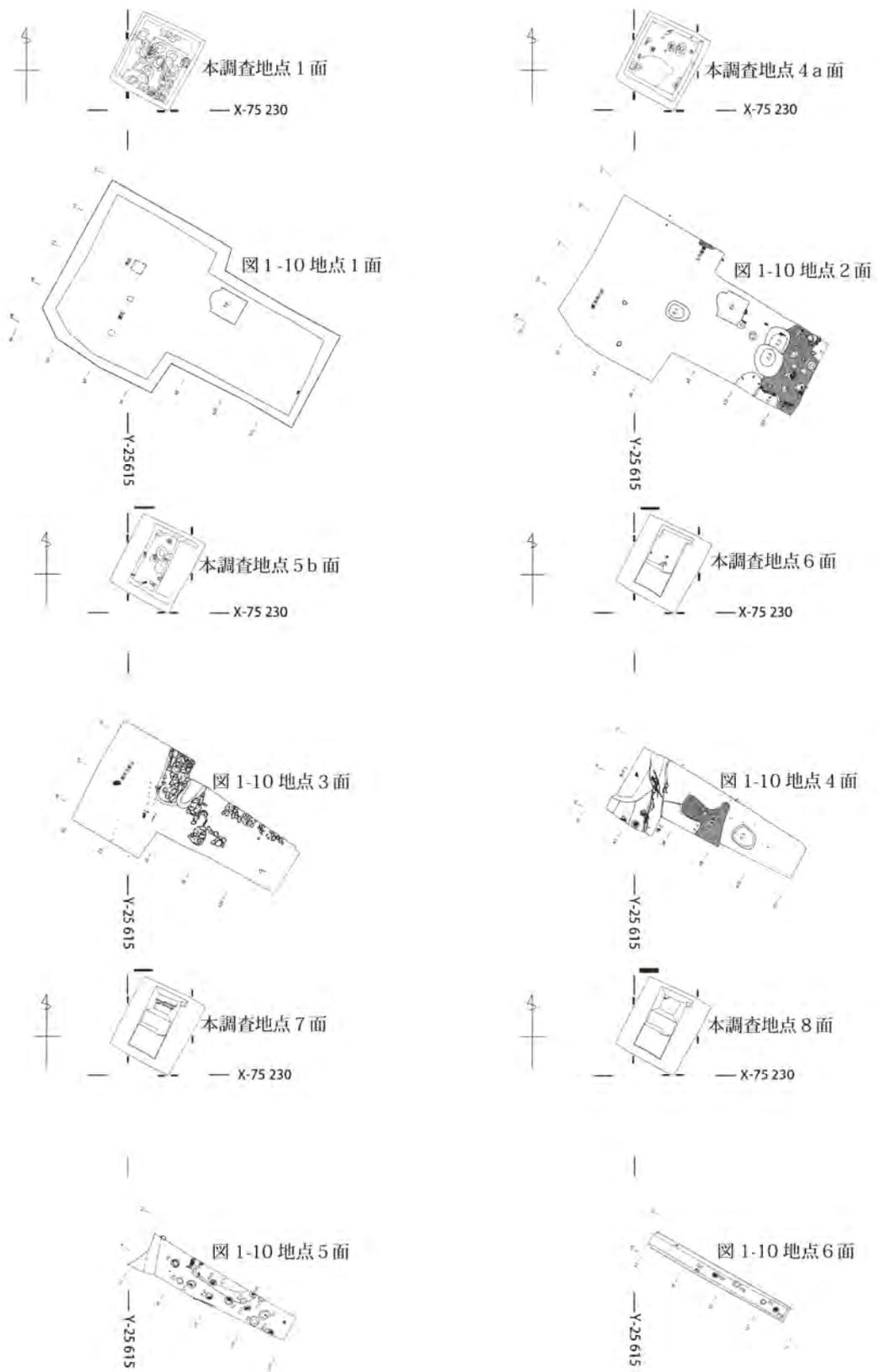


図 26 南側隣地調査区と本調査区 (1/300)

11 期-3 b 面

調査区が狭小なため全容は不明。検出面上に遺物が散乱する状況と底部に繊維質土が厚く堆積する土坑 4 が検出された。遺物の散乱状況から廃絶時の状況を反映している可能性を指摘できる。年代は出土遺物からみて 13 世紀後葉を上限とするか。

12期-3a面

調査区が狭小なため全容は不明。遺構の検出もまばらな状況である。出土遺物は13世紀中葉までのものを含むが、上下層の年代を勘案すると、13世紀後葉が上限となるか。

13期-2面

調査区が狭小なため全容は不明。溝2条が検出されているが、これが区画を示すものかは不明。年代は13世紀後葉を上限とするが、14世紀以降が主体となる可能性もある。

14期-1面

調査区が狭小なため全容は不明。調査区の大半を占める土坑2とそれを切るピット群の2時期に大別することができる。ピット群の時期に建物が1棟ありそうではあるが、調査区外に広がるため全容は不明。年代は13世紀後葉を上限とするが、最上層であるため、より後世の出土遺物も認められる。

図26は南側隣地の調査区と本調査区の合成図になるが、これは遺構面標高を元に合成したもので、必ずしも整合性が取れているとは言えない。

2. 土坑内繊維質土の土壌分析から

平成27年度報告の北条小町邸跡I b面土坑16(沖元2015)、及び本調査地点の3 b面土坑4、5 b面土坑5に堆積していた繊維質土の分析結果を第四章に提示した。このうち土坑16、土坑4の堆積状況及び繊維質土の採集土層は図27に再提示、土坑5に関しては土坑内埋土がすべて繊維質土であった。

第四章の分析結果をみると、北条小町邸跡の土坑16はヨモギ属が97%と極めて高く、分析者も人為的な影響の可能性を指摘している。また、本調査地点の土坑4及び土坑5においてはイネ科花粉が51%、86%と高比率を示しているが、当該土坑では籾殻も多数検出されていることから、その影響が指摘されている。いずれにしろ、大きな特徴としてヨモギ属とイネ科の花粉が、それぞれの比率は違えど他の分類群よりも多く産出されていることである。

これらを踏まえた上で、日本人とヨモギの関わりについて他分野、史料上から探してみる。

『日本民俗大辞典』(福田ほか編2000)には「葉裏の綿毛は灸療治に用いるもぐさとして利用されている。」とあり、ヨモギの利用法としてもぐさが一つあげられる。

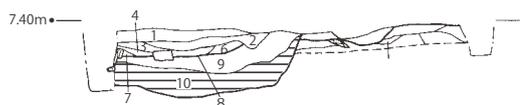
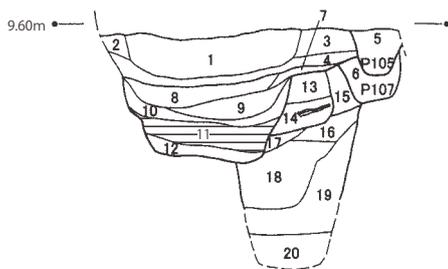
『万葉集』巻十八4116の伴家持の歌に「ほとどぎす 來鳴く五月の 菖蒲草 よもぎかづらき」(原文万葉仮名)とあり「奈良時代には五月にアヤメとともにヨモギをカズラとしたことが確認できる。これは、アヤメと同じく芳香を楽しむことのほか、魔除けの意味合いもあったものと思われる」とある(福田ほか編2000)。

『和名類聚抄』(註)には「本草云艾一名豎草」とあり平安期にはヨモギが薬草として認識されている。

『平家物語』巻第三「御産」には「桑の弓・蓬^{よもぎ}の矢にて、天地四方を射させらる。」、『太平記』巻第二十五「宮方怨霊会六本杉事付医師評定事」には「蓬矢^{よもぎのや}ノ慶賀天下ニ聞ヘシカバ」とあり、中世には男子誕生の際、蓬矢^{よもぎや}を天地四方に放つ儀礼が存在した可能性を確認できる。

安倍清明が編纂者として仮託されている『三国相傳陰陽輅轄篋篋内傳金烏玉兎集』には「三月三日蓬萊草餅巨旦皮膚」とあり、ヨモギの草餅と蘇民将来の説話とが関連づけられている。

江戸期に編纂された『日本歳時記』三月二日項に「沐浴、艾餅^{よもぎもち}を製すべし。」続く三日項に「さて今日艾餅を食し、桃花酒をのみ、艾餅を親戚にをくる。」とある。さらに、五月四日項に「国俗、今日艾^{よもぎ}、菖蒲^{あやめ}を屋ののきに挟む。按ずるに、歳時記に、五月五日艾をむすびて、人の形のごとくして、戸上にかくれば。毒気をはらふ、と見えたり。国俗、艾、菖蒲をのきに挟むも、かゝる遺意なるべし。弘仁式に、



本調査地点 土坑 4 土層堆積

北条小町邸跡 (雪ノ下一丁目 427 番 2 外)
土坑 16 土層堆積 (沖元 2015 より転載加筆)

図 27 各遺構繊維質土採集土層図

五月三日平坦に、菖蒲、蓬花など、南殿の前にをくとあれば、其時より有ける事とみえたり。」とあり、江戸時代にはヨモギを軒に挟む儀礼が存在したことが確認できる。また五月五日頃に「又いにしへは、今日薬玉とて、菖蒲、よもぎ、そのほか雑花十種ばかりを、五色の糸にてとりのへて、ひぢにかくる事侍り。」とあり薬玉にもヨモギが使用されていたことがわかる。

中国最古の詩編である『詩経』王風、采葛さいかっには「彼采蕭兮、一日不見、如三秋兮、彼采艾兮、一日不見、如三歳兮」とあり、守屋美都雄氏は「艾をとる風習が古くよりあったことがわかる。」としている(守屋 1950・1978)。

楚の屈原の詩とされる『楚辞』離騷には「惟此黨人其獨異、戸服艾以盈要」とあり、守屋氏は「艾を帯びることによって、却って悪をさけうるものと考えている。」としている(守屋 1950・1978)。

『孟子』離婁篇七十章に「今之欲王者。猶七年之病。求三年之艾也。」とあり、守屋氏は「艾を摘る目的は、(中略)薬用に供するためであったろう。」としている(守屋 1950・1978)。

漢代に原形が成立した『礼記』内則には「國君世子生。(中略)射人以桑弧蓬矢六。射天地四方。」とあり、世子生誕の際に蓬矢よもぎやを天地四方に放つ儀礼が中国に存在したことが確認できる。

中国南朝梁代に成立した『荆楚歳時記』には「五月五日、謂之浴蘭節。四民並蹋百草之戲、採艾以爲人、懸門戸上、以禳毒氣。以菖蒲或鏤或屑以泛酒。按大戴禮曰、五月五日蓄蘭爲沐浴、楚辞曰、浴蘭湯兮沐芳華、今謂之浴蘭節、又謂之端午。蹋百草、即今人有闘百草之戲也。宗則字文度、常以五月五日鷄未鳴時採艾、見似人處、攬而取之、用灸有驗。師曠占曰、歳多病、則病草先生。艾是也。今人以艾爲虎形、或剪綵爲小虎、粘艾葉以戴之。」とあり、荆楚地方では五月五日の端午の節句の際に邪気払いとしてヨモギを門戸の上にかかげる風習が存在したことが窺え、また、灸にもぐさや薬草としての効用も期待されていたことがわかる。この他に、ヨモギを使って虎形を作成していたこともわかる。

このように、古来より日本人は「ヨモギ」に対して特別な観念を抱いていたことが把握でき、さらに中国ではそれ以前の史料上においても「ヨモギ」に対する特別な観念を確認できる。土坑内におけるヨモギ花粉や籾殻の偏在が何を示すかは容易にわかるものではないが、正月飾りのように「廃棄までが儀礼」であることを視野にいれた分析が必要になる。さしあたり考古学的に行えることは、偏った分析結果を示す遺構や土層はどのようなものがあるか、土壌サンプル採取箇所の違いが分析結果の違いにつながるのか、あるいは地域的・年代的偏在の有無(例えば京都・奈良、古代・中世)といったデータを集積していくことが肝要であろう。

(註) 国立国会図書館デジタルコレクションにて閲覧

引用・参考文献(本報全体に共通)

- 赤星直忠 1959『鎌倉市史 考古編』吉川弘文館
秋山哲雄 2006『北条氏権力と都市鎌倉』吉川弘文館
蘆田伊人編 1958『大日本地誌大系(二十一) 新編鎌倉志 鎌倉攬勝考』雄山閣
蘆田伊人編 1998『大日本地誌大系 22 新編相模国風土記稿』雄山閣
上本進二 2000「第4節 鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子棧敷戸遺跡(逗子市No.100)』(仮称)医療保健センター建設地内埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所
沖元道 2015「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目 427番2外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
小川裕久・服部実喜 1984『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎改築にかかわる遺跡調査会
貝原益軒剛補・貝原好古編録・大森志郎解説・注 1972『日本歳時記』八坂書房
神奈川県史編纂室編 1971『神奈川県史 資料編1 古代・中世(1)』神奈川県史編纂室
神奈川県史編纂室編 1973『神奈川県史 資料編2 古代・中世(2)』神奈川県史編纂室
神奈川県史編纂室編 1975『神奈川県史 資料編3 古代・中世(3上)』神奈川県史編纂室
神奈川県史編纂室編 1979『神奈川県史 資料編3 古代・中世(3下)』神奈川県史編纂室
金谷治 1966『孟子 新訂中国古典選第5巻』朝日新聞社
河野真知郎ほか 1990『今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
菊川英政 1992「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
菊川英政ほか 1999『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書(御成町819番1地点)』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
菊川英政ほか 2008『今小路西遺跡(No.201)発掘調査報告書』斉藤建設
木村美代治ほか 1992「若宮大路周辺遺跡群 御成872-14」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
熊谷満 2003「若宮大路周辺遺跡群の調査」『第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』鎌倉考古学研究所
熊谷洋一ほか 1993「宇津宮辻子幕府跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』鎌倉市教育委員会
黒板勝美編 1933『新訂増補国史大系 吾妻鏡』吉川弘文館
國平健三・長谷川厚 1990『宮久保遺跡Ⅲ』(神奈川県立埋蔵文化財センター 15) 神奈川県立埋蔵文化財センター
後藤丹治・釜田喜三郎校注 1961『太平記 二 日本古典文学大系35』岩波書店
齋木秀雄ほか 1982『御成町806-3番地地点』鎌倉考古学研究所
齋木秀雄ほか 2007『大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書 鎌倉遺跡調査会報告書第47集』鎌倉遺跡調査会
澤瀉久孝ほか編 1954『萬葉集大成14本文編三』平凡社
宗臺秀明・宗臺富貴子 1998「北条時房・顕時邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
鈴木茂 1996「宇津宮辻子幕府跡の花粉化石」(「宇津宮辻子幕府跡」附編)『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
鈴木棠三・鈴木良一監修 1984『神奈川県地名』平凡社
宗懐撰 1965『荊楚歳時記』藝文印書館
高木市之助ほか校注 1959『平家物語 上 日本古典文学大系32』岩波書店
長崎健校注・訳 1994「海道記」『中世日記紀行集』小学館
滝澤晶子 2012『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』博通
塚本哲三編 1927『漢文叢書 禮記』有朋堂書店
手塚直樹 1989『小町一丁目120番1地点』風門社ビル発掘調査団
手塚直樹ほか 1982『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団
手塚直樹ほか 1983『蔵屋敷東遺跡』江ノ電鎌倉ビル発掘調査団
貫達人・川副武胤・佐脇栄智 1959『鎌倉市史 社寺編』吉川弘文館
貫達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂
野口実 1993「頼朝以前の鎌倉」『古代文化45』(財)古代学協会
服部実喜・宍戸信悟 1986『千葉地東遺跡』(神奈川県立埋蔵文化財センター 10) 神奈川県立埋蔵文化財センター
塙保己一編 1932「鎌倉大草紙」『群書類従 第20輯』平文社
塙保己一編 1923「編智院法印灌頂資記」『續群書類従 第26輯上』平文社
塙保己一編 1927「篋篋内傳」『續群書類従 第31輯上』續群書類従完成会
原廣志・田代郁夫 1989『北条時房・顕時邸跡』北条時房・顕時邸跡発掘調査団
福田アジオほか編 2000『日本民俗大辞典 下』吉川弘文館
福田誠ほか 1999「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
松尾宣方・継実 1993「若宮大路周辺遺跡群 御成町811番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9』鎌倉市教育委員会
松尾剛次 1993『中世都市鎌倉の風景』吉川弘文館
馬淵和雄 1986「若宮大路周辺遺跡群 小町一丁目116番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄 1994「武士の都 鎌倉—その成立と構想をめぐって—」『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』(『中世の風景を読む』2) 新人物往来社
馬淵和雄 1998「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄 1999『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目620番5地点』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団
馬淵和雄 2000「北条時房・顕時邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄 2014「大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目570番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
宮田眞 1997『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
目加田誠訳 1969『詩経・楚辞 中国古典文学大系第15巻』平凡社
守屋美都雄 1950『校註 荊楚歳時記 中国民俗の歴史的研究』帝国書院
守屋美都雄訳注・布目潮瀨・中村裕一補訂 1978『荊楚歳時記 東洋文庫324』平凡社



1-1 調査地点近景①(南から)



1-3 調査地点近景③(北から)



1-5 1面土坑2掘削前全景(南から)



1-7 1面全景(南から)



1-2 調査地点近景②(西から)



1-4 調査地点近景④(西から)



1-6 1面土坑2掘削前全景(東から)

図版2



2-1 1面全景(西から)



2-2 2面全景(南から)



2-3 2面全景(東から)



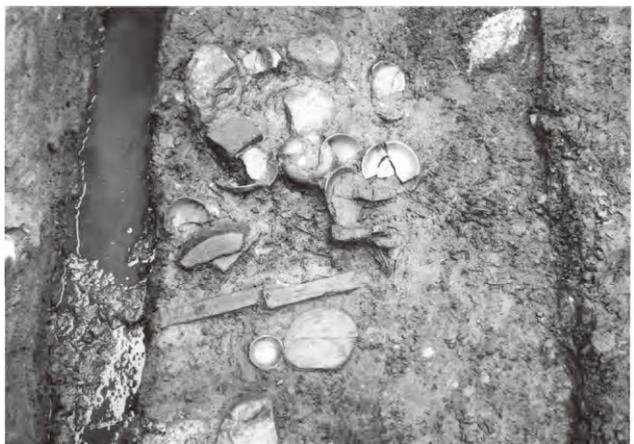
2-4 3a面遺物(図9-10・11・16)出土状況(東から)



2-5 3b面土坑4掘削前全景(南から)①



2-6 3b面土坑4掘削前全景(東から)①



2-7 3b面西北部遺物出土状況(南から)



2-8 3b面土坑4掘削前全景(南から)②



3-1 3b面土坑4掘削前全景(東から)②



3-2 3b面北東部遺物出土状況(北から)



3-3 3b面漆器椀(図12-28)出土状況(東から)



3-4 3b面全景(南から)



3-5 3b面全景(東から)



3-6 3b面土坑4(南から)



3-7 3c面全景(東から)



3-8 4a面全景(南から)

図版4



4-1 4a面全景(東から)



4-2 4a面礎板出土状況(北から)



4-3 4b面全景(南から)



4-4 4b面全景(東から)



4-5 5a面全景(南から)



4-7 5b面全景(東から)



4-6 5b面全景(南から)



5-1 6面全景(南から)



5-2 7面板列(南から)



5-3 8面全景(西から)



5-4 8面土師器皿(図23-1・2)出土状況(東から)



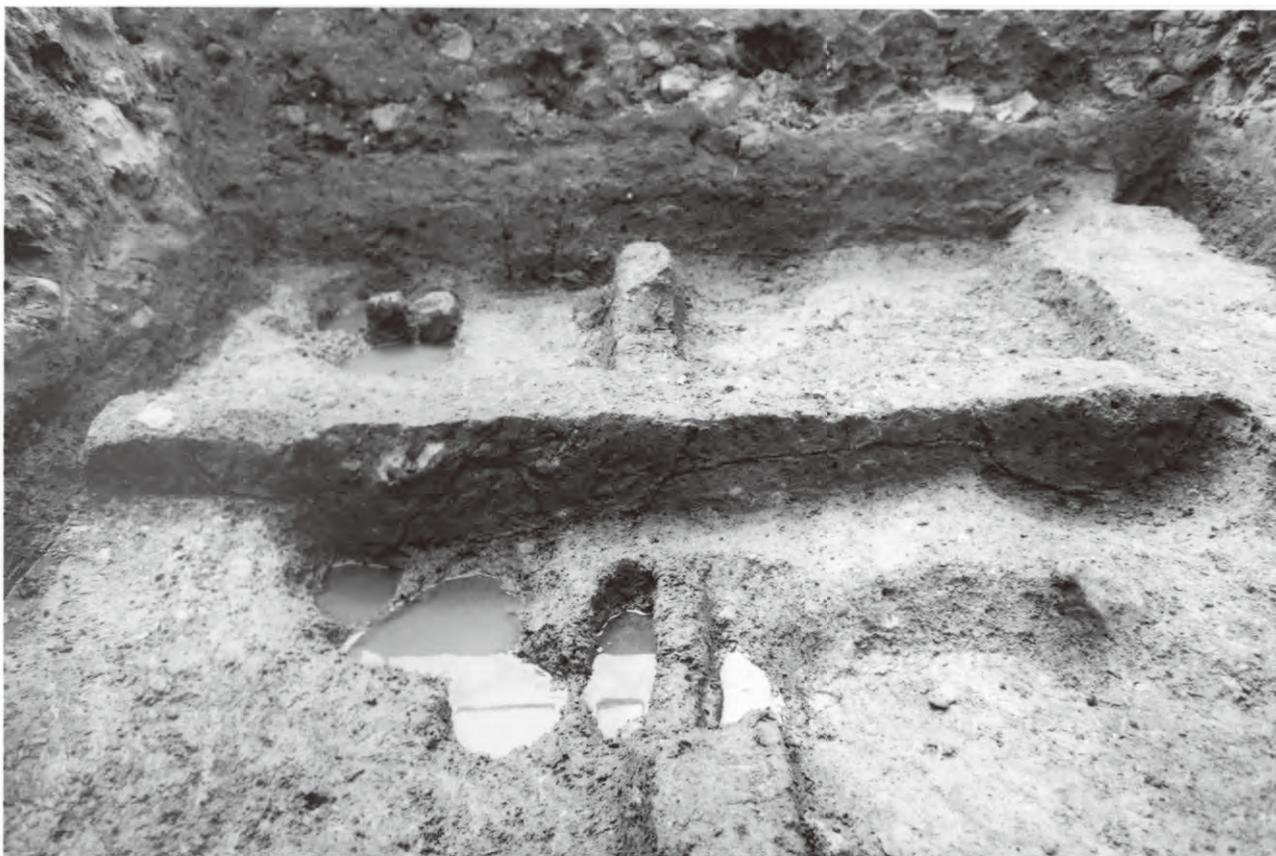
5-5
最終トレンチ
西壁土層断面



6-1 北壁土层断面



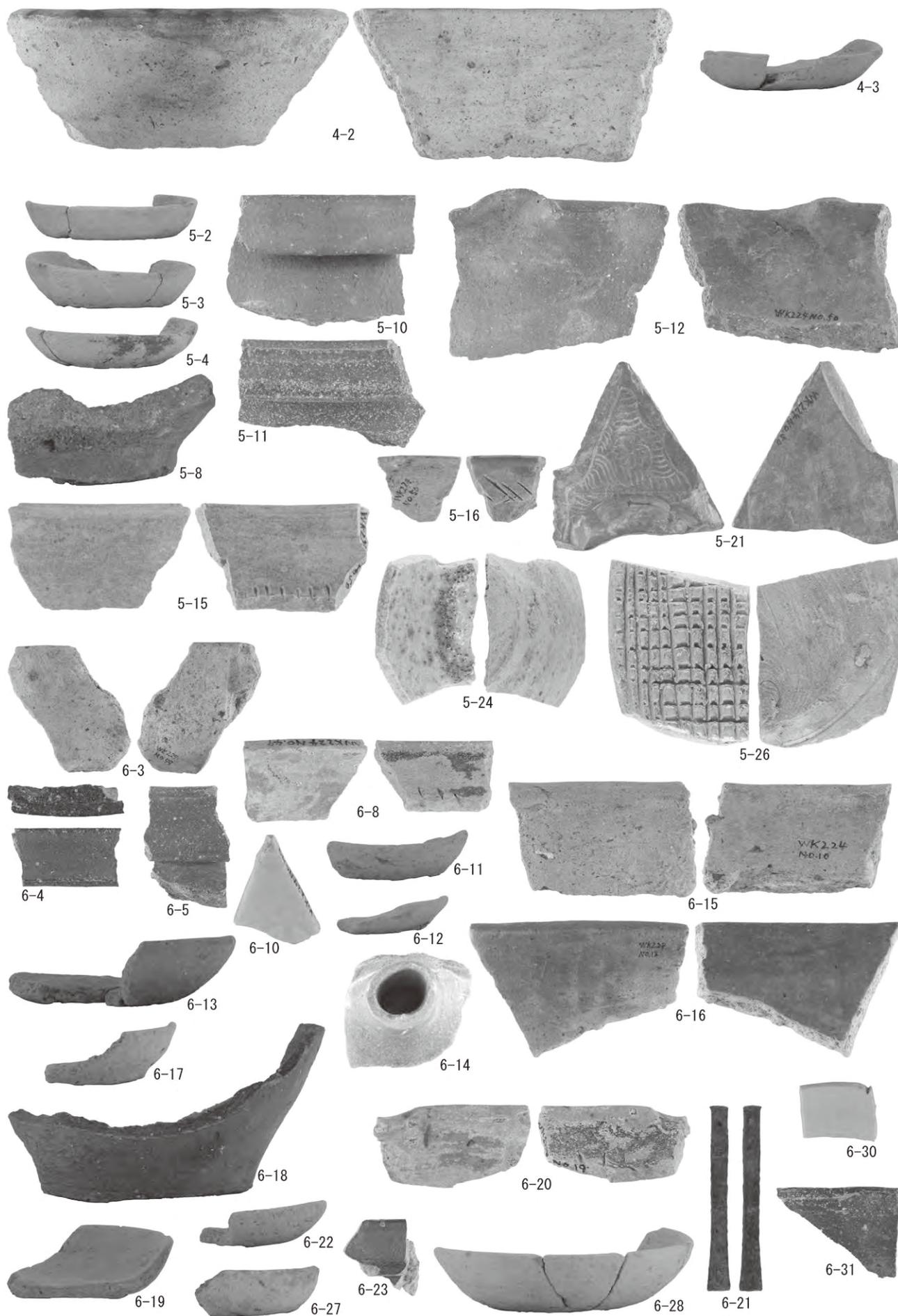
6-2 東壁土层断面



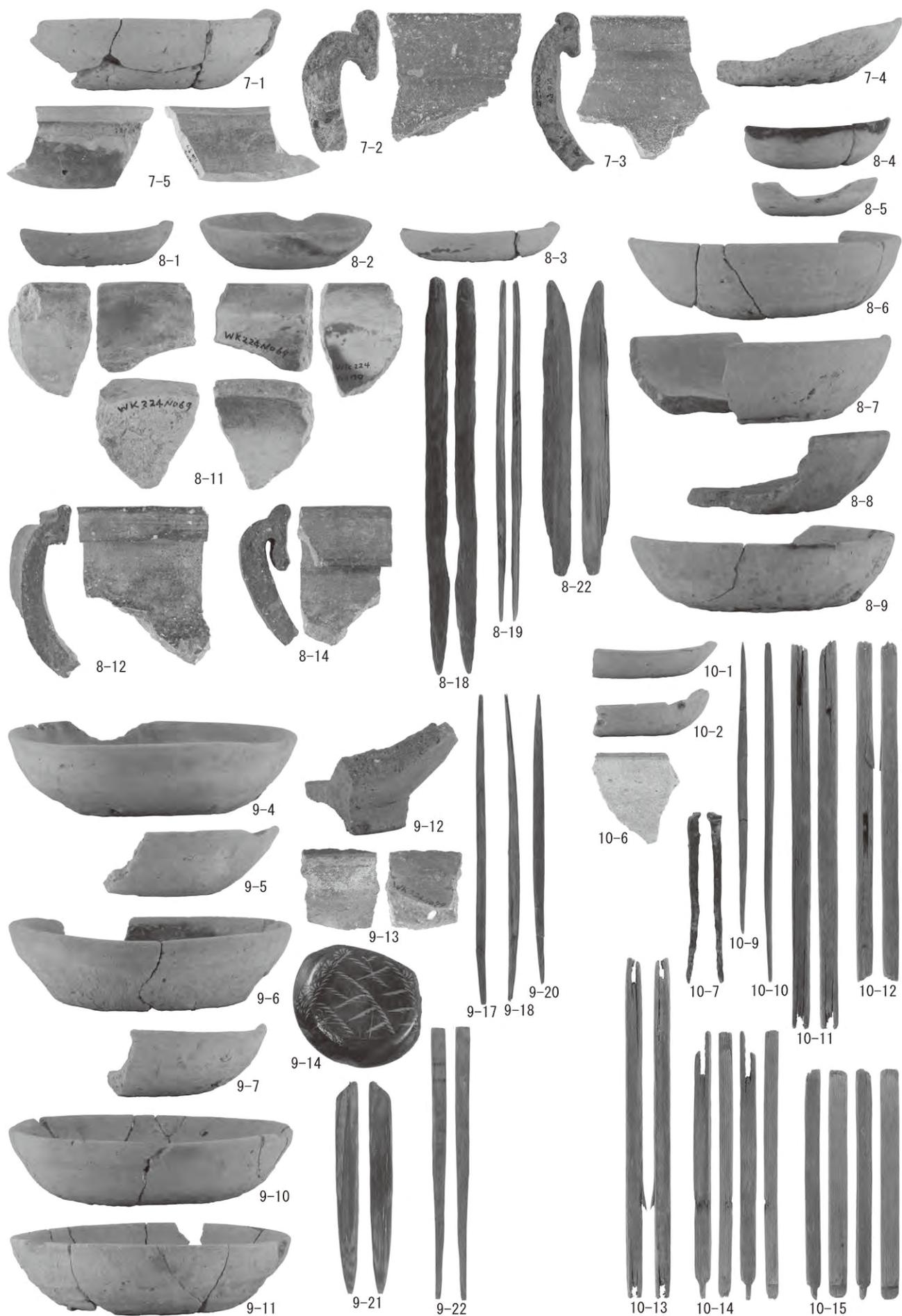
7-1 1面土坑2東西ベルト土層断面(南から)



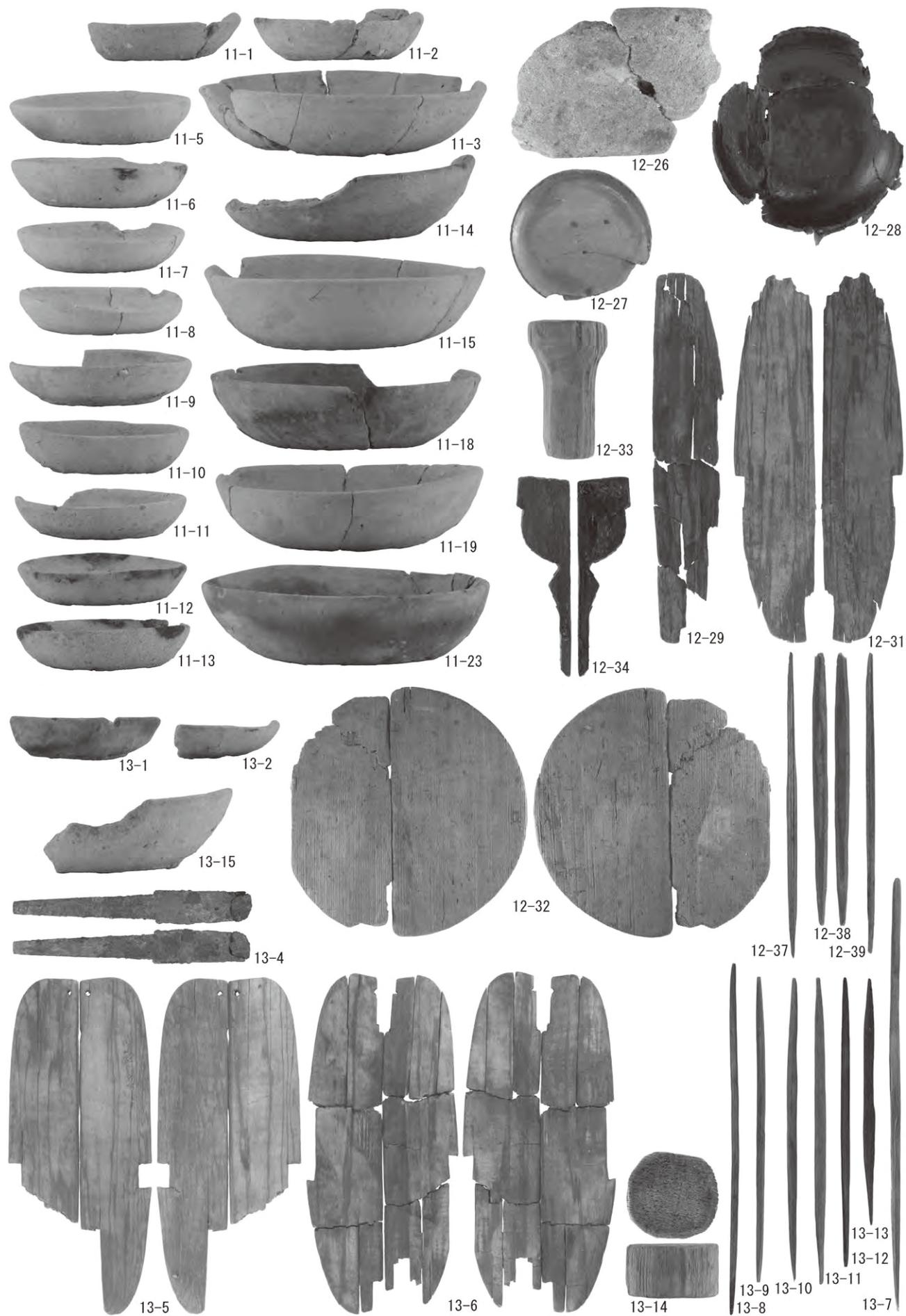
7-2 3a面中央ベルト土層断面(南東から)



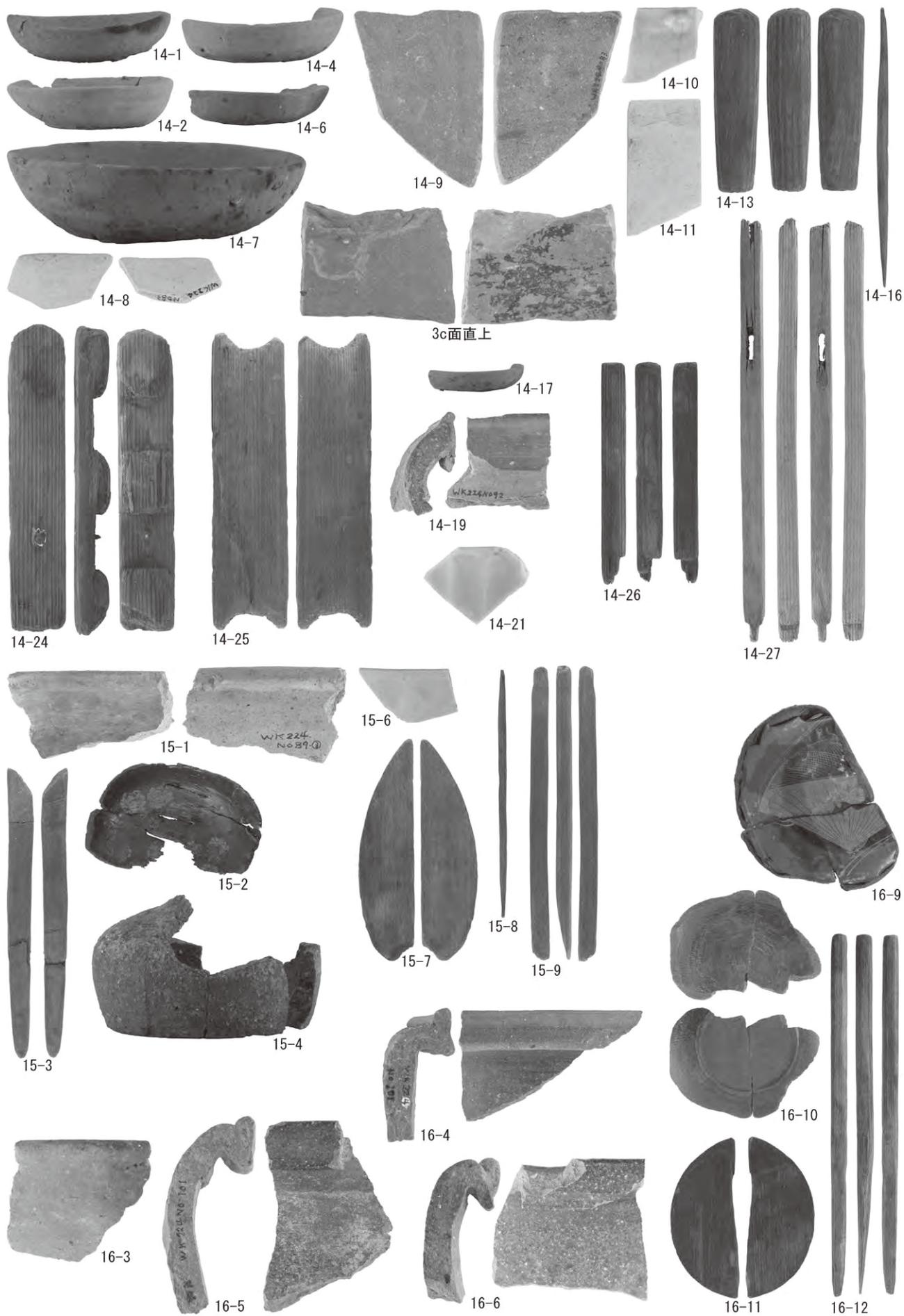
出土遺物 1



出土遺物2

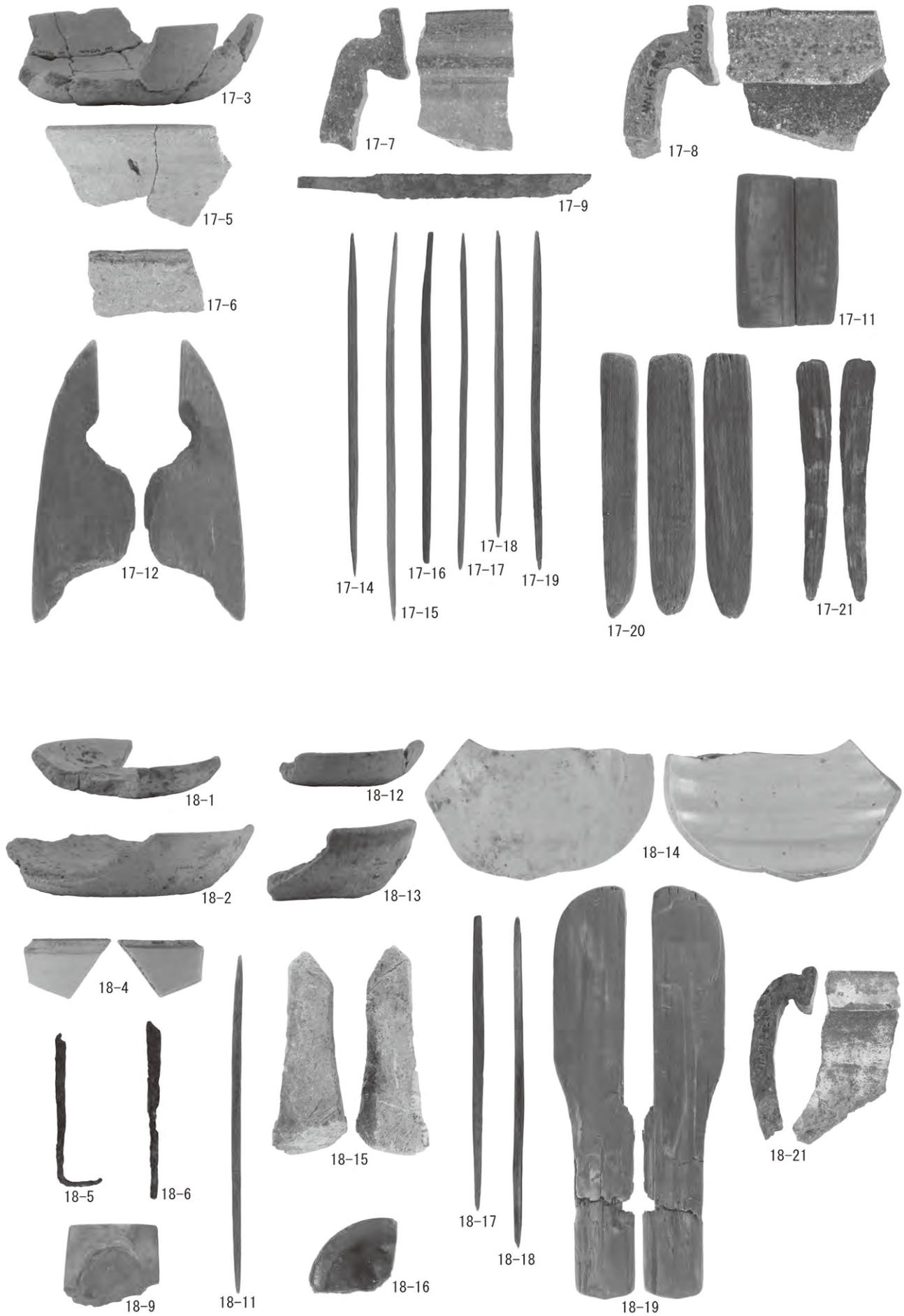


出土遺物 3

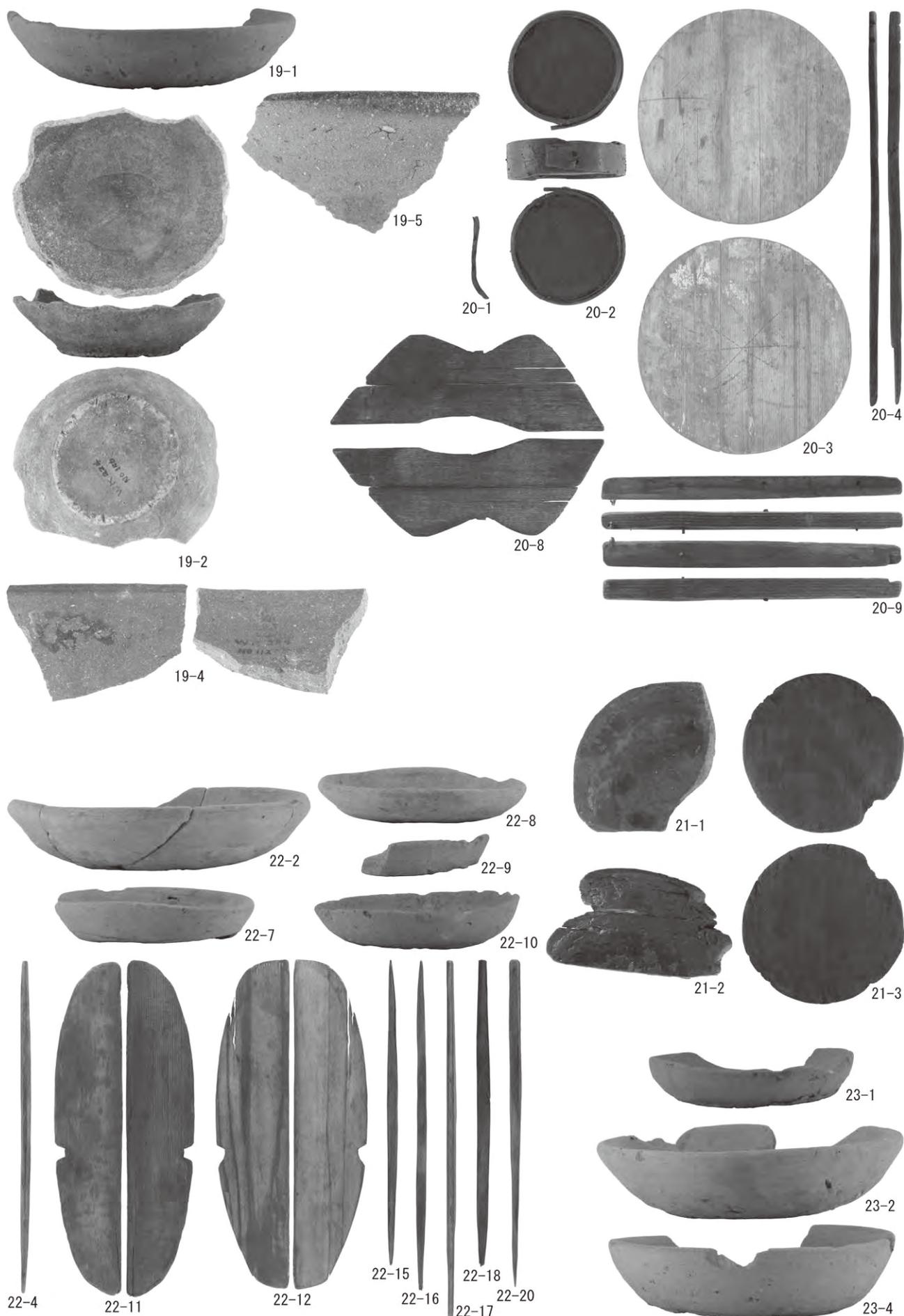


出土遺物 4

图版 12

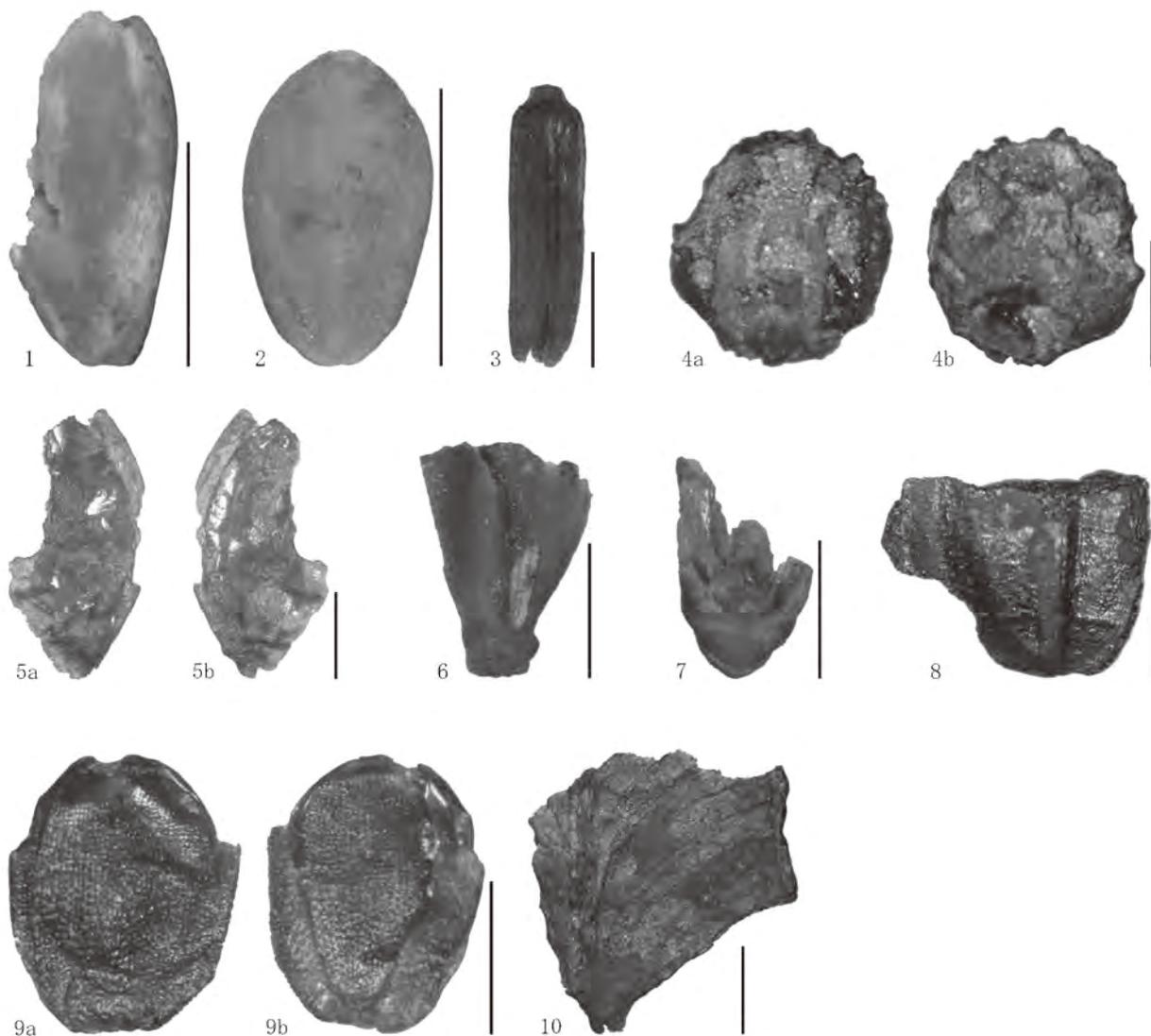


出土遺物 5



出土遺物 6

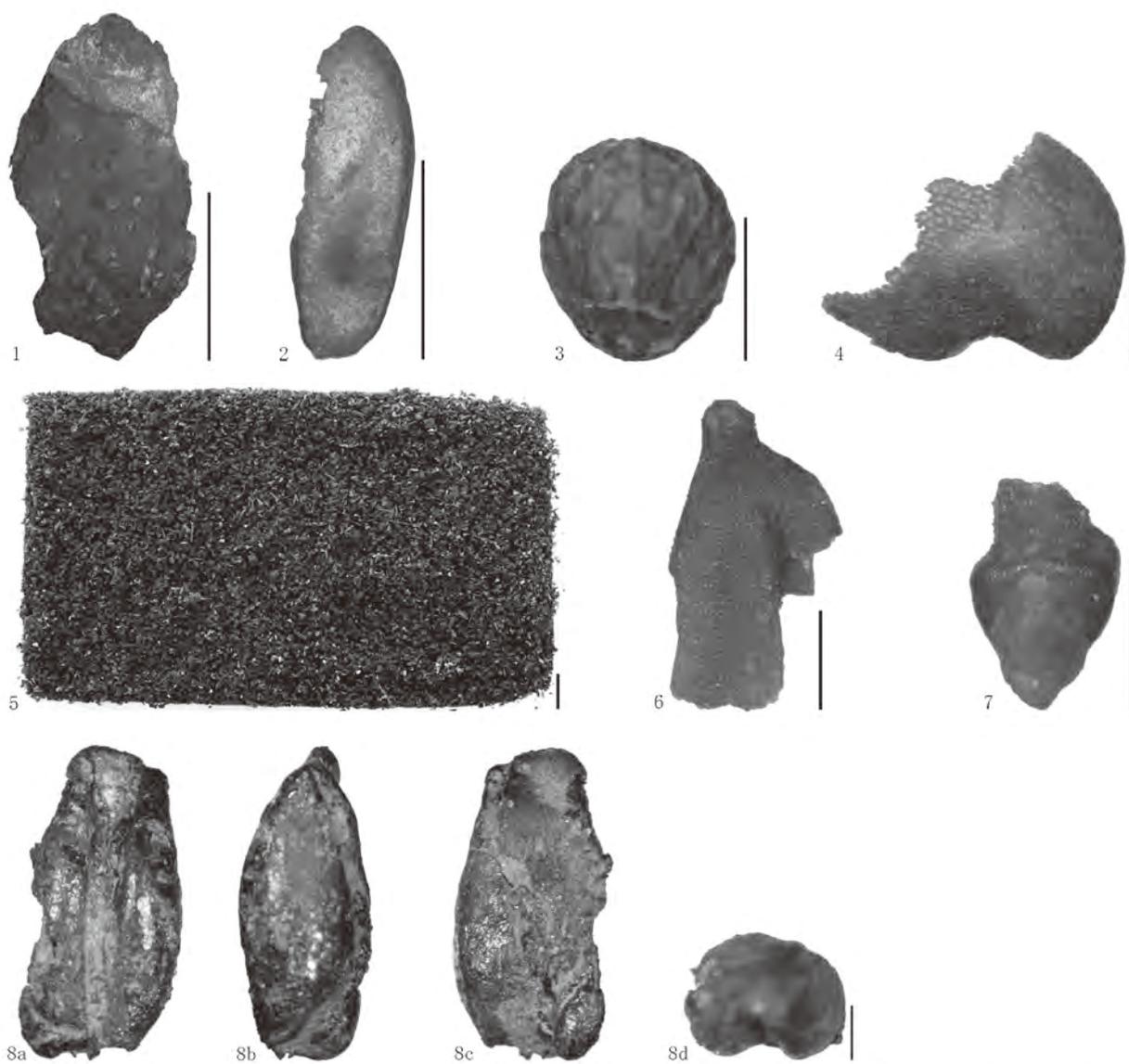
図版 14



スケール 1-2:5mm, 3-10:1mm

図版 14 北条小町邸跡の土坑 16 から出土した大型植物遺体

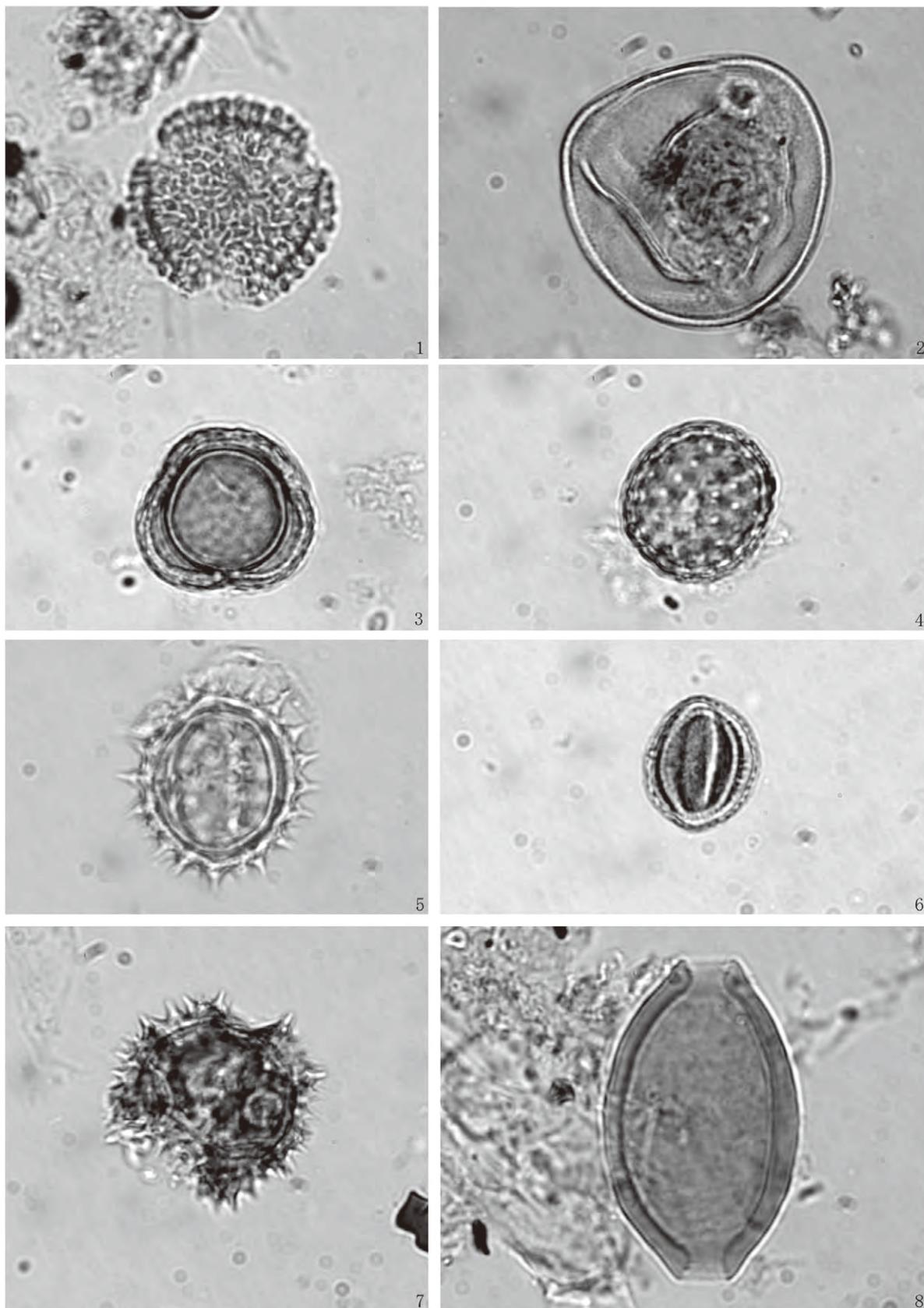
1・2. メロン仲間種子、3. キク科果実、4. ヒエ炭化種子、5. ヒエ属有ふ果、6. イネ籾殻、7. イネ小穂軸、
8. イネ炭化種子、9. アワ有ふ果、10. ワラビ裂片



スケール 1, 2:5mm, 3, 4, 6-8:1mm, 5:10mm

図版15 若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した大型植物遺体

- 1. クリ果実、2. メロン仲間種子、3. シソ属果実、4. ナス種子、5. イネ籾殻（全体）、6. イネ籾殻、
- 7. イネ小穂軸、8. オオムギ炭化種子



図版16 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群から産出した花粉化石・寄生虫卵

0.02mm

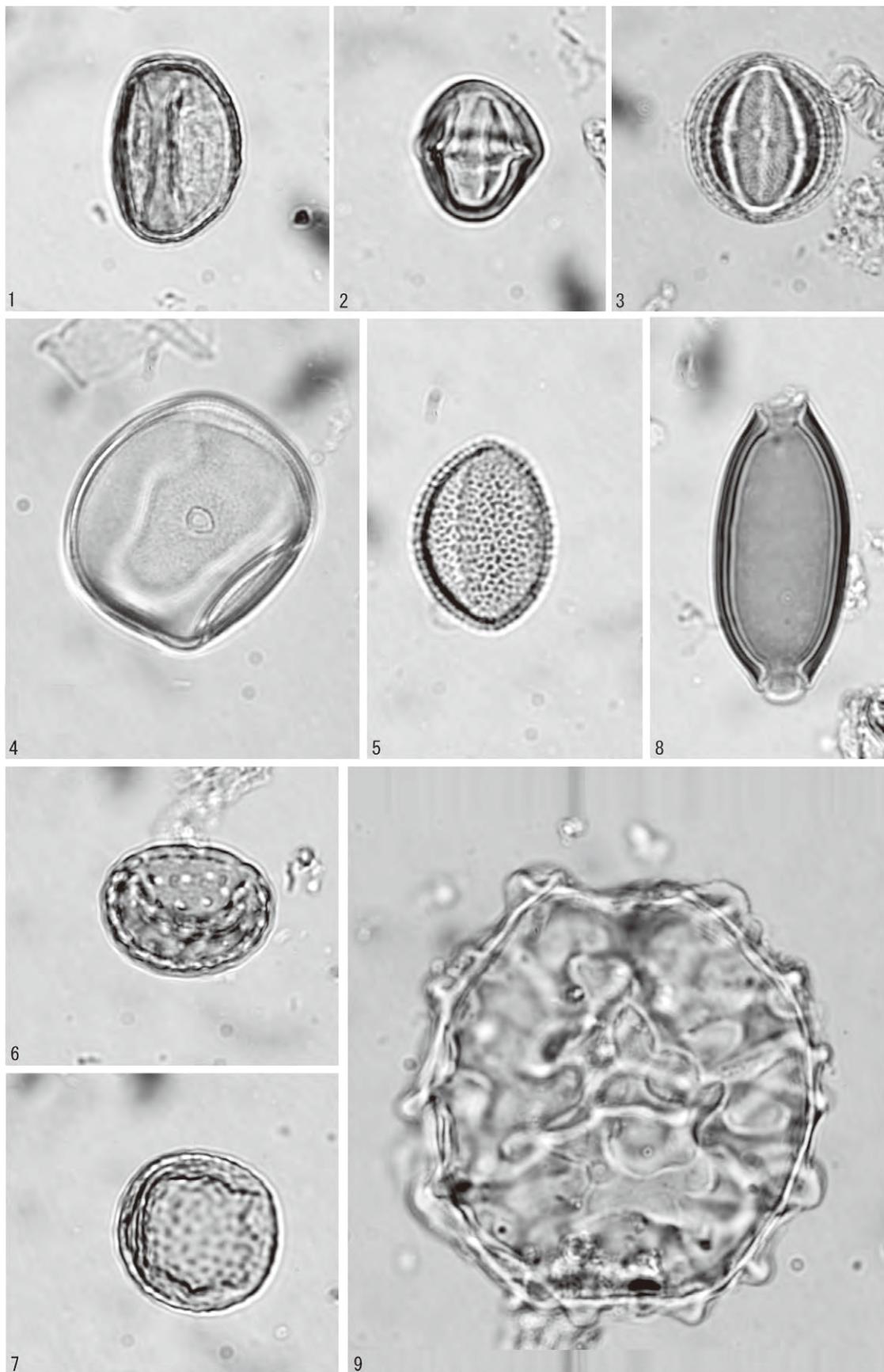
- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. イボタノキ属 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1577) | 2. イネ科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1578) |
| 3. ブタクサ属-オナモミ属 (北条小町邸跡 PLC. 1579) | 4. アカザ科-ヒユ科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1580) |
| 5. キク亜科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1581) | 6. ヨモギ属 (北条小町邸跡 PLC. 1582) |
| 7. タンポポ亜科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1583) | 8. 鞭虫卵 (北条小町邸跡 PLC. 1584) |



スケール 1, 2, 4, 5, 7-14: 1mm, 3, 6: 5mm

図版17 若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）の土坑5から出土した大型植物遺体

1. クワ属核、2. ブドウ属種子、3. カキノキ種子、4. ソバ果実、5. ゴマ種子、6. メロン仲間種子、7. シソ属果実、8. ナス種子、9. ナス属種子、10. イネ籾殻、11. イネ炭化籾殻、12. イネ炭化種子、13. エノコログサ属有ふ果、14. カヤツリグサ属果実



図版18 若宮大路周辺遺跡（土坑5）から産出した花粉化石・寄生虫卵

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. コナラ属コナラ亜属 (PLC. 1656) | 2. ワレモコウ属 (PLC. 1657) |
| 3. ヨモギ属 (PLC. 1658) | 4. イネ科 (PLC. 1659) |
| 5. アブラナ科 (PLC. 1660) | 6. アカザ科-ヒユ科 (PLC. 1661) |

0.02mm